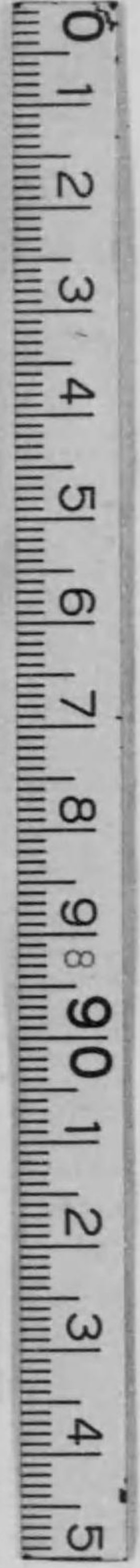


14.24
260



始



480

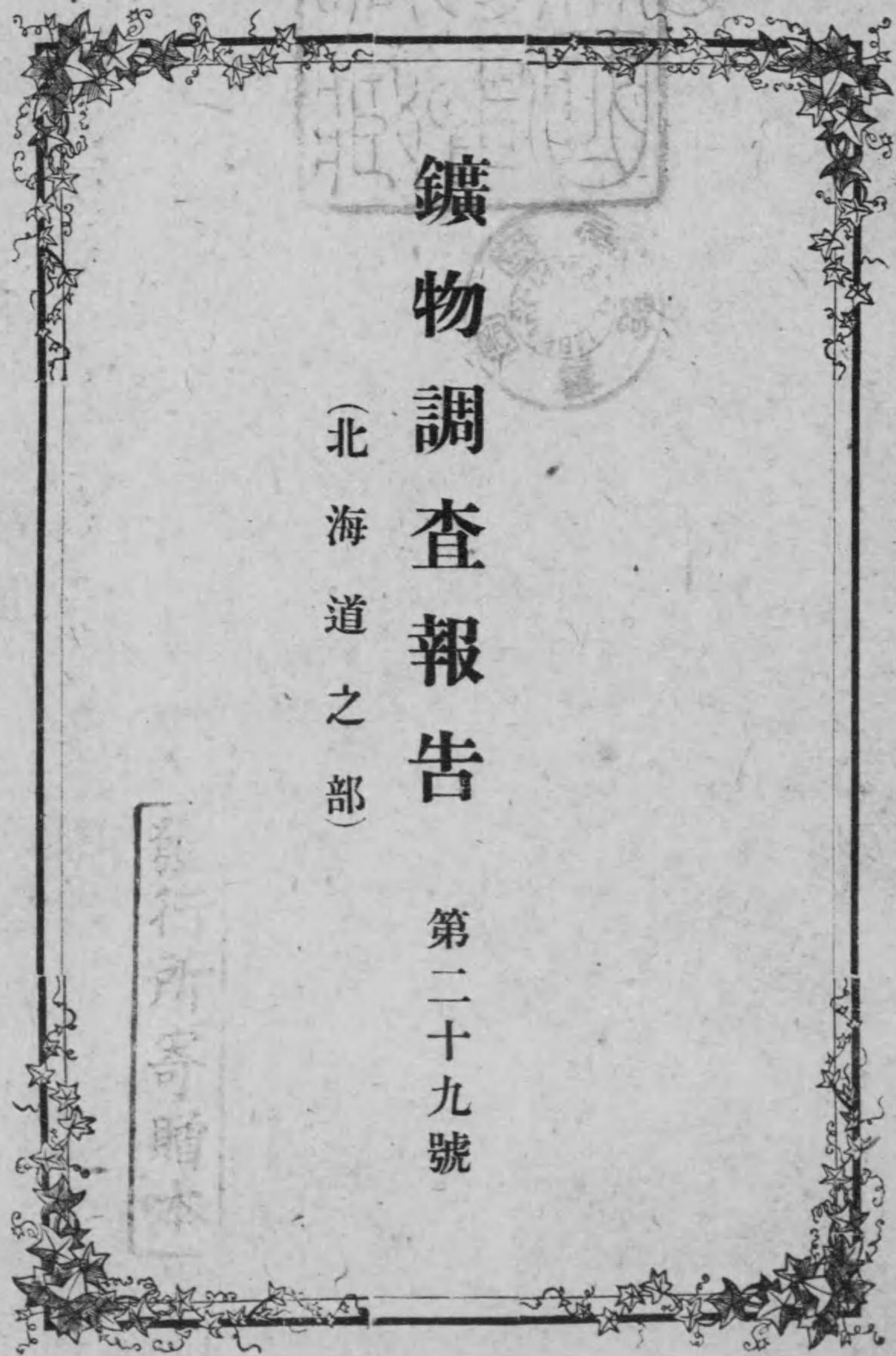


鑛物調查報告

(北海道之部)

第二十九號

發行所寄贈本





大正九年二月

鑛物調查報告

第二十九號

正

12 2. 6

製本

地質調查所

發行所寄贈本

鑛物調查報告第二十九號

目次

膽振國鐵鑛調查報文

膽振國鐵鑛調查報文

胆振國鐵鑛調查報文
第一編
第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章
第九章
第十章
第十一章
第十二章
第十三章
第十四章
第十五章
第十六章
第十七章
第十八章
第十九章
第二十章
第二十一章
第二十二章
第二十三章
第二十四章
第二十五章
第二十六章
第二十七章
第二十八章
第二十九章
第三十章
第三十一章
第三十二章
第三十三章
第三十四章
第三十五章
第三十六章
第三十七章
第三十八章
第三十九章
第四十章
第四十一章
第四十二章
第四十三章
第四十四章
第四十五章
第四十六章
第四十七章
第四十八章
第四十九章
第五十章
第五十一章
第五十二章
第五十三章
第五十四章
第五十五章
第五十六章
第五十七章
第五十八章
第五十九章
第六十章
第六十一章
第六十二章
第六十三章
第六十四章
第六十五章
第六十六章
第六十七章
第六十八章
第六十九章
第七十章
第七十一章
第七十二章
第七十三章
第七十四章
第七十五章
第七十六章
第七十七章
第七十八章
第七十九章
第八十章
第八十一章
第八十二章
第八十三章
第八十四章
第八十五章
第八十六章
第八十七章
第八十八章
第八十九章
第九十章
第九十一章
第九十二章
第九十三章
第九十四章
第九十五章
第九十六章
第九十七章
第九十八章
第九十九章
第一百章

膽振國鐵鑛調査報文

目次

緒言	一頁
一 敷生鑛山	二頁
(一) 位置及交通	二頁
(二) 沿革及現況	三頁
(三) 地勢	四頁
(四) 地質	四頁
(五) 鑛床	六頁
(六) 結章	四頁
二 「フーレシラウオイ」ノ鐵鑛	一五頁
(一) 位置及交通	一五頁

(一)	位置交通及沿革	三三頁
(二)	沿革及現況	一六頁
(三)	地勢	一六頁
(四)	地質	一七頁
(五)	鑛床	二〇頁
(六)	結章	二三頁
三 加留々壽鑛山		
(一)	位置及交通	二三頁
(二)	沿革及現況	二四頁
(三)	地勢及地質	二四頁
(四)	鑛床	二七頁
(五)	結章	三二頁
四 稀府ノ鐵鑛		
(一)	位置交通及沿革	三三頁

(二)	地勢及地質	三四頁
(三)	鑛床	三五頁
(四)	結章	四〇頁
五 辨慶鑛山		
(一)	位置交通及沿革	四一頁
(二)	地勢及地質	四二頁
(三)	鑛床	四四頁
(四)	結章	四六頁
六 「マロフーレベ」(パンケ)ノ鐵鑛		
(一)	位置交通及沿革	四七頁
(二)	地勢及地質	四八頁
(三)	鑛床	五〇頁
(四)	結章	五三頁

七 德舜瞥鑛山

五三頁

(一) 位置及交通

五三頁

(二) 沿革及現況

五四頁

(三) 地勢及地質

五四頁

(四) 鑛床

五六頁

(五) 結章

五九頁

八 太刀川鑛山

五九頁

(一) 位置交通及沿革

六〇頁

(二) 地勢及地質

六〇頁

(三) 鑛床

六三頁

(四) 結章

六七頁

九 虻田鑛山

六七頁

(一) 位置沿革及產額

六八頁

(二) 地勢及地質

六九頁

(三) 鑛床

七二頁

(四) 結章

七八頁

十 鑛床ノ成因

七九頁

膽振國鐵鑛調査報文

農商務技師 清野信雄

緒言

膽振國西部ニハ膽振、石狩兩國ノ境上ヲ北々西ヨリ南々東ニ走リテ「ムイネシリ」(一、四〇七米)、「キモーベツ」岳(一、一三〇米)等ヲ起シ更ニ南々西ニ延ヒテ「白老岳」(一、八八六米)、「トクシシユウシユベツ」山(一、二四二米)、登別岳(一、〇二二米)、來馬岳(一、〇八五米)、幌別岳(七九六米)及鷺別岳(九一八米)等ノ高峯ヲ連ネ室蘭附近ノ丘陵ニ連ナル分水山脈アリ、此山脈ノ北西方ニ長流川ヲ隔テ噴火灣ニ臨メル有珠岳(五九五米)ハ洞爺湖ヲ隔テ、遠ク北方ニ後別岳(九二一米)及「マッカリヌブリ」(一、九四三米)ノ秀峯ニ對ス、是等一帯ノ地域ハ那須火山脈ト千島火山脈トノ交錯セル處ニシテ主トシテ第



三紀層、石英粗面岩及安山岩ヨリ成リ一部ニ第四紀層發達ス、這般分水山脈ノ兩斜面及洞爺湖附近ノ山地ハ處々ニ褐鐵鑛床賦存シ其一部ニ就テハ既ニ明治四十四年故大日方技師之ヲ調査シ其結果ハ載セテ鑛物調査報告第八號ニアリ、本官ハ大正七年九月上旬北海道鑛物調査ノ命ヲ受ケ膽振國ニ赴キ十月下旬ニ至ル四十餘日間ニ於テ白老郡敷生鑛山及「フーレシラウイ」ノ鐵鑛、幌別郡加留々壽鑛山、有珠郡稀府ノ鐵鑛、辨慶鑛山、「マロフーレベ」ノ鐵鑛及德舜營鑛山、虻田郡太刀川鑛山及虻田鑛山ヲ調査セリ、茲ニ其結果ヲ報告ス

一 敷生鑛山(第一照版)

(一) 位置及交通

敷生鑛山ハ白老郡敷生村字「モシキウ」ニアリテ「モシキウ」川ノ支流赤川ノ中流地ニ位ス、本鑛山ニ至ルニハ敷生驛ヨリ上「トビウ」部落マテ約二里ノ間ハ原野ヲ過キ、茲ニ「モシキウ」川ヲ渡リ、其北西方ニ山地ヲ進ムコ

ト約一里ニシテ達スヘク此間車馬ヲ通スヘシ、現時敷生驛ヨリ上「トビウ」ニ至ル四里半ノ軌道ノ敷設ト上「トビウ」ヨリ採鑛場ニ至ル約三哩半ノ索道ノ建設トヲ企劃シ孰レモ工事中ニアリ、竣成ノ上ハ一日約百噸ノ鑛石ヲ北海道製鐵株式會社輪西製鐵所ニ輸送スル計畫ナリト云フ

(二) 沿革及現況

本地域ハ元ト硫黃鑛ノ爲メニ試掘セラレ鐵鑛床ハ大正三年福岡岩吉、宮地靜馬兩人ノ發見ニ係レリ、大正四年十月澁谷嘉助初メテ硫黃鑛ノ試掘ヲ開始セシモ品質不良ノ爲メ約一年ニシテ休業シ、大正六年六月更ニ鐵鑛ノ採掘ヲ開始シ同年三月マテニ約四千噸ノ鑛石ヲ室蘭製鋼所ニ輸送セリ、而シテ同年一月上「トビウ」ニ小型ノ熔鑛爐ヲ建設シ三箇月間ニ七噸餘ノ銑鐵ヲ製出セリト云フ、同年四月澁谷氏ハ本鑛山ヲ北海道製鐵株式會社ニ讓渡シ同會社ハ採鑛及採鑛ヲ繼續シ現時採鑛場ニハ約三千噸ノ鑛石ヲ蓄積セリ

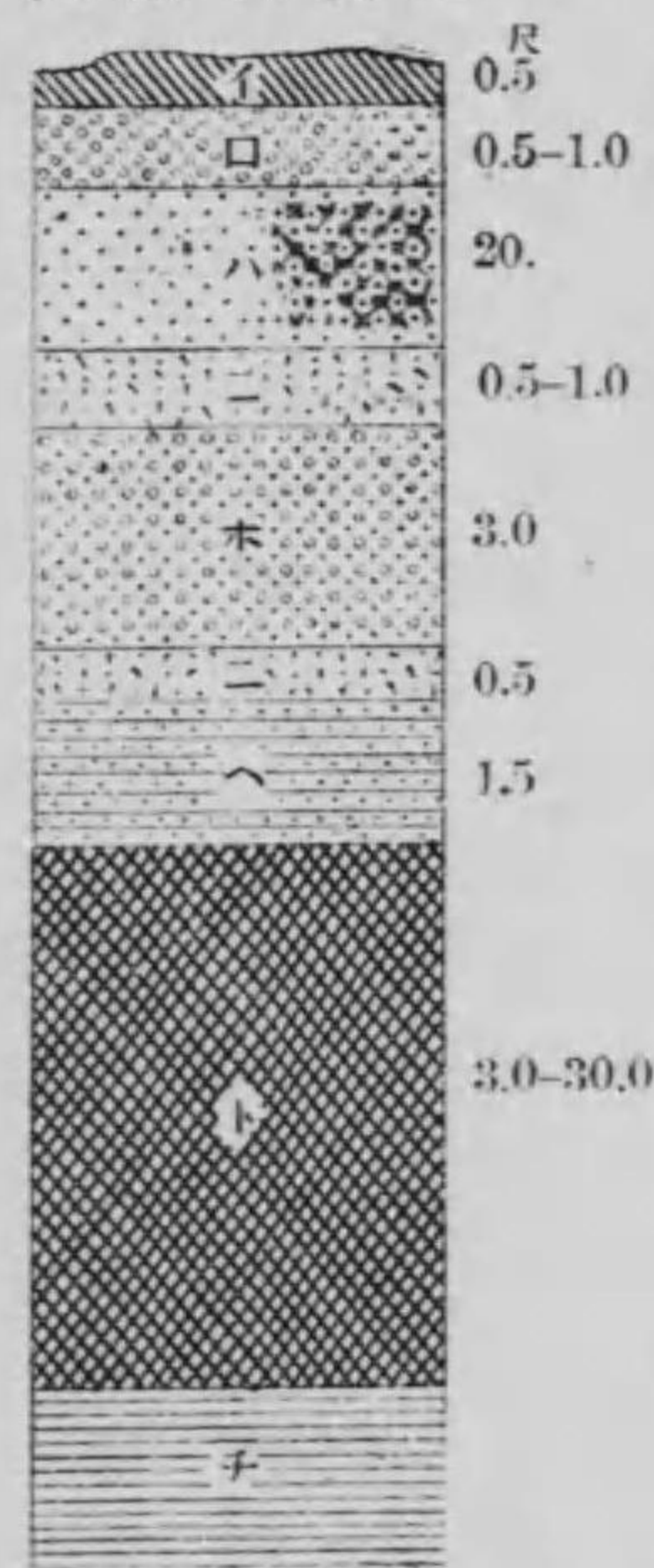
(三) 地 勢

本地域ハ白老郡敷生村ノ北東隅ヲ占メ、白老、有珠二郡ノ境界ニ沿ヒ北北東ヨリ南々西ニ「トクシユウシュベツ」山ト登別岳トヲ連ヌル山脈ノ餘派蟠リ全ク山岳ノミナレトモ高峯、峻嶺ナク其最高點モ五百米内外ニ過キスシテ緩慢ナル波狀ノ臺地ヲナシ徐々ニ南東方ニ低下ス、河流ハ赤川及北之澤ヲ主要ナリトシ、兩河ハ略ホ並走シテ北西ヨリ南東ニ流下シ峡谷ヲナス處多シ、赤川ハ本地域ノ中央ヲ貫流シ鑛床ハ主トシテ此沿岸ニ賦存ス、此河岸ニハ處々ニ含鐵水滲出シ河床ニ水酸化鐵沈澱シテ赤褐色ヲ呈ス、是レ此河ヲ赤川ト呼フ所以ナリ、赤川ハ北之澤ト合シ「モシキウ」川ニ入ル、「モシキウ」川ハ源ヲ「トクシユウシュベツ」山ニ發シ數多ノ支流ヲ合シテ敷生川トナリ敷生驛ノ南西方ニテ海ニ朝ス

(四) 地 質

本地域ハ普ク火山灰ニヨリテ被覆セラレ、加フルニ森林深ク或ハ雜草繁茂シ岩石ハ僅ニ赤川及北之澤ノ溪谷ニ露出スルノミ
地質ハ凝灰岩、輝石安山岩及火山灰ナリトス、此外河岸ニハ處々ニ洪積層ノ階段地ヲナセルモノアルモ區域狭小ナルヲ以テ之ヲ地質圖上ニ塗色セス、凝灰岩ハ本地域ノ基盤ヲ構成シ黝色ニシテ多少角蠻狀ヲ呈シ往々炭化セル樹枝ヲ含ミ多孔質ニシテ柔軟ナリ、然レトモ硫黃第一號舊坑附近ノモノハ著シク硅化シ同第二號舊坑附近ノモノハ白色ノ粘土ニ變質セリ、輝石安山岩ハ熔岩ヲナセルモノト及集塊岩ヲナセル

第一圖
敷生鑛山
地質柱狀圖



イトヘホニハロイ
凝鐵火山浮火浮土
灰鐵砂交り山山
岩床土灰砂灰石塊

集塊岩ヲ
ニ露出シ
澤ノ上流
者ハ北之
別アリ、前
モノトノ

被覆セリ、岩石ハ灰色又ハ暗灰色中粒ニシテ堅硬ナルモノト稍粗鬆ナルモノトアリ、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ玻璃質石基中ニ斜長石、普通輝石及紫蘇輝石ノ斑品散點シ兩輝石安山岩ニ屬セリ、火山灰ハ火山灰砂、浮石等ヨリ成リ四五尺乃至十數尺ノ厚サヲ有ス、其断面ハ第一圖ニ示スカ如シ、浮石ハ白色又ハ帶黃白色ニシテ五分乃至一二寸ノ塊片ヲナシ厚サハ普通一二尺ナルモ時ニ四五尺ニ達スル處アリ、洪積層ハ小域ヲ領スルモノニシテ砂礫ヨリ成リ砂礫ハ主ニ輝石安山岩ニ屬ス

鑛泉ハ硫黃第一號舊坑道ノ引立ヨリ盛ニ噴出シ硫質泉ニシテ水量豊富ナリ、其分析ノ結果ハ左ノ如シ(十萬分中)

反	應	比重(攝氏一五・五度ニ於ケル)	全固形物	硅酸	酸化鐵及礬土	「カルシウム」	「マグネシウム」	「ソヂウム」	「ポタシウム」	硫酸	鹽素	「アンモニウム」
弱酸性		1.000	47.3	27.6	1.48	3.52	0.6	1.8	痕跡	37.4	0.4	0.11

其他處々ニ含鐵水ノ滲出セルモノアルモ孰レモ水量ニ乏シ

(五) 鑛床

鑛床ハ褐鐵鑛ノ鑛層ニシテ洪積層ニ屬シ赤川中流ノ沿岸ニ處々ニ賦存シ略ホ地形ト一致シテ緩傾斜ヲナス、其厚サハ數尺乃至三十餘尺ナリ、鑛床ノ上ハ厚サ數尺乃至十餘尺ノ火山灰ニシテ鑛床ノ下ハ凝灰岩時ニ凝灰岩ヲ被覆スル洪積期ノ砂礫層ナリ

主要鑛床ハ三箇處ニ存在ス、之ヲ第一號鑛床、第二號鑛床及第三號鑛床ト稱ス、第二號鑛床ハ最も廣域ヲ占メ現時盛ニ採掘セラレ、第一號鑛床ハ既ニ大部分採掘セラレ餘ストコロ多カラス、第三號鑛床亦大部分採掘セラレ其下部ノ殘存スルノミ

第一號鑛床ハ最も東ニアリテ赤川ニ臨ミ其延長百八十尺、幅八十尺ニシテ面積一萬千百平方尺(三百餘坪)ヲ領ス、鑛層ノ厚サハ河岸ニ於テ十尺アリシト云ヒ漸次東方(山向)ニ尖滅スルモノ、如ク現時採掘ヲ中止セリ、同處ニテ表土ノ厚サハ十數尺ナリ、第八號、第九號、第十號ノ各試錐ニヨルニ此東方ニハ鑛石ノ存在セサルコトヲ知レリ、即チ本鑛床ハ既ニ其大部分採掘セラレタリ、其總採掘量四千噸ニシテ内二千噸ハ前

鑛主ノ時採掘セラレ二千噸ハ採掘セラレタルマ、蓄積セリ
 第二號鑛床ハ第一號鑛床ノ北西ニ隣接シ赤川ニ入ル小澤ノ舊河床ニ
 略ホ長橢圓形ノ一區ヲ劃シ長サ四百五十尺、幅百尺ニシテ面積四萬二
 千四百七十平方尺(千百八十坪)ヲ占ム、表土ハ十尺内外ニシテ其上ニハ
 熊笹及雜草繁茂セリ、鑛層ノ厚サハ變化多ク東部ニ於テハ三十二尺ニ
 達スルモ中央部ニハ二十尺内外ニ縮迫シ試錐第五號附近ニ於テハ四
 尺トナレリ、即チ鑛層ハ南東(川下)ヨリ北西(山向)ニ漸次ニ其厚サ薄ク恰
 モ楔狀ヲナシテ胚胎セリ、唯其南西及北東ノ兩側ニハ厚サ七八尺ヨリ
 遽カニ一二尺ニ縮迫セル處アリ
 第三號鑛床ハ第二號鑛床ノ南方ニ存シ赤川ニ沿ヒテ塔段ヲナセル砂
 礫層ノ上ニ座ス、其延長二百三十尺、幅八十尺ニシテ面積一萬五千平方
 尺(四百二十坪)ヲ占メ、厚サハ河岸ニ於テ十二尺ニシテ北方ニ漸次菲薄
 トナル、本鑛床ハ前鑛主ノ時代ニ約二千噸採掘セラレタリト云ヒ現時
 ハ下部ニ約三尺ノ厚サヲ有スル鑛層ノ殘存スルノミ

以上ノ外第四號、第五號、第六號ノ三鑛床ノ露頭アルモ孰レモ薄層ニシ
 テ鑛量多カラス、内第四號鑛床ハ硫黃第一號舊坑口ノ對岸ニ賦存スル
 モノニシテ稍廣域ヲ領シ赤川沿岸ノ露頭ニ於テハ七八尺ノ厚サヲ有
 スルモ西方ニ直ニ尖滅セリ
 本地域内ノ處々ニ施行セシ試錐ノ結果ヲ左ニ掲ク、但シ厚サハ尺ヲ以
 テ之ヲ示セリ

試錐番號	表土厚サ	鑛層厚サ	火山灰厚サ	凝灰岩厚サ	備考
第一號	一一・四五	一〇・五九	七・三八	二〇・八四	
第二號	一三・五〇	二・六五	四・五〇	三七・五〇	
第三號	一三・五四	一四・八九	五・〇九	一〇・一五	
第四號	一六・六七				土砂崩壞ノ爲メ中止
第五號	一四・九七				鑛區境界問題ノ爲メ中止

第十六號	第十五號	第十四號	第十三號	第十二號	第十一號	第十號	第九號	第八號	第七號	第六號
三四・四五	二四・二〇	三七・四三	一六・〇〇	二〇・二〇	二四・六〇	二二・〇五	一一・六一	一九・三〇	三〇・五七	一五・四二
									〇・七〇	一・一〇
									五・六〇	
七・〇〇	〇・五〇	五・八二							九・三〇	
				大ナル礫ニ達者セシ爲メ 中止	同	土砂崩壊ノ爲メ中止	試錘器墜落ノ爲メ中止	土砂崩壊ノ爲メ中止		同

第十七號	第十八號
八・七〇	八・八五
一七・二〇	
大ナル礫ニ達者セシ爲メ 中止	

鑛石ハ暗褐色、赤褐色或ハ黄褐色ヲ呈シ、檜、熊笹等ノ樹幹、枝葉及蘚苔類
 ヲ多量ニ含有シ、多孔質ニシテ或ハ脆弱ナルモノ或ハ土狀ノモノアル
 モ亦堅硬ニシテ孔竅ニ乏シキモノアリ、其構造ハ或ハ均質ナルモノ、安
 山岩ノ角礫ヲ含ミテ角蠻狀ヲナスモノ或ハ豆粒狀ヲナスモノ等アリ、
 鑛石ハ上鑛、中鑛及下鑛ニ區別スルコトヲ得、上鑛ハ暗褐色ニシテ亞金
 屬光澤ヲ有シ、質堅硬ニシテ孔竅少ナク且ツ不純物ヲ雜フルコト甚タ
 少量ナルモノナリ、中鑛ハ黄褐色ニシテ光澤ナク孔竅ニ富ムカ或ハ角
 蠻狀又ハ豆粒狀ヲ呈シ、前者ニ比シテ脆弱ナリ、下鑛ハ黄褐色ヲ呈シ多
 孔質粗鬆ニシテ甚タ脆ク多量ニ安山岩礫ヲ膠結セリ
 本所分析係ニ於テ、採取セル鑛石ヲ試験セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

鑛石別	矽酸	銅	鐵	滿	僱	「チタニウム」	燐	硫黃	灼熱減量
第二號鑛床上鑛	四・四四	現存セス	五二・三六	現存セス	現存セス	現存セス	現存セス	〇・一五	一八・三八
同 中鑛	一四・五五	同	四四・二四	同	〇・二四	同	同	〇・二四	一四・七九
第三號鑛床下鑛	二一・五四	同	三九・三四	〇・〇九	〇・二八	痕跡	〇・二八	一五・五〇	

北海道製鐵株式會社ニテ分析セシ結果ハ左ノ如シ(百分中)

鐵	五二・八〇	滿	僱	〇・二二	燐	〇・二二
---	-------	---	---	------	---	------

本鑛山鑛床ノ現時確認セラレタル賦存區域ハ第一版ニ示スカ如ク其厚サハ露頭、試錐及採掘ノ結果ニヨレハ平均三尺乃至十三尺ナリ、而シテ鑛石十七立方尺ノ重サヲ一噸トシテ計算セルニ鑛量概算四萬六千噸ナリ、即チ左ノ如シ

區域	鑛床面積(平方尺)	同 平均厚サ(尺)	同 容積(立方尺)	同 重量(噸)
第一號	一一、一〇〇	六・五	七二、一五〇	四、二四〇
第二號	四二、四七〇	一三・〇	五五二、一一〇	三二、四八〇
第三號	一五、〇〇〇	七・五	一一二、五〇〇	六、六二〇
第四號	一五、七〇〇	三・〇	四七、一〇〇	二、七九〇
合計	八四、二七〇		七八三、八六〇	四六、一三〇

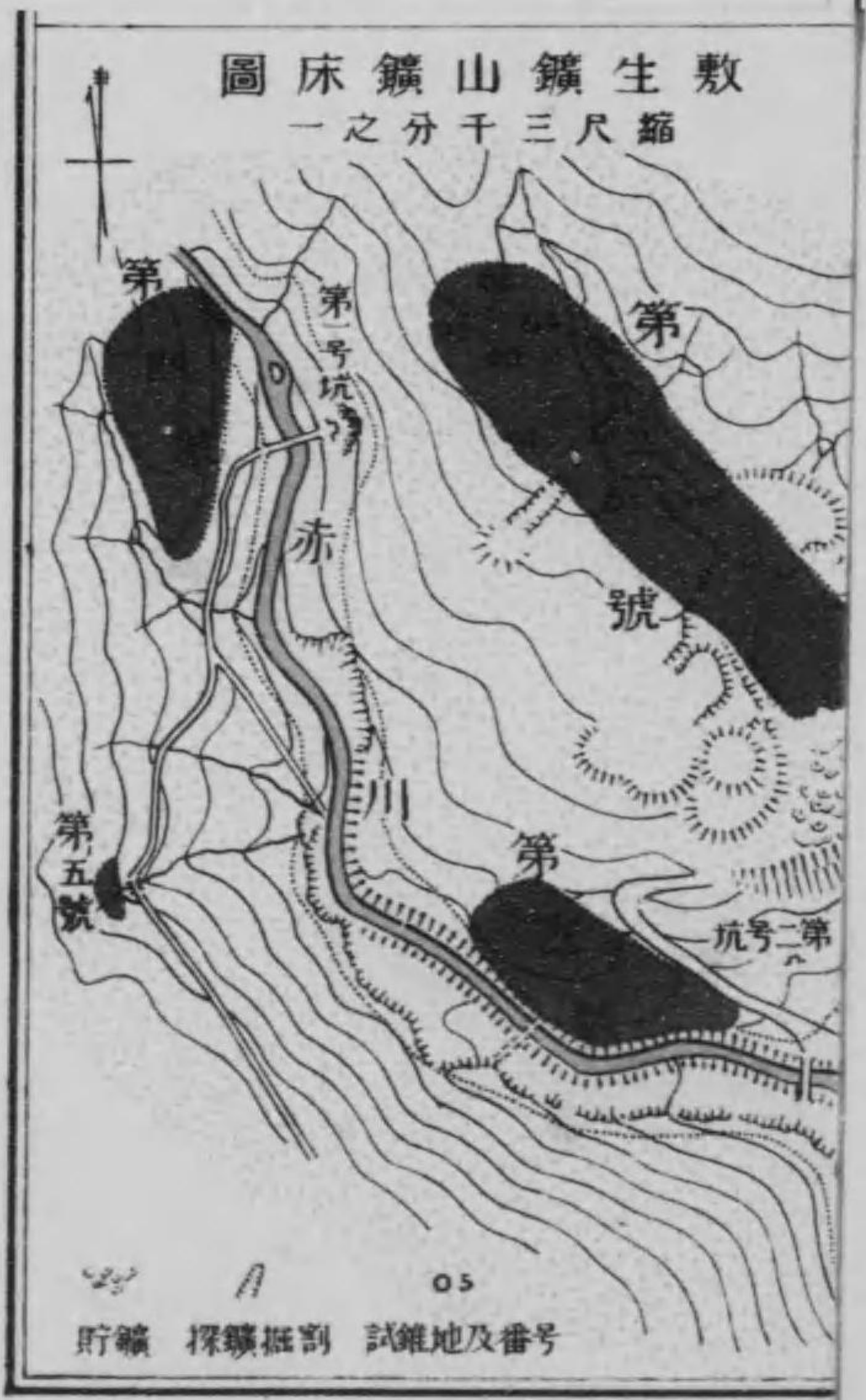
本地域内ニハ現ニ鐵分ヲ含メル水滲出シテ粗鬆ナル褐鐵鑛ヲ沈積シツ、アル處アリ、第四號露頭附近ニ於テハ河岸ニ生育セル蘚苔ノ根部ニ鐵分沈澱シ柔軟粗鬆ナル鑛石ヲ成生セリ
(附) 硫黃鑛床 本鑛山ハ硫黃鑛ノ試掘ヲ目的トシテ開發セラレシモノナルコト既述ノ如シ

硫黃鑛床ハ凝灰岩中ニ胚胎シ第一號及第二號ノ二坑道ハ之ヲ探鑛セシモノナリ、第一號坑道ハ北八十度東ニ向ヒ約三百尺掘進シ其引立ニ

於テハ硫黄ハ或ハ硅化セル凝灰岩ノ裂罅ニ小ナル脈狀ヲナシ、或ハ岩石中ニ浸潤セルモ探掘ニ堪フルモノニアラス、本引立ヨリハ硫質泉盛ニ噴騰ス、第二號坑道ハ坑内廢頽シ同坑内ニ於ケル鑛床ノ狀態明カナラス、蓋シ硫質噴氣ハ地下ヨリ上昇シ來リテ凝灰岩ヲ分解變質スルト共ニ之ニ含有セラレタル硫黄ハ遊離シテ或ハ岩石ノ裂隙ヲ充填シテ脈狀ヲナシ或ハ岩石中ニ浸潤セシモノナラン、本地域ニハ未タ探掘ニ堪フヘキ良質ノ鑛石ヲ發見セス、又現ニ見ル硫黄鑛ハ多量ノ砒素ヲ含有ス、硫黄鑛ハ恐ラクハ囑望スヘキ鑛床ニアラサルヘシ

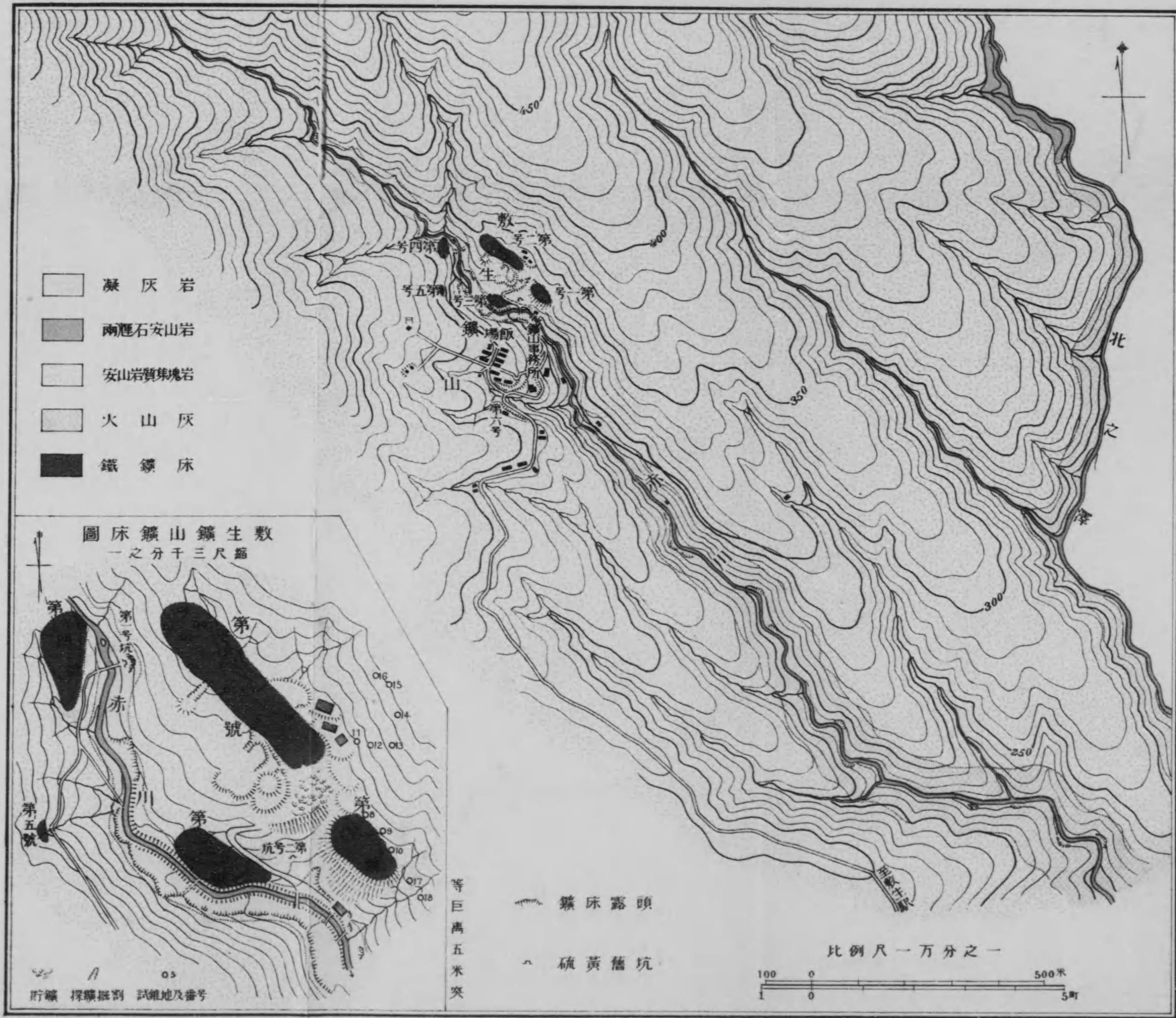
(六) 結 章

本鑛山ノ既知鑛量ハ約五萬噸ニシテ豐富ナリト云フヘカラサルモ其品位良好ニシテ探掘ノ價値アルノミナラス既知鑛床ノ外向探鑛スヘキ地域アリ、蓋シ鑛床ハ凝灰岩又ハ砂礫層上ニ座シ是ヨリ以下ニハ存在セサルナリ



圖質地山鑛生敷國振膽

第一版



在セサルナリ

(六) 結 章

本鑛山ノ既知鑛量ハ約五萬噸ニシテ豐富ナリト云フヘカラサルモ其
 價値アルノミナラス既知鑛床ノ外向探鑛スヘ
 凝灰岩又ハ砂礫層上ニ座シ是ヨリ以下ニハ存
 有ス、硫黃鑛ハ恐ラクハ囑望スヘキ鑛床ニアラサルヘシ
 脈狀ヲナシ或ハ岩石中ニ浸潤セシモノナラン、本地域ニハ未タ探掘ニ
 堪フヘキ良質ノ鑛石ヲ發見セス、又現ニ見ル硫黃鑛ハ多量ノ砒素ヲ含
 其ノ之ニ含有セタル硫黃ハ遊離シテ或ハ岩石ノ裂隙ヲ充填シテ

高距ハ海面上十米突、毎二一線ヲ描ク

比例尺一万分之一
 100 0 500米
 1 0 5町

等巨萬五米突
 鑛床露頭
 硫黃鑛坑

圖床鑛山鑛生敷
 一之分千三尺縮
 貯鑛 探鑛區劃 試鑛地及番号

本鑛山ノ北方ニハ近ク「フーレシラウオイ」鐵鑛地ノアルアリ、其開發セラ
ル、ニ至レハ本地域ハ其鑛石運搬ノ仲繼所トシテ亦重要ナル地位ニ
アルヘシ

二 「フーレシラウオイ」ノ鐵鑛(第二照圖)

(一) 位置及交通

「フーレシラウオイ」ノ鐵鑛地ハ白老郡白老村字「フーレシラウオイ」ニ屬シ白
老川ノ支流ナル「ベケレシラウオイ」ノ一溪流「フーレシラウオイ」ノ上流ニ位
シ敷生鑛山ノ北方二里餘ヲ距ツ、本鐵鑛地ハ室蘭線白老驛ヨリ白老川
ニ沿ヒ北々西約三里ニシテ川ヲ離レ支流「ベケレシラウオイ」ニ沿ヒテ有
珠郡德舜營村ニ通スル豫定拓殖道路ヲ進ムコト約一里、更ニ「フーレシ
ラウオイ」川ニ沿ヒ西ニ約一里半ニシテ達スヘシ、此間白老川本流ノ沿道
ハ車馬ヲ通スルモ其他ハ僅ニ駄馬ヲ通スルノミ、白老村ハ村役場ノ所
在地ニシテ戸數約二百アリ本郡ニ於ケル主要ノ部落ナレトモ沿道ニ

ハ約三四十ノ人家點在スルノミニシテ鐵鑛地ヨリ一里半ノ間ハ全ク人家ヲ見ス

(二) 沿革及現況

本鑛床ハ大正三四年ノ交福岡宮地ノ兩人「フリーレシラウオイ」河床ニ水酸化鐵沈澱シ赤褐色ヲ呈セルニ著目シ之ヲ湖リテ初メテ發見セシモノナリト云フ、大正五年澁谷嘉助試掘ノ許可ヲ得タルモ何等施設ヲナスニ至ラスシテ同七年四月敷生鑛山ト共ニ之ヲ北海道製鐵株式會社ニ讓渡セリ、同會社ハ敷生鑛山ヲ經營スルト共ニ本鑛床ヲ採掘シ其鑛石ハ之ヲ敷生鑛山ヲ經テ輪西製鐵所ニ輸送セントシ現時敷生鑛山ニ至ル約四哩半ノ索道ノ架設ニ著手シ大正八年六月頃之ヲ完成セシメントス、竣工ノ上ハ一日約三百噸ノ鑛石ヲ搬出スル豫定ナリト云フ

(三) 地勢

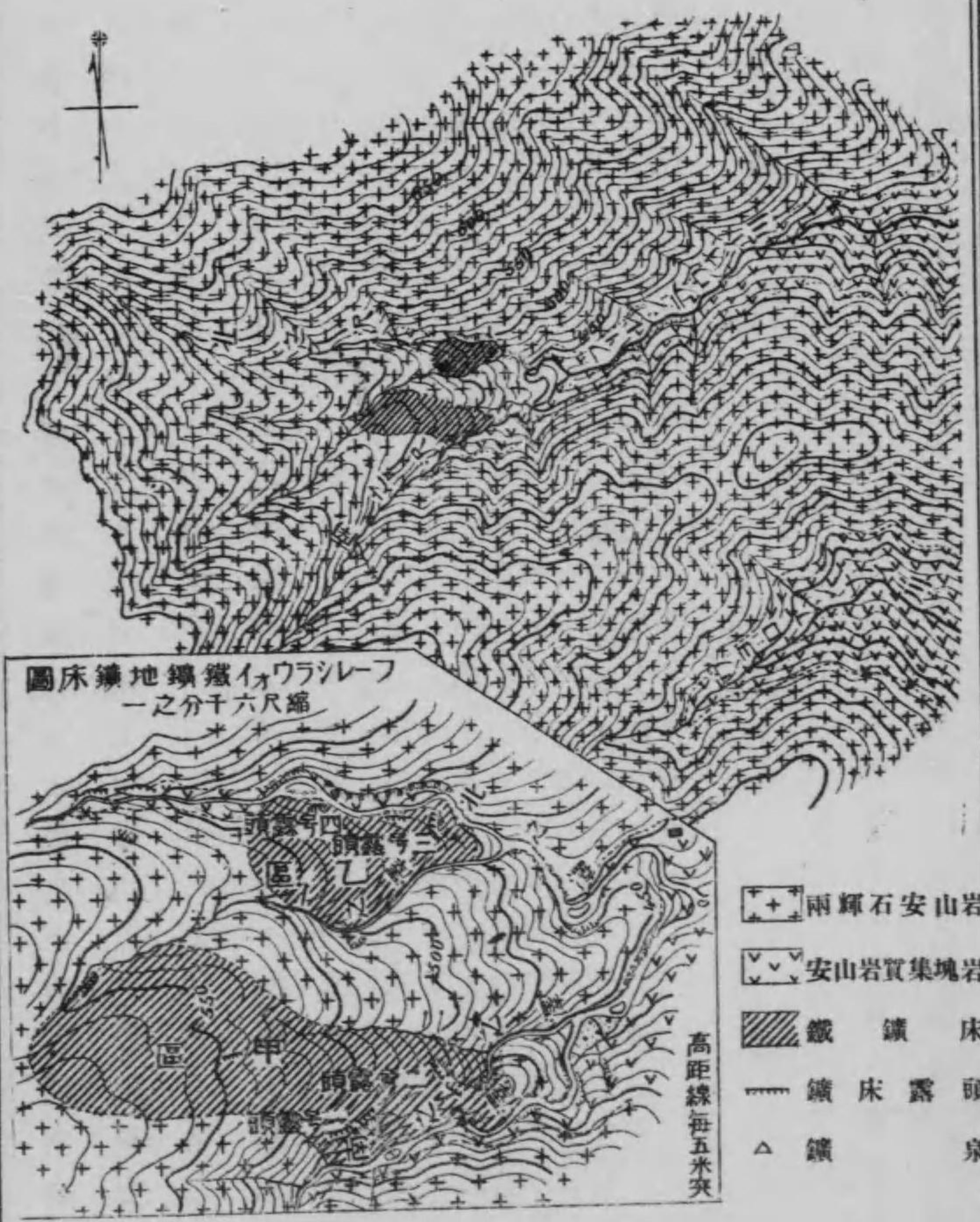
本地域ハ白老、有珠ノ兩郡ヲ劃シ北々東ヨリ南々西ニ互レル山脈ノ東

側ニアリテ海拔平均六七百米ノ山地ヲナシ次第ニ東方ニ低下ス、本地域ノ中央ヲ流ル、「フリーレシラウオイ」川ハ敷生村界ニ近ク發源シ上流ハ北之澤及南之澤ノ二溪流ヲナス、北之澤ニハ支流一之澤アリ、南之澤ニハ二之澤ノ支流アリ、鑛床ハ北之澤及南之澤ノ沿岸ニ賦存シ鑛床附近ヨリ以東「ベケレシラウオイ」川ニ會スルマテ里餘ノ間河床ノ砂礫ハ水酸化鐵ノ皮膜ニ被ハレ赤褐色ヲ呈セリ、是レ此川ヲ「フリーレシラウオイ」ト呼フ所以ナリ、「フリーレ」ハ「アイヌ」語ニシテ赤色ヲ意味ス、本地域ノ南部ニハ「ウヨロアンナイ」川アリテ略ホ「フリーレシラウオイ」ト並流セリ、兩河ハ共ニ白老岳トトクシシユシユベツ山トノ間ニ發源スル「ベケレシラウオイ」川ノ支流ニシテ兩岸絶壁ヲナセル處多ク又處々ニ瀑布アリ

(四) 地質

地質ハ頗ル簡單ニシテ兩輝石安山岩及其集塊岩ナリ、岩石ハ灰色又ハ暗灰色ヲ呈シ中粒ニシテ斑品多ク石基ハ緻密ニシテ玻璃質ナリ、之ヲ

圖 二 第
圖質地鐵鐵[イ]ウラシレーフ[國振膽]
一之分萬二尺縮



ク描ヲ線一ニ每突米十上面海ハ距高

顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ暗褐色ノ玻璃ヨリ成リテ斜長石、輝石及磁鐵鑛ヲ含ミ南之澤沿岸ノ岩石ハ玻璃基流品質構造ヲ呈セリ、斑品ニハ斜長石及普通輝石ノ外多量ノ紫蘇輝石アリ、岩石ハ甚シク分解シ概ネ厚キ表土ヲ以テ被ハレ加フルニ森林草叢密ニ繁茂シ岩石ノ露頭ハ僅ニ溪流ノ沿岸ニ於テ之ヲ認ムルコトヲ得ルノミ、集塊岩ハ本地域ノ下部ヲ構成シ「フーレンシラウオイ」及「ウヨロアンナイ」兩河ノ沿岸及河床ニ露出ス、兩輝石安山岩ハ熔岩流トシテ集塊岩ヲ被覆シ北之澤及「ウヨロアンナイ」沿岸ニハ安山岩ノ柱狀及板狀ノ節理ヲ呈スル處アリ、鑛泉ハ二箇處ニ湧出ス、一ハ南之澤ノ河床ヨリ噴騰シ一ハ支流二之澤ノ水源ヲナシ二號露頭ノ東側面ヨリ流下ス、兩泉共ニ水量頗ル豐富ナリ、是等鑛泉ヲ本所分析係ニテ分析セシニ其結果左ノ如シ(十萬分中)

鑛泉	反 應	比攝氏五 重五度ニ 於ケル	全固形物	硅 酸	酸化鐵 及礬土	「カルシ ウム」	「マグネ シウム」	「ソヂ ウム」	「ホタツ シウム」	硫 酸	鹽 素	「アンモ ニウム」	水 素
南之澤 鑛泉	弱酸性	一〇〇〇	五〇〇	三・四	三・四	九・七	〇・九五	二・六	痕 跡	三・七	〇・七九	現 存	セ 斯

二之澤	同	一〇〇〇	五〇〇	三〇〇	五〇八	八〇〇	一〇六	一〇三	同	三〇三	〇〇九	〇〇三	現存
-----	---	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----	----

(五) 鑛床

鑛床ハ褐鐵鑛層ニシテ北之澤、南之澤間ノ山地ヲ構成スル兩輝石安山岩及集塊岩ノ上ニ沈積シタルモノナリ、其厚サハ十數尺乃至數十尺ニシテ略ホ水平ノ層位ヲ示スモ澤ニ向ヒテ五度以外ニ傾斜セル處アリ、表土ハ概シテ薄ク二三尺ヲ普通トシ概ネ赤土ヨリナル、鑛床ハ二箇處ニ賦存ス、之ヲ甲區及乙區ト云フ

甲區ノ鑛床ハ南之澤ト二之澤及一之澤上流トノ間ニ擴カリ其區域ハ東西ニ延ヒ延長一千五十尺、幅平均二百六十尺ニシテ面積約二十八萬五千平方尺(七千九百坪)ナリ、厚サハ一定セスシテ南之澤ノ一號露頭及二之澤ノ二號露頭ニ於テ最モ厚ク前者ハ二十尺、後者ハ四十尺ノ斷崖ヲナス、概シテ東部ニ厚ク西部ニ漸次尖滅スルモノ、如ク平均二十五尺ヲ下ラサルヘシ、鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ緻密ニシテ孔竅少ナキモノ、粗

鬆ニシテ母岩ノ塊片ヲ含ミ角疊狀ヲナスモノ等アリテ品位概ネ良好ナリ

乙區ノ鑛床ハ北之澤ト支流一之澤トノ間ニアリテ亦東西ニ長ク延長五百尺ニ達シ幅平均二百尺ニシテ面積約九萬六千平方尺(二千五百坪)アリ、鑛床ハ北之澤ニ臨メル三號露頭ニ於テ高サ三十尺ノ崖壁ヲナシ延長百五十尺ニ及ヘリ、而シテ本露頭ヨリ上流ナル四號露頭ニ於テハ其厚サ十尺ナリ、其他一之澤ニ沿ヒテ露出スル數箇處ノ鑛床ハ孰レモ小ニシテ厚サ三尺乃至六尺ナリトス、蓋シ本鑛床ハ三號露頭ニ於テ最モ厚ク漸次西方ニ尖滅スルモノ、如ク其平均ノ厚サハ二十尺内外ナルヘシ、鑛石ハ角疊狀ヲ呈シ粗鬆ニシテ孔竅多シトス

本所分析係ニ於テ鑛石ヲ試驗セル結果ハ左ノ如シ(百分中)

鑛石別	硅酸	銅	鐵	滿	儼	「チタニウム」	磷	硫黃	灼熱減量
甲區一號露頭	一・三二	現存セス	五二・〇八	現存セス	現存セス	現存セス	〇・一六	一・四九	二三・五九

同 二號露頭	三・三五	現存セス	五二・七八	現存セス	現存セス	〇・〇五	〇・二一	二〇・八五
乙區三號露頭	〇・五一	同	五三・九五	同	同	〇・〇三	一・〇七	二二・六六

本鑛床ハ未タ充分探鑛セラレサルヲ以テ其鑛量ヲ計算スルコト難キモ其露頭及地質ニ徴スルニ鑛床ノ賦存區域ハ第二圖ニ示スヨリ狹小ナルコトナカルヘク又鑛石十八立方尺ノ重サヲ一噸トシ概算スルニ鑛量ハ約五十萬噸ナリ、即チ左ノ如シ

區	域	鑛床面積 (平方尺)	同 平均厚サ(尺)	同 容積(立方尺)	同 重 量(噸)
甲	區	二八五、〇〇〇	二五・〇	七、一二五、〇〇〇	三九五、八三〇
乙	區	九〇、六〇〇	二〇・〇	一、八一二、〇〇〇	一〇〇、六七〇
合 計		三七五、六〇〇		八、九三七、〇〇〇	四九六、五〇〇

鑛床附近ニハ含鐵冷泉ノ湧出スル處及鐵分ヲ含メル水ノ滲出スル處アリテ現ニ柔軟、粗鬆ノ褐鐵鑛ヲ沈澱ス、二之澤河床ノ如キ其最モ著シ

キモノニシテ鑛床ノ上ニハ數種ノ蘚苔密生シ其根部ヨリ徐々ニ鐵鑛化シ鐵鑛ト蘚苔トノ間ニ密接ノ關係アルヲ示セリ

(六) 結 章

本鐵鑛地ノ埋藏鑛量ハ約五十萬噸ナリト雖モ更ニ試鑛ヲ施行シテ精査セハ其鑛量ハ増加スルノ望ミアリ、加之鑛石品位概ネ百分中五十内外ニシテ厚層ヲナシ且ツ其表土薄キヲ以テ鑛量大ナラスト雖モ鐵鑛石ノ缺乏セルノ際ナレハ本鑛床ノ如キハ蓋シ探掘スヘキ價值アルモノト云フヘキナリ

三 加留々壽鑛山

(一) 位置及交通

加留々壽鑛山ハ幌別郡登別村字「シウヤアンナイ」ニアリテ登別岳ノ南麓「ヌブルベ」(登別川)ノ上流ヲ占メ室蘭線登別驛ヲ距ル北西方約四里、

同幌別驛ヲ距ル北方四里半ナリ、登別驛ヨリ登別温泉場ニ至ル二里弱ノ間ハ登別温泉軌道アリ、登別温泉ヨリ「カル、ス」ニ至ル二里弱ノ間ハ車馬ヲ通スルモ是ヨリ鑛山ニ至ル一里ノ間ハ僅ニ駄馬ヲ通スルノミ、又幌別驛ヨリ「カル、ス」ニ至ル三里半ノ徑路アリ「カル、ス」ハ温泉場ニシテ戸數十餘ノ小部落ヲナス、同温泉ハ單純泉ナリ

(二) 沿革及現況

本鑛山ノ鑛床ハ大正五年佐々木市藏ノ發見ニ係レリ、大正七年三月佐々木市藏試掘權ヲ得テ探鑛ヲ開始セシモ同年七月ニ至リ木村久次郎、佐々木市藏二氏共同シ加留々壽鑛山ト命名シテ探鑛ヲ繼續セリ、然レトモ未タ探掘スルニ至ラス

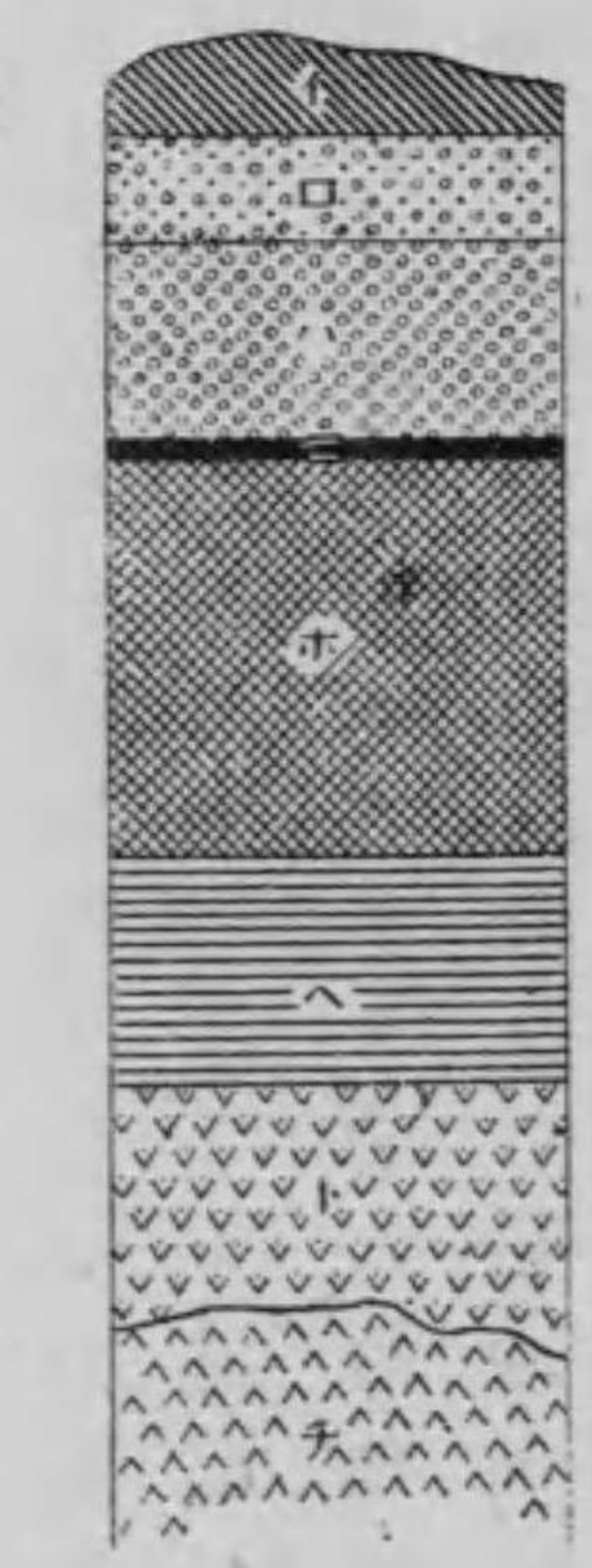
(三) 地勢及地質

本地域ハ山地ニシテ北方ニハ登別岳、北東方ニハ「シャマツケヌブリ」、西方ニ

ハ來馬岳聳テリ、「ヌブルベツ」ハ源ヲ登別岳ニ發シ「シクマエオマベツ」、「シヨウヤアンナイ」、「エコイカオマナイ」、「ニシヨマベツ」、「リコマベツ」等ノ支流ヲ入ル、「ニシヨマベツ」ハ本地域ノ南邊ヲ東流シ、「リコマベツ」ハ其東邊ヲ南流ス、河流ノ兩岸ハ概ネ傾斜急ニシテ河床モ亦急傾斜ヲナストコロ多ク處々急流又ハ瀑布アリ、而シテ鑛床ハ「ヌブルベツ」及「エコイカオマナイ」ノ流域ニ賦存ス

地質ハ石英粗面岩、兩輝石安山岩及浮石ナリトス、石英粗面岩ハ本地域ノ基盤ヲ構成シテ廣域ヲ領ス、岩石ハ白色乃至暗灰色緻密ニシテ斑狀構造顯著ナラサルモノ、黝灰色ヲ呈シ石英及長石ノ斑品ニ富ムモノ、緻密ニシテ角巒狀ヲ呈スルモノ等アリ、兩輝石安山岩ハ熔岩流ヲナスモノト集塊岩ヲナスモノトアリテ共ニ石英粗面岩ヲ被覆セリ、岩石ハ灰色又ハ暗灰色ヲ呈シ細粒、中粒又ハ緻密ノ石基中ニ斑品散點セリ、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ玻璃質ニシテ斜長石及輝石ノ微品ヲ雜ヘ斑品ハ斜長石、普通輝石及紫蘇輝石ナリトス、浮石ハ白色ヲ呈シ直徑一

二寸ノ塊片トナリテ普ク本地域ヲ被ヒ火山灰ヲ挾有ス、厚サハ普通一
 二尺乃至七八尺ナルモ「スブルベツ」及「ニシヨマベツ」沿岸ニ於テハ厚サ數
 十尺ニ達スル
 處アリ、浮石ハ
 火山灰ニヨリ
 テ被覆セラレ



イ 火山灰
 ロ 火山灰交リ浮石
 ハ 浮石
 ニ 礫
 ホ 礫
 ヘ 粘土
 ト 安山岩質集塊岩
 チ 石英粗面岩

第三圖參照

礦泉ハ「スブルベツ」及「エコイカオマベツ」ノ河岸處々ニ湧出ス、「スブルベツ」
 ニ於ケルモノハ同河ト「エコイカオマナイ」ト會流スル附近ニ後者ノ南
 岸ナル鑛床ノ下部ヨリ湧出シ水量豊富ナリ、「エコイカオマナイ」ニ於ケ
 ルモノハ同河ノ中流ニアリテ石英粗面岩ノ裂隙ヨリ湧出ス、鑛泉ハ孰
 レモ無色透明ニシテ多少ノ硫臭ヲ有シ河床ニハ水酸化鐵ヲ沈澱セリ、
 本所分析係ニテ是等鑛泉ヲ分析セシニ其結果左ノ如シ(十萬分中)

(四) 鑛床

鑛泉	反應	比重 五度ニ 於ケル	全固形物	硅酸	酸化鐵 及礬土	「カルシ ウム」	「マグネ シウム」	「ソ ヂウム」	「ポタッ シウム」	硫酸	鹽素	「アンモ ニウム」
南「スブルベツ」岸	弱酸性	一・〇〇〇	五三・〇〇	二・九六	二・五	九・九七	〇・九九	二・二二	痕跡	三三・七五	一・〇九	現存セス
「エコイカオ マベツ」中流	同	一・〇〇〇	一七・〇〇	二・八四	一・四八	一・七一	〇・九〇	一・三四	同	九・五	一・一九	同

鑛床ハ「スブルベツ」及「エコイカオマナイ」ノ河岸處々ニ賦存シ鑛層ヲナシ
 テ集塊岩ヲ被覆シ或ハ集塊岩ノ膠結物中ニ水酸化鐵ノ浸潤シタルモ
 ノナリ、鑛床ノ稍良好ナルモノ三箇處ニ賦存ス、之ヲ來馬區、加留々壽區
 及「エコイカ」區ト稱ス
 來馬區ノ鑛床ハ鑛層ヲナシ「スブルベツ」ト支流「シヨウヤアンナイ」トノ間
 ニ賦存シ集塊岩ヲ被覆シ山地ノ傾斜面ニ沿ヒ緩慢ニ斜下セリ、鑛床ノ
 深サハ五尺乃至十尺ニシテ其間ハ浮石及火山灰ヨリ成リ時ニ鑛層ノ
 上部ニ厚サ二三寸ノ褐炭層アリ、鑛床賦存ノ區域ハ長サ四百八十尺、幅

二百四十尺ニシテ面積八萬二千五百平方尺(二千三百坪)アリ、厚サハ北東部ニ於テ最モ厚ク十八尺ニ達スル處アルモ南西方(山向)ニ次第ニ菲薄トナルヲ以テ平均七八尺ナルヘシ、鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ多量ノ熊笹其他禾本科植物ノ化石ヲ埋藏シ粗鬆ニシテ破碎シ易シ、鑛床ノ下盤ヲナセル集塊岩ノ膠結物中ニ水酸化鐵浸潤シ岩石ハ赤褐色又ハ黃褐色ノ角蠟狀鑛石ニ移化シ「シヨウヤアンナイ」川ノ兩岸ニ露出スルモ含鐵量乏シク鑛石トシテノ價値少ナシ

加留々壽區ノ鑛床ハ鑛層ニシテ「スブルベツ」ト「エコイカオマナイ」トノ會合點ヨリ稍上流ニアリテ「スブルベツ」ノ兩岸ニ賦存ス、其北岸ニアルモノハ黃褐色粘土ノ上ニ座シ五尺内外ノ浮石ニ被ハル、其賦存ノ區域ハ長サ四百八十尺、幅平均百八十尺ニシテ面積約八萬七千平方尺(二千四百餘坪)ヲ占ム、鑛床ノ厚サハ試錐ノ結果ニヨルニ左ノ如シ

試錐番號	鑛層厚サ(尺)	試錐番號	鑛層厚サ(尺)	試錐番號	鑛層厚サ(尺)

鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ多量ノ潤葉類ノ樹幹、枝葉、熊笹及蘚苔類ヲ含ミ、安山岩ノ塊片ヲ含ミテ角蠟狀ヲナシ概シテ稍粗鬆ナリ

加留々壽區南岸ノ鑛床ハ鑛層ヲナシ河ニ沿ヒテ約百四十尺ノ間露出ス、鑛床ハ深サ數十尺ノ處ニ賦存シ其下部ハ含鐵品位劣等ナル角蠟狀鑛石ニ移化ス、鑛床賦存ノ區域ハ明カナラサルモ約三萬八千三百平方

イ 號	ロ 號	ハ 號	ニ 號	ホ 號	ヘ 號	ト 號
一二〇(+)	八・五	四・五	一二〇(+)	二〇	四〇	一二〇(+)
チ 號	リ 號	ヌ 號	ル 號	ヲ 號	カ 號	
一二〇(+)	一二〇(+)	一二〇(+)	一二〇(+)	四〇	五〇	一二〇(+)
ヨ 號	タ 號	セ 號	ソ 號	ツ 號	ネ 號	
一二〇(+)	一二〇(+)	三・五	一二〇(+)	一〇	一〇	
ユ 號	テ 號					
一二〇(+)	一二〇(+)					

尺(七百八十坪)ナルヘク其厚サハ露頭ニ於テ二十五尺ニ達セリ、鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ概ネ粗鬆ニシテ多クノ植物化石ヲ含有シ或ハ角礫狀ヲナス、本鑛床ハ東部ニ角礫狀鑛石ニ移化シ河ニ沿ヒテ約三百尺ノ間露出スルモ概ネ含鐵品位劣等ニシテ鑛石トシテノ價値ナシトス

「エコイカ」區ノ鑛床ハ「エコイカオマナイ」ノ中流ニ懸谷ヲナシテ入ル小澤ノ兩岸ニ賦存シ集塊岩上ニ厚サ三尺内外ノ鑛層ヲナシ厚サ四五尺ノ浮石ニ被ハル、而シテ鑛床ハ小澤ノ爲メニ切斷セラレ數部ニ分ル、其面積合計約二萬五千平方尺(六百九十坪)ナリ、鑛石品位ハ加留々壽區北岸ノモノト大差ナシ

今鑛石十七立方尺ノ重サヲ一噸ト假定シ以上三區ノ鑛量ヲ概算スルニ左表ニ示スカ如ク合計約十二萬噸ナリトス

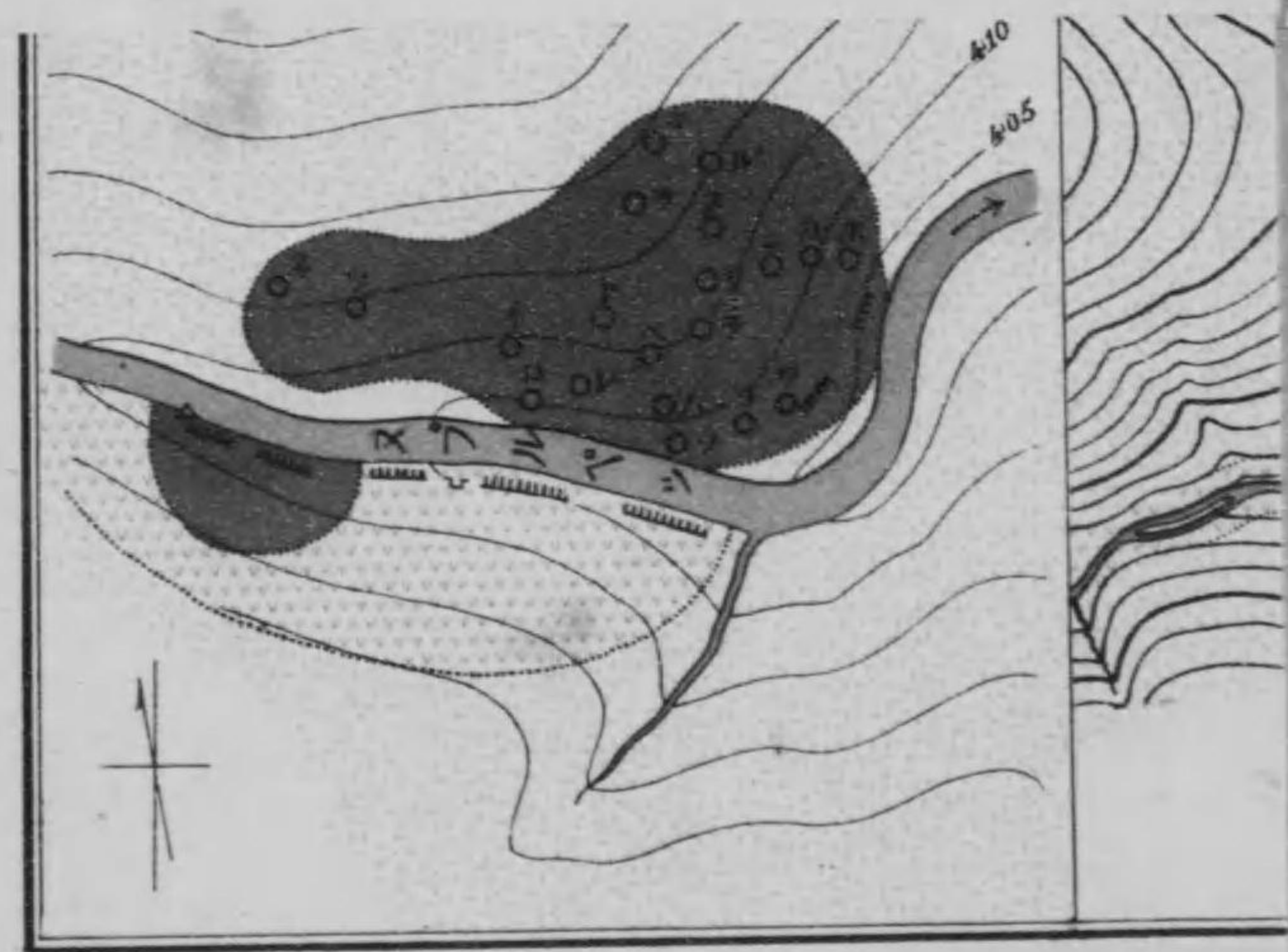
區	域	鑛床面積(平方尺)	同平均厚サ(尺)	同容積(立方尺)	同重量(噸)
來馬區		八二、五〇〇	八	六六〇、〇〇〇	三八、八二〇

加留々壽區北部		八七、〇〇〇	八	六九六、〇〇〇	四〇、九四〇
同南部		三八、三〇〇	一六	六一二、八〇〇	三六、〇五〇
「エコイカ」區		二五、〇〇〇	三	七五、〇〇〇	四、四一〇
總計		二二二、八〇〇		二、〇四三、八〇〇	一二〇、三三〇

加留々壽區ノ西方百二十米ヲ距テ川ノ右岸ニ鐵鑛ノ小露頭アリ、鑛石ハ良好ニシテ試錐ニヨレハ十二尺以上ノ厚サアルモノ、如キモ其區域頗ル狭小ナリ、此外「スブルベツ」上流、「シクマエオマベツ」及「エコイカオマナイ」等ノ沿岸處々ニ鑛床露頭アルモ孰レモ鐵分ヲ含有スルコト少ナキカ如ク鐵鑛トシテ探掘ニ堪フルモノ、存在スルヤ否ヤハ精細ナル探鑛ヲ施スニアラサレハ之ヲ明カニシ難シ

本所分析係ニテ、採取セル鑛石ヲ試驗セル結果ハ左ノ如シ(百分中)

鑛石別	硅酸	銅	鐵	滿侖「チタニウム」	燐	硫黃	灼熱減量
-----	----	---	---	-----------	---	----	------



石英粗面岩 兩輝石

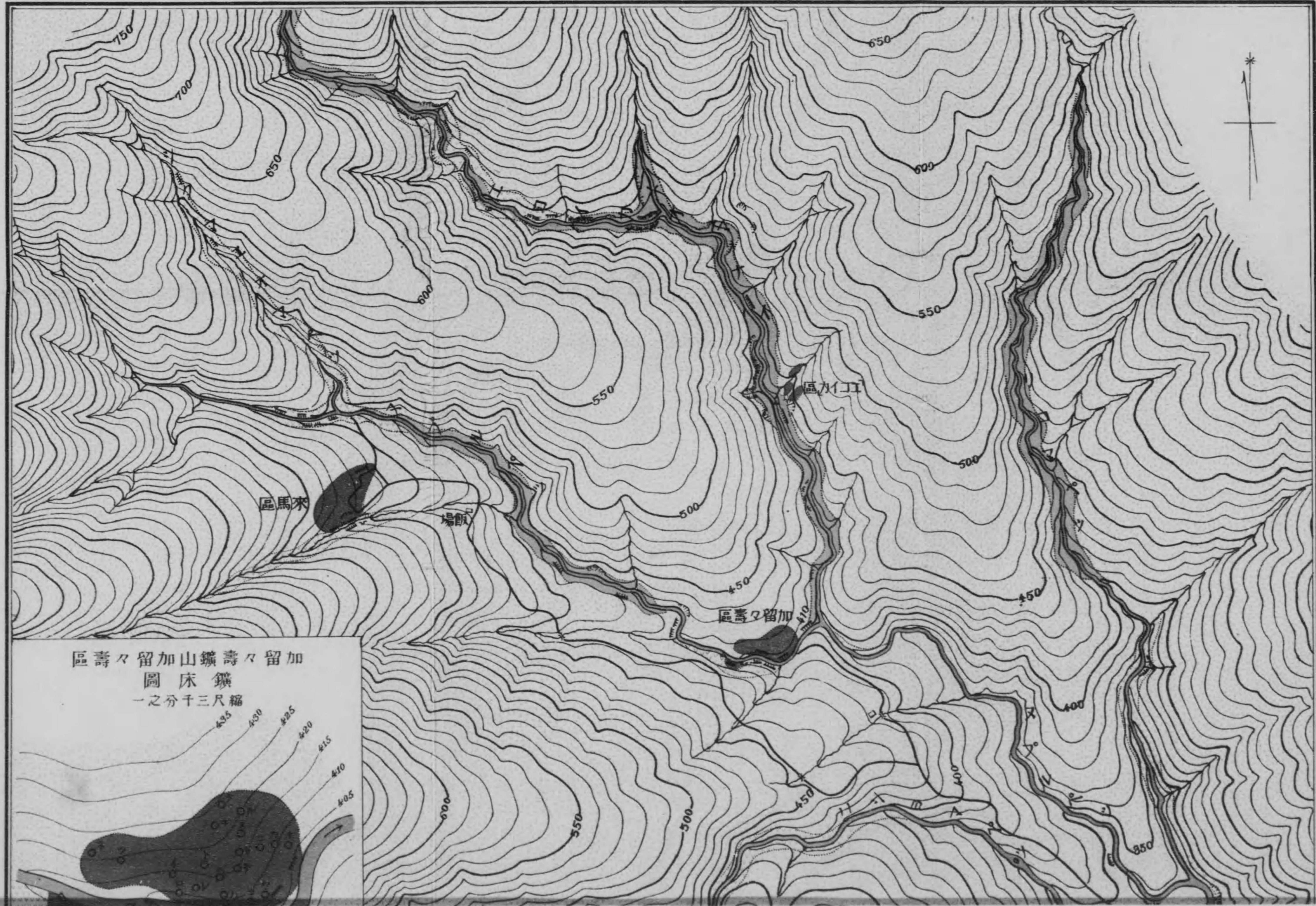
本鑛山ノ鑛床ハ數箇處ニ散在シ其賦存ノ區域孰レモ狹ク加フルニ加
留々壽區ノ如キハ鑛床ハ地下深ク賦存シ採鑛上多少ノ困難アルヘシ
ト雖モ其鑛量ハ來馬「エコイカ」ト共ニ約十三萬六千噸ニ達シ此外尙探
鑛スヘキ箇處多シトス、且ツ鑛石ノ品位ハ概ネ良好ナルヲ以テ其量多

(五) 結 章

札幌鑛務署ニテ加留々壽區南部ノ上鑛ヲ分析セル結果ハ左ノ如シ(百
分中)

鐵	五六・一二	硫	〇・三五	燐	〇・〇五
來馬區	〇・八五	現存セス	五三・六五	現存セス	〇・〇四
加留々壽區	一・四九	同	五三・二〇	同	〇・〇五
「エコイカ」區	一・九〇	同	五三・〇九	同	〇・八三
				現存セス	二〇・六三
					一・三二
					二二・七〇
					〇・六一
					二一・四九

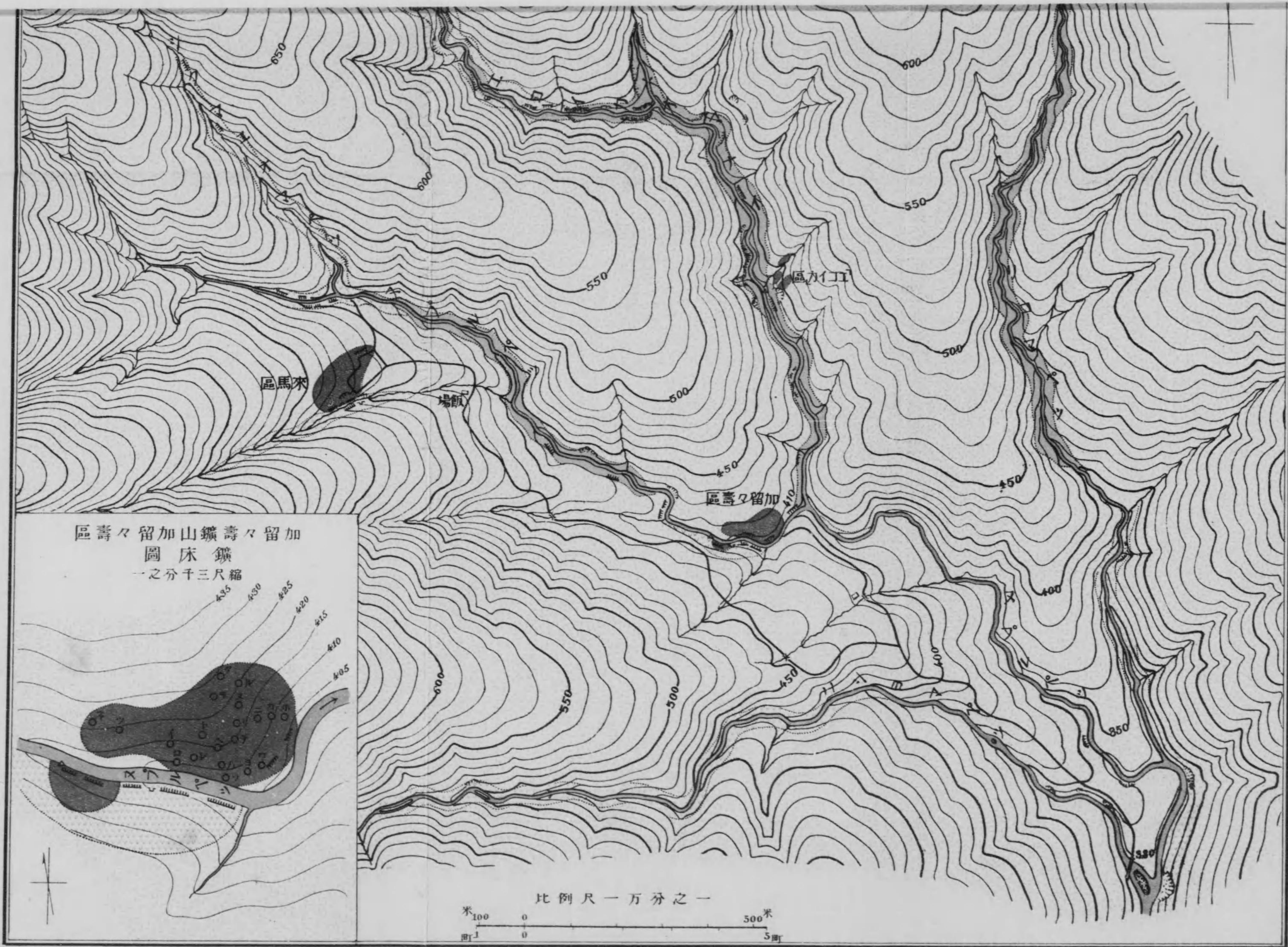
圖質地山鑛壽々留加國振膽



第二版

高距八海面上十米突

鑛スヘキ箇處多シトス且ツ鑛石ノ品位ハ概ネ良



加留山
鑛床圖
縮尺三千分之一

比例尺一萬分之一
米 100 0 500
町 1 0 5

- 石英粗面岩
- 兩輝石安山岩
- 浮石
- 鐵鑛床
- 鐵質蛋岩
- 探鑛坑口
- 試鑛地及番号
- 鑛泉

高距ハ海面上十米突毎ニ一線ヲ描ク

ト雖モ、其鑛量ハ來馬、「エヨイカ」ト共ニ約十三萬六千噸ニ達シ此外尙探
鑛スヘキ箇處多シトス、且ツ鑛石ノ品位ハ概ネ良好ナルヲ以テ其量多

カラサルモ他日之カ開發ヲ見ルニ至ルヘシ

四 稀府ノ鐵鑛(第三版)

(一) 位置交通及沿革

稀府^{ヒフ}ノ鐵鑛地ハ有珠郡伊達村ニアリテ東紋鼈、稀府及黃金藥^{オウゴンヤク}ノ三字ニ跨リ「イマリマリブ」及「オビルンネブ」兩河ノ上流地ヲ占メ伊達村西紋鼈ヲ距ル東方二里、室蘭ヲ距ル北方七里ニアリ、本鐵鑛地ニ至ルニハ西紋鼈ヨリ東紋鼈ヲ經「イマリマリブ」川ヲ溯ルヲ便ナリトス、此間西紋鼈ヨリ約一里ハ車馬ヲ通スルモ是ヨリ鐵鑛地マテハ山道ニシテ僅ニ徒歩シ得ルノミ、西紋鼈ハ膽振國屈指ノ大市街地ニシテ戸數七百餘ヲ有シ室蘭及虻田トノ間ニハ汽船ノ便アリ

本鐵鑛地ハ元ト硫黃鑛ヲ試掘セシ處ニシテ「オビルンネブ」支流赤澤ニハ舊坑今尙存ス、明治四十年頃齋藤直治鐵鑛床ヲ發見シ大正五年金澤又助試掘權ヲ得シモ同年十一月之ヲ渡邊三作ニ讓渡セリ、爾來探鑛ニ

從事シ未タ探掘スルニ至ラス

(二) 地勢及地質

本地域ハ山地ニシテ東方ニハ有珠、幌別兩郡ノ境界ヲナシ幌別岳ヨリ鷲別岳ニ連互スル分水山脈アリ、西方ニハ海拔七八百米ノ急峻ナル山脈南北ニ走レリ、河流ニ「イマリマリブ」及「オビルンネブ」アリ、「イマリマリブ」ハ東紋鼈、稀府ノ境界ヲ流レ、「オビルンネブ」ハ稀府、黄金藥ノ境ヲ劃ス、兩河ハ相接シテ東方ノ分水山脈ニ發源シ西方又ハ南西方ニ向ヒ流走ス

地質ハ頗ル簡單ニシテ石英粗面岩及輝石安山岩ナリトス、石英粗面岩ハ基盤ヲ構成シ主トシテ本地域ノ東部ニ露出ス、岩石ハ白色又ハ灰色ヲ呈シ中粒又ハ細粒ニシテ石英及長石ノ斑品顯著ナルモノ、斑品明カナラスシテ黄鐵鑛ノ散布スルモノ、角蝕狀ヲナスモノ等アリ、輝石安山岩ハ熔岩流ヲナスモノト集塊岩ヲナスモノトアリテ主ニ西部ニ發達ス

ス、岩石ハ暗灰色又ハ暗黒色ヲ呈シ中粒乃至細粒ニシテ長石及輝石ノ斑品散點シ輝石ハ時ニ大品ヲナス、又頗ル緻密ニシテ殆ト斑品ヲ認メ難ク僅ニ黄鐵鑛ノ微粒ヲ散布セルモノアリ、岩石ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ長石、輝石及磁鐵鑛ヨリ成リテ微粒狀構造ヲ呈シ斑品ハ斜長石及輝石ナリ、輝石ニハ新鮮ナル普通輝石ト變質セル斜方輝石トアリ、斜方輝石ハ恐ラク紫蘇輝石ナルヘシ

(三) 鑛床

鑛床ハ石英粗面岩又ハ輝石安山岩ヲ被ヒテ鑛層ヲナシ或ハ角蝕狀石英粗面岩、輝石安山岩又ハ集塊岩中ニ鐵分ノ浸潤シタルモノニシテ「イマリマリブ」、「オビルンネブ」兩河ノ上流地ニ數箇處ニ賦存シ、「オビルンネブ」支流ニハ現ニ鐵鑛ノ沈澱シツ、アル處アリ、表土ハ厚サ二尺乃至十尺ニシテ主トシテ土壤及礫交リ粘土ヨリ成ル

(一)「イマリマリブ」流域ノ鐵鑛

第一號露頭ハ「イマリマリ」沿岸ナル飯場小屋ヨリ稍上流ノ南岸ニ露出シ約十尺ノ厚サヲ以テ百五十尺ノ間ニ連互ス、鑛床ハ板狀節理ノ發達セル輝石安山岩ニ鑛泉中ノ鐵分ノ浸潤シタルモノニシテ鑛石ノ品位劣等ナリ、此上流沿岸ニ二箇處ニ鑛床露頭アリ、鑛石ハ第一號露頭ニ於ケルト同一ニシテ孰レモ探掘ニ堪ヘサルヘシ

第二號露頭ハ第一號露頭ヨリ上流地ニアリテ北ヨリ入ル小澤ノ兩岸ニ賦存シ、南方ニ緩斜ス、鑛床ノ上ニハ石英粗面岩及安山岩ノ礫ヲ雜フル粘土ヲ戴キ其厚サ二尺乃至十尺アリ、鑛床ノ下ハ石英粗面岩ニシテ白色ノ粘土ニ變質セリ、鑛石及表土ノ厚サヲ示サン爲メ左ニ試錐ノ結果ヲ掲ク、但シ厚サハ尺ヲ以テ之ヲ示セリ

試錐番號	表	土(厚サ)	鑛	層(厚サ)
第一號		二・五		一〇・〇
第二號		四・〇		一〇・〇
試錐番號	表	土(厚サ)	鑛	層(厚サ)
第三號		四・〇		一〇・〇
第四號		三・五		七・〇

第五號	第六號
二・五	二二・〇
四・〇	九〇・(+)

鑛床賦存ノ區域ハ試錐及探鑛井ニヨリテ察スルニ長サ三百尺、幅二百尺ニシテ面積四萬三千五百平方尺(約千二百坪)ヲ占ム、鑛石ハ黃褐色乃至暗褐色ヲ呈シ上部ハ柔軟、粗鬆ニシテ崩碎シ易ク中部ハ稍緻密、堅硬ニシテ最モ良質ナリ、下部ハ母岩ノ塊片ヲ含ミテ角蠻狀ヲ呈シ品位概ネ劣等ナリ、鑛床ノ厚サハ平均七尺内外ナルヘシ

第三號露頭ハ「イマリマリ」ノ上流ニ東ヨリ入ル小澤ニ沿ヒ約六百五十尺ノ間ニ連互シ、東部ハ南岸ノ斜面ニ、西部ハ北岸ニ賦存シ面積五萬七千七百平方尺(千六百坪)ヲ領ス、鑛石ハ暗褐色ニシテ或ハ角蠻狀ノモノ或ハ樹幹、枝葉又ハ蘚苔ノ化石ヲ含ミ脆弱ナルモノ等アリ、一般ニ多孔質粗鬆ニシテ厚サ五尺内外アリ、下部ニ次第ニ品質劣等トナル

第四號露頭ハ第三號露頭ノ南々東約三百米ノ上流ニアリテ石英粗面岩上ニ厚サ約三尺ノ鑛層ヲナス、其賦存ノ區域ハ明カナラサルモ面積

約一萬七千四百平方尺(四百八十坪)アルヘク鑛石ハ黃褐色ヲ呈シ概ネ粗鬆ニシテ品位ハ下部ニ劣等トナル
 本流域中稍注目スヘキ鑛床ハ第二號、第三號及第四號露頭ノ三區域ナリ茲ニ鑛石十七立方尺ノ重サヲ一噸ト假定シテ鑛量ヲ概算スレハ左表ニ示スカ如シ

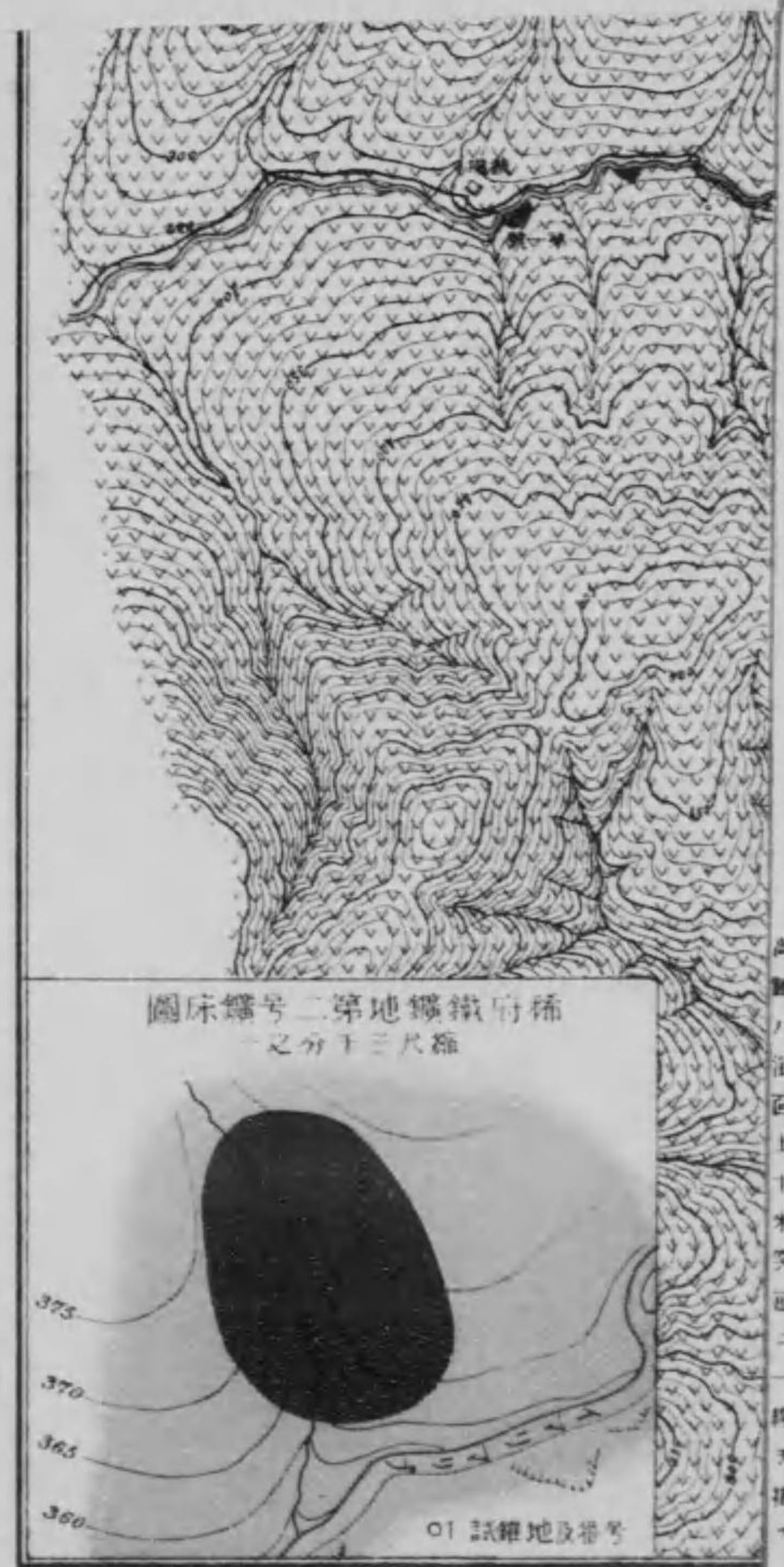
區	域	鑛床面積 (平方尺)	同 平均厚サ (尺)	同 容積 (立方尺)	同 重量 (噸)
第二號	露頭	四三、五〇〇	七	三〇四、五〇〇	一七、九一〇
第三號	露頭	五七、七〇〇	四	二三〇、八〇〇	一三、五七〇
第四號	露頭	一七、四〇〇	三	五二、二〇〇	三、〇七〇
總計		一一八、六〇〇	四・七	五八七、五〇〇	三四、五五〇

其他ノ露頭ハ孰レモ鑛石ノ品質劣等ニシテ且ツ其賦存ノ區域狹小ナリ

(二)「オビルンネブ」流域ノ鐵鑛

第五號露頭ハ飯場澤ヲ溯ルコト約四百米ニアリテ澤ノ南岸ニ露出ス、其厚サハ一二尺ニシテ七八尺ノ表土ニ被ハル、鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ稍粗鬆ナレトモ堅硬ニシテ良質ナリ、第六號露頭ハ飯場澤ノ上流ニアリテ安山岩上ニ厚サ三四尺ノ鑛層ヲナス、鑛石ハ第五號露頭ニ於ケルモノニ類シ稍柔軟ナリ、其賦存ノ區域ハ孰レモ狹小ナリ
 第七號露頭ハ「オビルンネブ」ノ北岸ニ沿ヒ約三百尺ノ間ニ連互ス、表土ハ中央部ニテハ十數尺アルモ兩側ニテハ三四尺ニ減ス、第八號露頭ハ赤澤上流ニアリテ澤ノ兩岸ニ數百尺ノ間露出ス、鑛石ハ孰レモ角疊狀ヲ呈シ厚サハ七八尺ニ達スルモ品位概シテ劣等ナリ、第九號露頭モ亦其品質是等ト大差ナシ
 本所分析係ニテ數箇處ノ鑛石ニ就キ試驗セシ結果ハ左ノ如シ(百分中)

鑛石別	硅酸	銅	鐵	滿	俺	「チメニウム」	燐	硫	黃	灼熱減量
-----	----	---	---	---	---	---------	---	---	---	------



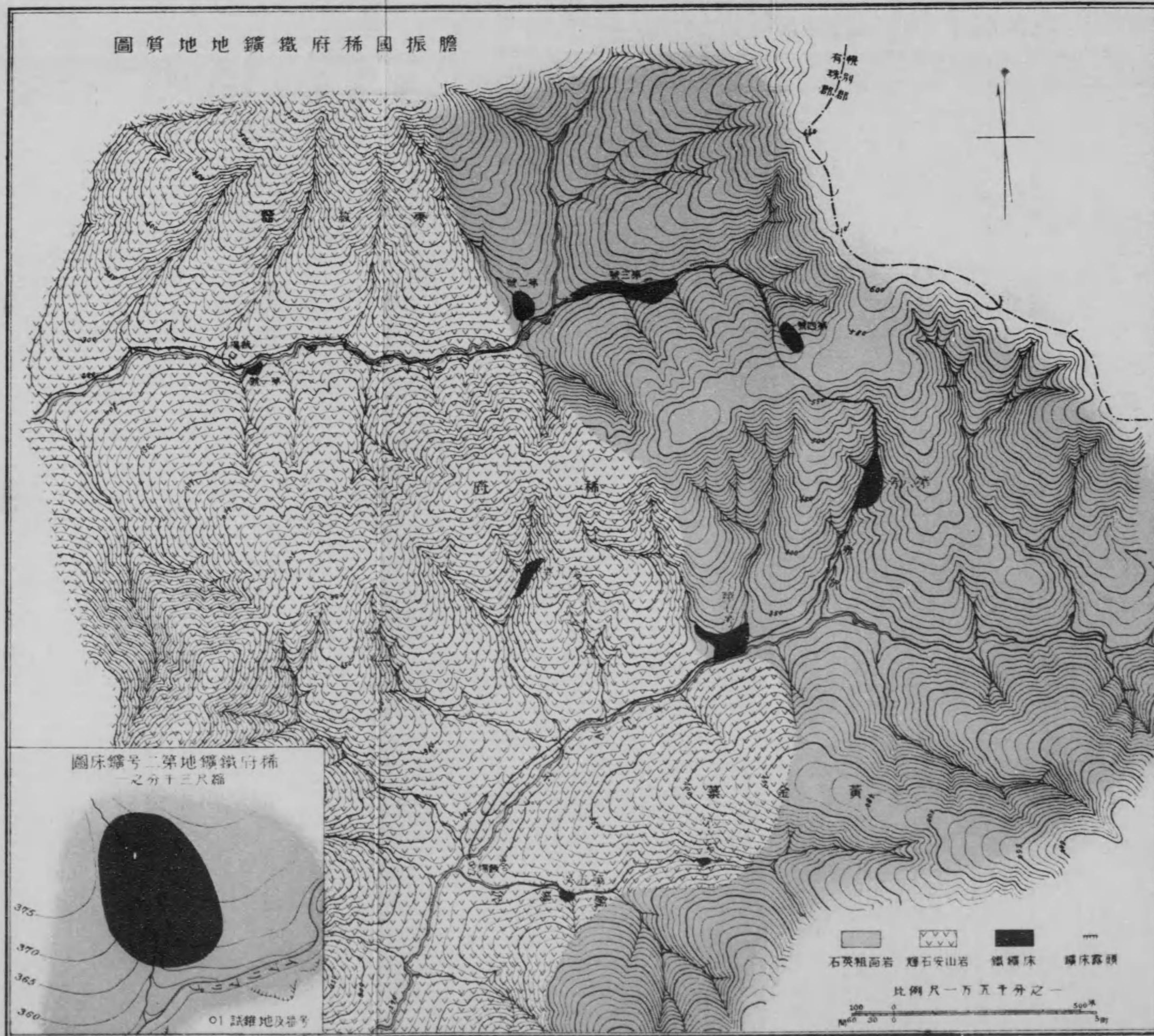
本鐵鑛地ニハ鑛床賦存ノ箇處多キモ其區域狹ク且ツ其厚サ菲薄ナリ、蓋シ稍廣域ニ互リテ賦存スルモノアルモ鑛石ノ品位劣等ニシテ探掘ニ堪ヘス、鑛床中探掘シ得ルモノハ「イマリマリ」流域ニ於ケル第二號第三號及第四號露頭ノ三區域ニシテ其鑛量總計約三萬四千噸ニ過

(五) 結 章

(附) 硫黃山ノ舊坑ハ「オビルンネ」支流赤澤ノ中流ニ開坑シ石英粗面岩中ヲ北八十度東ニ向ヒ約百尺掘進セルモ鑛石ニ會セスシテ中止セシモノ、如シ

同	第「オ ビル ンネ」 露頭 流域	第同 三 號 露 頭	第「イ マリ マリ」 露頭 流域
四〇・三二	一三・四八	一・九二	一・六四
同	同	同	現存セス
三一・三〇	四六・九五	五三・〇九	五二・三六
同	同	同	現存セス
同	同	同	現存セス
〇・〇一	〇・〇三	〇・五三	〇・二〇
〇・二八	〇・四二	〇・四一	〇・五八
一四・二八	一八・六四	二三・七二	二三・〇一

露光量違いの為重複撮影



本三載

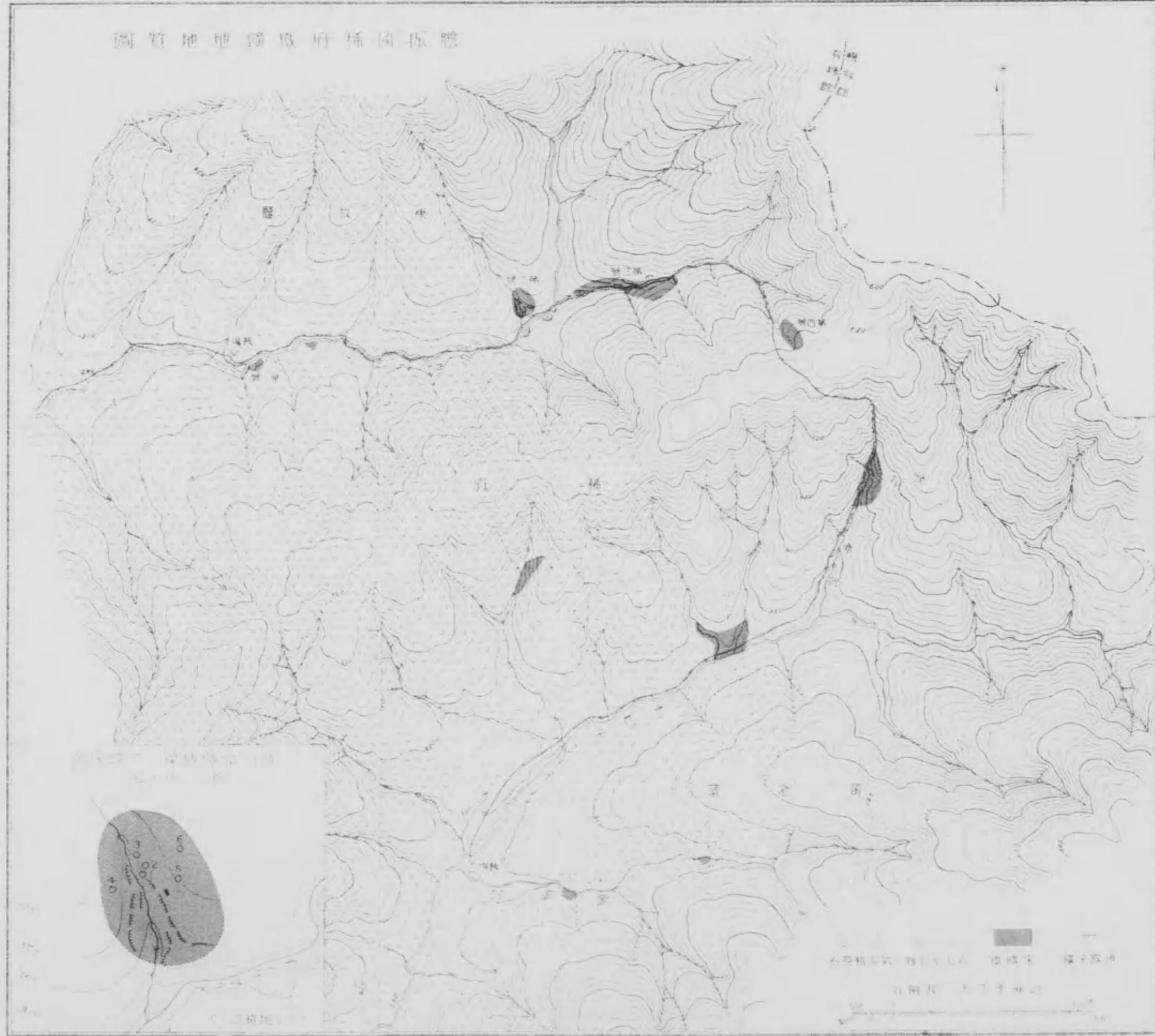
高野川海面五十米突進ニ一線ヲ指テ

(五) 結 章

中(附) 硫黃山ノ舊坑ハ「アピル」ニテ支流赤澤ノ中流ニ開坑シ石英粗面岩
 中ヲ北八十度東ニ向ヒ約百尺掘進セルモ鑛石ニ會セスシテ中止セシ
 モノ、如シ

本鐵鑛地ニハ鑛床賦存ノ箇處多キモ其區域狹ク且ツ其厚サ菲薄ナリ、
 蓋シ稍廣域ニ互リテ賦存スルモノアルモ鑛石ノ品位劣等ニシテ採掘
 ニ堪ヘス、鑛床中採掘シ得ルモノハ「イマリマリ」流ニ於ケル第二號
 第三號及第四號露頭ノ三區域ニシテ其鑛量總計約三萬四五千噸ニ過

露光量違いの為重複撮影

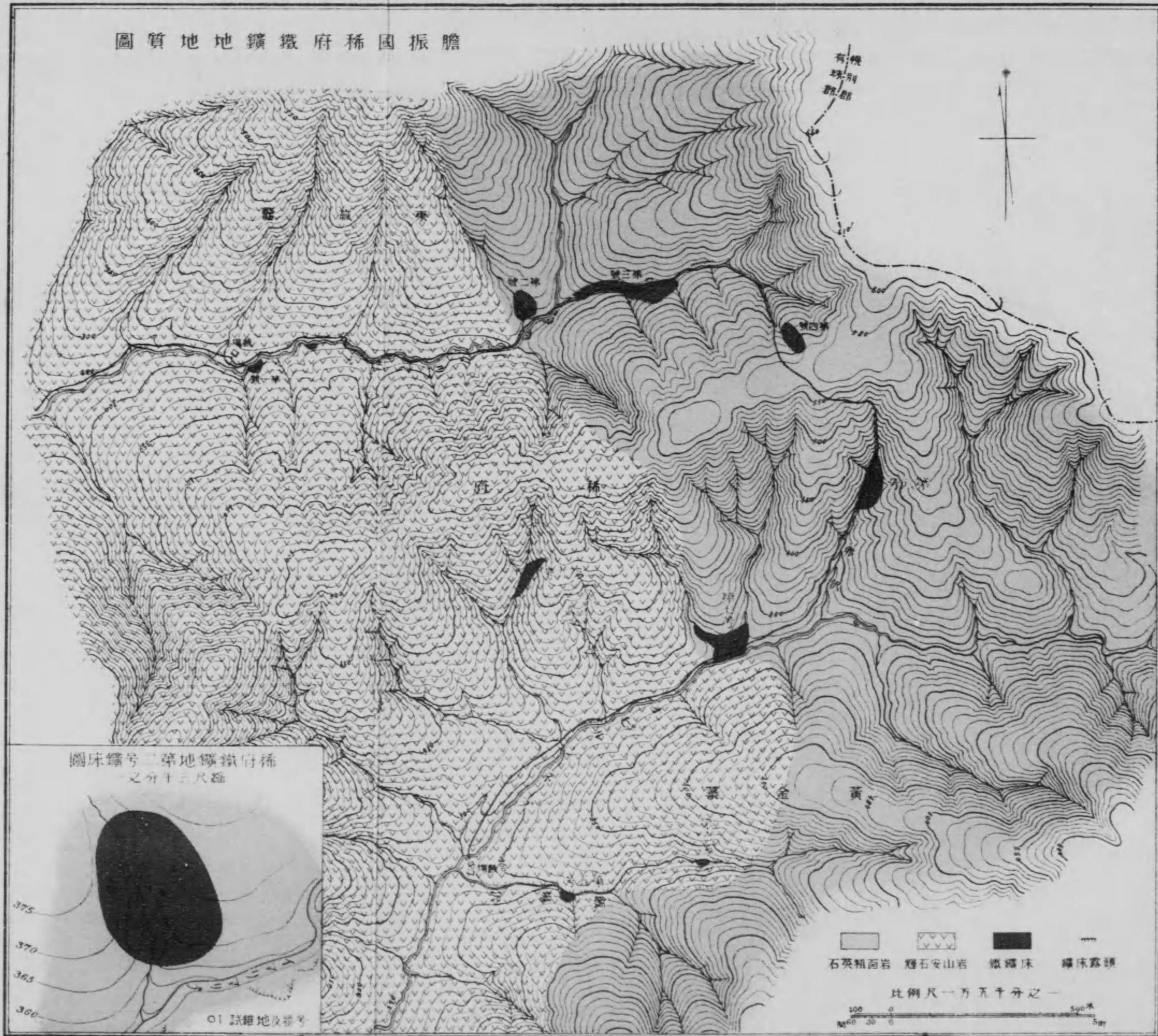


(五) 結 章

附硫黃山ノ舊坑ハ「オピルンネブ」支流赤澤ノ中流ニ開坑シ石英粗面岩中ヲ北八十度東ニ向ヒ約百尺掘進セルモ鑛石ニ會セスシテ中止セシモノ、如シ

本鐵鑛地ニハ鑛床賦存ノ箇處多キモ其區域狹ク且ツ其厚サ菲薄ナリ、蓋シ稍廣域ニ互リテ賦存スルモノアルモ鑛石ノ品位劣等ニシテ採掘ニ堪ヘス、鑛床中採掘シ得ルモノハ「イマリマリア」流域ニ於ケル第二號第三號及第四號露頭ノ三區域ニシテ其鑛量總計約三萬四五千噸ニ過

圖質地地鑛鐵府稀國振膽



第三版

高麗ハ沿河上十米突母ニ一採ヲ捕

(五) 結 章

(附) 硫黃山ノ舊坑ハ「オピルンネブ」支流赤澤ノ中流ニ開坑シ石英粗面岩中ヲ北八十度東ニ向ヒ約百尺掘進セルモ鑛石ニ會セスシテ中止セシモノ、如シ

本鐵鑛地ニハ鑛床賦存ノ箇處多キモ其區域狹ク且ツ其厚サ菲薄ナリ、蓋シ稍廣域ニ互リテ賦存スルモノアルモ鑛石ノ品位劣等ニシテ採掘ニ堪ヘス、鑛床中採掘シ得ルモノハ「イマリマリ」流域ニ於ケル第二號第三號及第四號露頭ノ三區域ニシテ其鑛量總計約三萬四五千噸ニ過

キス、「オピルンネブ」流域ニ於テハ未タ探掘スヘキ鑛床ヲ發見セス

五 辨慶鑛山(第四圖參照)

(一) 位置交通及沿革

辨慶鑛山ハ有珠郡壯警村字「ベンケ」(又辨慶トモ云フ)ニアリテ長流川ノ支流「ベンケベ」(辨慶川)ノ上流ニ位シ「ベンケ」村落ヲ距ル東南東約二十町、西紋鼈ヲ距ル東北東約六里ナリ、而シテ西紋鼈ヨリ壯警市街地ヲ經テ久保内ニ至ル四里強ノ間ハ紋鼈街道ニシテ長流川ニ沿ヒ車馬ノ交通自由ナルモ久保内ヨリ本鑛山ニ至ル二里ノ間ハ徑路ニシテ僅ニ駄馬ヲ通スルノミ、又鑛山ノ南方山路四里ヲ隔テ幌別鑛山アリ、是ヨリ馬車鐵道ニヨリ約一里ニシテ室蘭線幌別驛ニ達スヘシ、辨慶ハ溫泉場ニシテ戸數十餘アリ、溫泉ハ鹽類泉ニシテ凝灰岩ノ裂隙ヨリ湧出シ水量豊富ナリ

本鑛山ノ鑛床ハ大正五年津田丑雄之ヲ發見シ大正六年六月佐々木市

藏之カ試掘ノ許可ヲ得テ大正七年十月ヨリ探鑛ヲ開始セリ

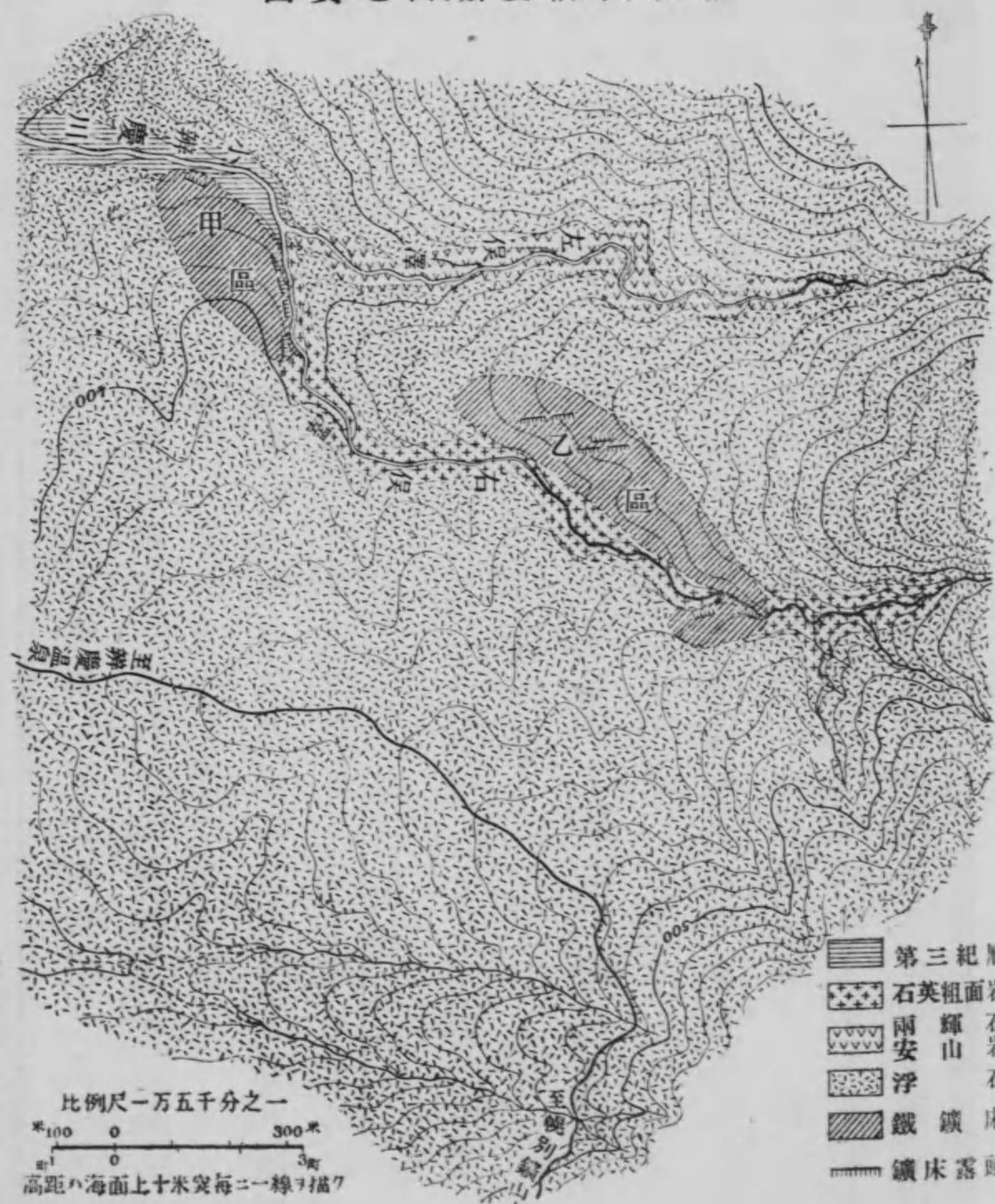
(二) 地勢及地質

本地域ハ有珠、幌別兩郡ノ境界ヲナセル分水山脈ノ北側ニ位シ概ネ波狀ノ臺地ヲナシ漸次ニ北西方ニ低下ス、河流ニハ「ペンケベツ」(辨慶川)及其支流小辨慶川アリ、共ニ源ヲ分水山脈ニ發シ臺地ヲ深刻シ辨慶温泉附近ニテ兩河相會シ北西ニ流レテ長流川ニ注ク、小辨慶川ハ水源ニアリ、右俣澤、左俣澤ト呼ヒ本地域ノ北部ヲ貫流セリ

地質ハ第三紀層、石英粗面岩、兩輝石安山岩及浮石ナリトス、第三紀層ハ臺地ノ西部ヲ構成シ主トシテ凝灰岩ヨリ成ル、岩石ハ白色又ハ黝色ヲ呈シ概ネ緻密ニシテ「ペンケベツ」及小辨慶川沿岸ノ處々ニ絶壁ヲナシテ露出シ厚層ヲナスモ層理明カナラス、石英粗面岩ハ右俣澤ノ沿岸及小辨慶川ノ上流ニ露出ス、岩石ハ灰色ヲ呈シ稍粗粒ニシテ多量ノ石英及長石ノ斑晶ヲ含ミ這般長石ハ著シク變質セルヲ以テ岩石ハ脆弱ナリ、

圖 四 第

圖 質 地 山 鑛 慶 辨 國 振 膽



右俣澤ノ上流ニ露出スルモノハ緻密堅硬ニシテ角蠻狀ヲ呈セリ、兩輝石安山岩ハ「ベンケベツ」及左俣澤ノ沿岸ニ露出シ石英粗面岩及凝灰岩ヲ被覆セリ、岩石ハ暗灰色中粒ニシテ斑品多シ、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ玻璃質ニシテ長石及輝石ノ微晶散布シ斑品ハ斜長石、普通輝石及紫蘇輝石ナリトス、浮石ハ厚サ一尺乃至四尺ニシテ厚サ一二尺ノ火山灰及赤褐色ノ粘土ヲ挾有ス

(三) 鑛床

鑛床ハ小辨慶川ノ上流右俣澤ノ沿岸附近ニ二箇處ニ賦存ス、假ニ之ヲ甲區及乙區ト稱ス
甲區ノ鑛床ハ褐鐵鑛層ニシテ右俣澤ト左俣澤トノ會流スル附近ノ西岸ニ存在シ凝灰岩上ニ座シ厚サ六尺内外ノ浮石層ニ被ハル、鑛層ノ厚サハ右俣澤ノ露頭ニ於テ六尺乃至二十尺ナルモ河岸ヲ遠カルニ從ヒ漸次菲薄トナルカ如シ、鑛石ハ黃褐色ニシテ角蠻狀ヲ呈シ、平均品位ハ

百分中四十五内外ナリ、鑛量ハ之ヲ計算スヘキ資料ニ乏シキモ鑛床賦存ノ區域ヲ川ニ沿ヒ千二百尺、幅五百尺、面積約四十三萬二千三百平方尺(一萬二千坪)トセハ大過ナルヘク、鑛床ノ厚サヲ平均五尺トシ、鑛石十七立方尺ノ重サヲ一噸ト假定スレハ鑛量概算約十二萬七千噸ナリトス

乙區ノ鑛床ハ右俣澤ノ上流ニアリテ甲區ト約二百米ヲ距ツ、其賦存ノ區域ハ澤ノ北岸ニ沿ヒテ二千二百尺、幅五百尺ニ擴カリ面積八十萬平方尺(二萬二千餘坪)ナリトス、鑛床ハ河岸ヨリ稍隔リテ處々ニ露出シ厚サ二十五尺ニ達スル處アリ、鑛石ハ褐鐵鑛ニシテ黃褐色乃至赤褐色ヲ呈シ鑛床ノ上部ニ於テハ多孔質ニシテ甲區ノ鑛石ニ類スルモノナキニアラサルモ概ネ角蠻狀石英粗面岩ニ水酸化鐵ノ浸潤シタルモノニシテ鑛石ノ品位ハ部分ニヨリ大差アリ、又概ネ下部ニ次第ニ品位劣レリ、從ツテ鑛床中鑛石トシテ探掘シ得ルモノハ其一部ニ過キササルヘク鑛量ハ探鑛ノ後ニアラサレハ明カナラサルモ蓋シ多大ナラサルヘシ

乙區ノ鑛床ト相對シテ右俣澤ノ南岸ニ露出スル鑛床ハ高サ數十尺ノ絶壁ヲナセルモ鐵品位劣等ナリ

本所分析係ニテ本鑛山ノ鑛石ニツキ試驗セシ結果ハ左ノ如シ(百分中)

鑛石別	硅酸	銅	鐵	滿	「チタニウム」	燐	硫黃	灼熱減量
甲區上鑛	八・八四	現存セス	五・四二	現存セス	痕跡	〇・一六	〇・三〇	一六・二七
乙區中鑛	一七・〇六	同	四・一二	同	現存セス	〇・一九	二・一〇	一六・〇六
同	二五・八二	同	三九・二〇	同	〇・二六	痕跡	〇・五九	一一・八七

(四) 結 章

本鑛床ハ現時漸ク探鑛ニ著手セシモノナルヲ以テ鑛床賦存ノ狀態未タ明カナラサルモ其露頭ニ就キ察スルニ甲區ノ鑛床ハ鑛量約十四萬四千噸アリテ品位鐵百分中五十内外ナレハ或ハ小規模ニ操業スルコトヲ得ン、乙區ノ鑛床ハ其厚サ厚ク面積亦大ナルモ其鑛石ハ大部分ハ

品位鐵百分中四十以下ナルヲ以テ現時稼行スルコト困難ナルヘシ

六 「マロフーレベッ」(パンケ)ノ鐵鑛(第五圖)

(一) 位置交通及沿革

「マロフーレベッ」(パンケ)ノ鐵鑛地ハ有珠郡壯警村字白水ニ屬シ長流川ノ支流「マロフーレベッ」(一名白水川)ノ中流ニ注ク赤井川ノ沿岸ニ位ス、「パンケ」ヲ距ル南方約半里、「ベンケ」ヲ距ル北東方約二里ナリ、紋龍街道ハ西紋龍ヨリ長流川ニ沿ヒ約七里ニシテ「パンケ」ニ達シ「パンケ」ヨリ更ニ北東三里強ニシテ德舜營十三號ニ至ル、此間車馬ノ交通自由ナルモ「パンケ」ヨリ本鐵鑛地マテハ駄馬ヲ通スルノミ、「パンケ」ハ溫泉場ニシテ戸數五十餘ノ小部落ナリ、溫泉ハ河岸ノ礫層中ニ湧出スル無味、無臭ノ鹽類泉ニシテ攝氏四十度乃至六十六度ノ溫度ヲ有ス
鐵鑛床ハ大正四年「パンケ」ノ農夫小野克己之ヲ發見シ同五年中野要吉試掘ノ許可ヲ得、同六年四月池尾清次ノ有ニ歸シ、同七年九月北海道製

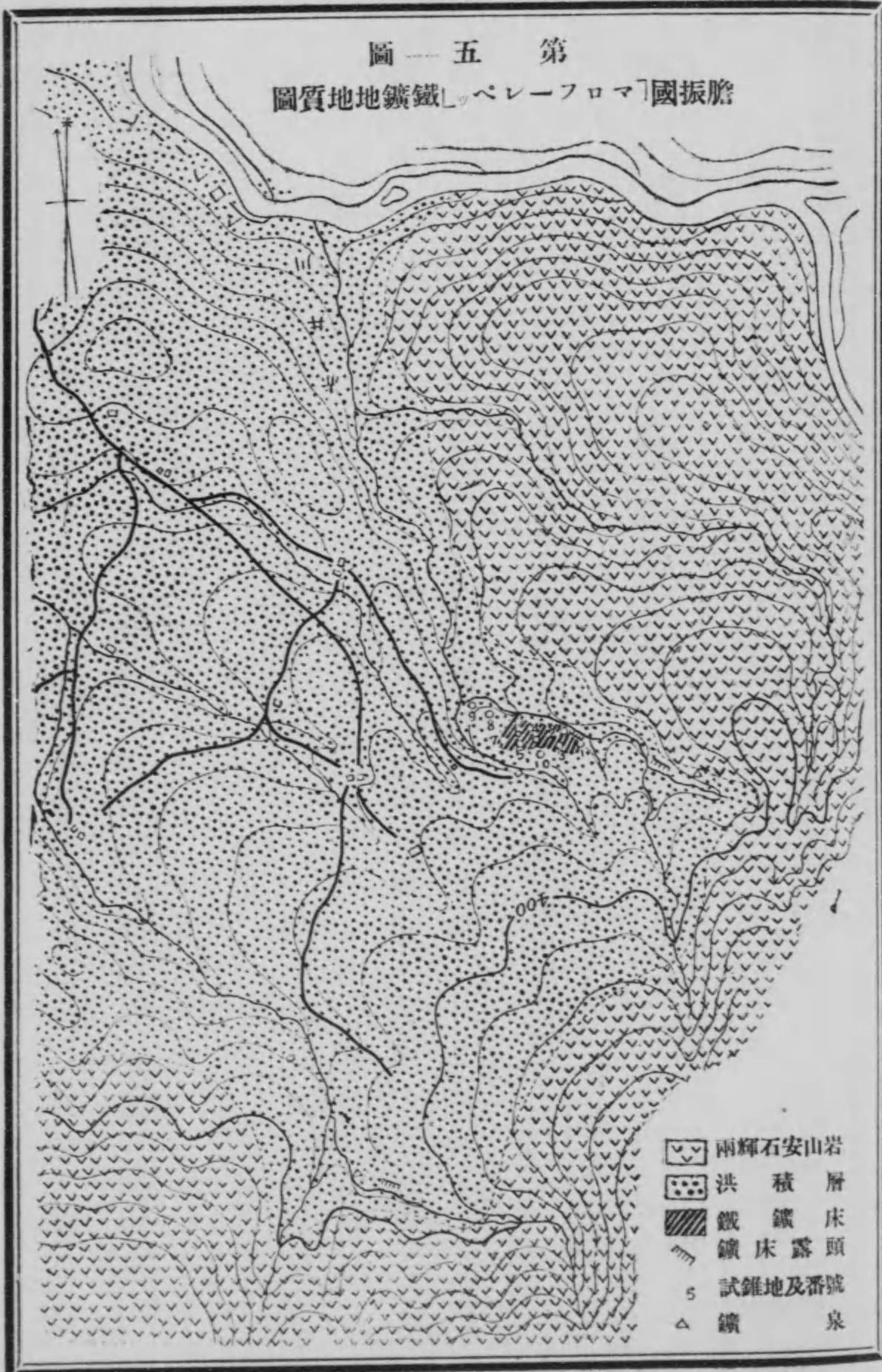
鐵株式會社之ヲ探鑛セシコトアリト云フ

(二) 地勢及地質

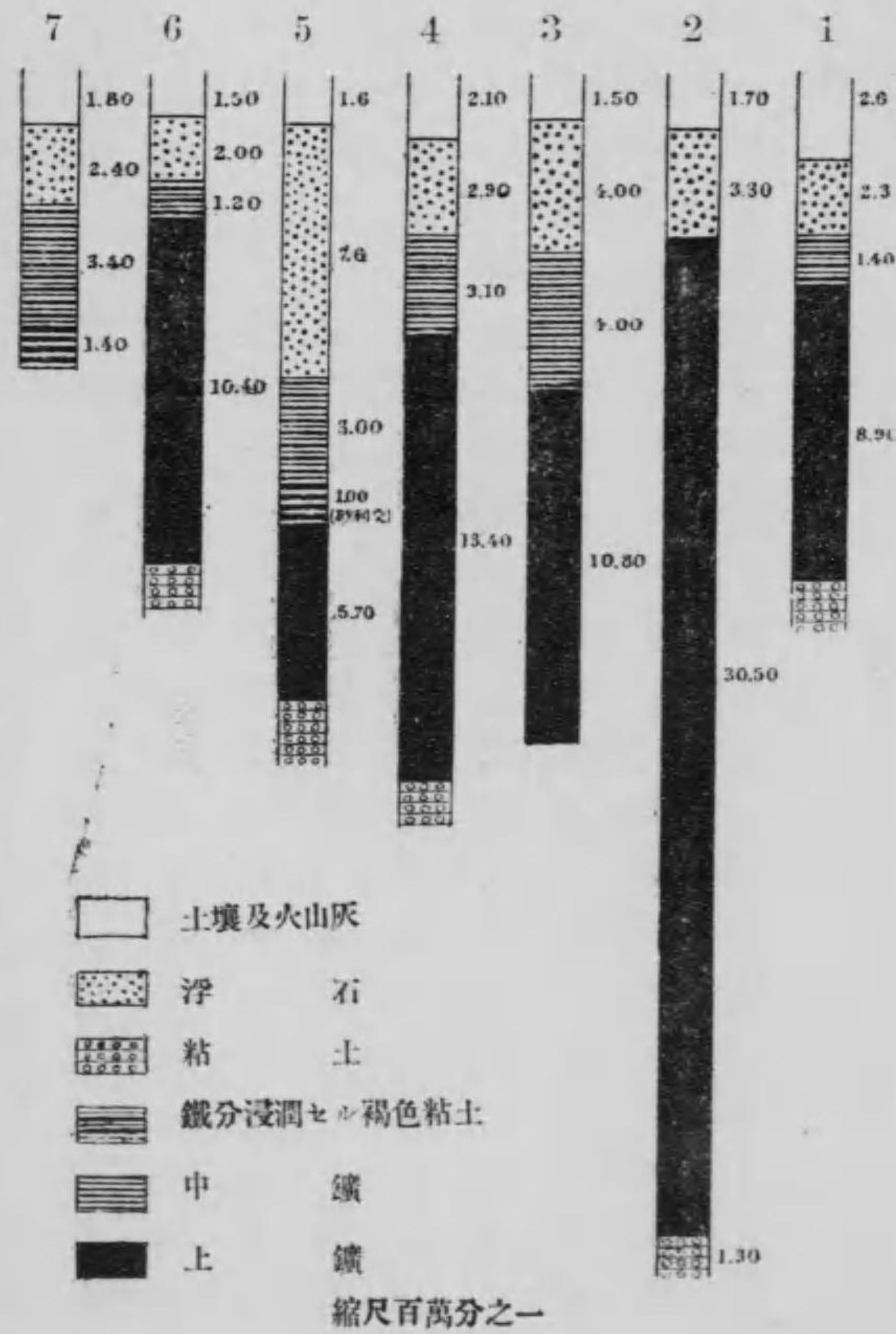
本地域ノ地勢ハ山地及塔段地ノ二帶ニ分ツコトヲ得、山地ハ東部ヲ占メ概ネ急峻ニシテ多クハ森林ニ被ハレ海拔高距平均四五百米ナリ、塔段地ハ山地ノ北西方ニ發達シ本地域ノ大部ヲ占メ波狀ノ起伏ヲナシテ長流川ニ向ヒ緩斜セリ、「マローフェレベツ」(白水川)ハ登別岳ニ發源シ北西ニ流レテ長流川ニ注キ、赤井川ハ其一支流ニシテ鑛床ハ此南岸ニ露出セリ、其他赤井川上流ニ近ク發源シ之ト略ホ直角ノ方向ニ流レ後北西ニ流ル、無名ノ溪流アリ、是等河流ハ孰レモ塔段地ヲ深刻シ峽谷ヲナセル處多シ

地質ハ主トシテ兩輝石安山岩及洪積層ナリトス、兩輝石安山岩ハ山地ヲ構成シ灰色中粒ニシテ玻璃質石基中ニ斜長石及輝石ノ斑晶散點シ斑狀構造著シ、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ斜長石、輝石、磁鐵鑛及玻

第五圖 膽振國マローフェレベツ鐵地質圖



圖六第
地鑛鐵レベローフロマ
圖狀柱床鑛



鑛床ハ含鐵泉ノ沈澱物トシテ成生セシ褐鐵鑛層ニシテ赤井川中流ノ南岸ニ賦存ス、露頭ハ河ニ沿ヒテ五十尺ノ間ニ連互シ厚サ三十尺アリ、

破テ鬆柔含有化潤蘇多ヲ暗鑛
碎頗ニ軟有石葉苔量呈石
シルシ粗シヲヲノ及ノシハ

(三) 鑛床

弱酸性	反應	比重 於ケルニ	攝氏 五度ニ	全固形物	硅酸	酸化鐵 及礬工	「カルシウム」	「マグネシウム」	「ソヂヤウム」	「ボタツシウム」	硫酸	鹽素	「アンモニウム」
		1.000		4.000	2.66	1.66	8.49	0.81	1.39	痕跡	26.77	0.3	現存セス

瓊ヨリ成リ斑晶中ノ輝石ニハ普通輝石及紫蘇輝石ノ二種アリ、洪積層ハ塔段地ヲ構成シテ安山岩ヲ被覆シ最上部ニ火山灰及浮石アリ、次ニ赤土アリ、其下ニ砂礫、最下部ニ粘土アリ、而シテ赤土ト粘土トノ間ニ褐鐵鑛層ノ胚胎スルコトアリ

鑛泉ハ含鐵冷泉ニシテ二箇處ニ湧出ス、其一ハ赤井川上流ノ河岸ニアリテ多量ニ噴騰シ附近一帶ハ沼澤地ヲナシ其一部ニ柔軟ナル鐵鑛ヲ沈澱シツ、アリ、其二ハ無名澤上流ノ東岸ニ湧出ス、其水量前者ニ比シ遙ニ少ナシ、赤井川上流ノ鑛泉ニ就キ本所分析係ニテ分析セシニ其結果左ノ如シ(十萬分中)

易シ、上盤ハ鐵分ノ浸潤セル褐色粘土ニシテ漸次鑛石ニ移化ス
 鑛層ト上下兩盤トノ關係及厚サハ試錐ニヨリ略ホ之ヲ明カニスルヲ
 得タリ、即チ第六圖ニ示スカ如シ、即チ鑛層ノ厚サハ六尺乃至三十尺ニ
 シテ河岸ニ最モ厚ク表土ハ五尺乃至十二尺ニシテ土壤、火山灰、浮石及
 鐵分浸潤セル褐色粘土ヨリ成ル、鑛床賦存ノ區域ハ長サ三百六十尺、幅
 八十尺ニシテ面積三萬五百八十平方尺(八百五十坪)ヲ領シ其厚サハ平
 均十二尺ナルヘク、鑛床ノ容積ハ三十六萬六千九百六十立方尺ナリ、茲
 ニ鑛石十八立方尺ノ重サヲ一噸トシ計算スレハ鑛量ハ二萬三百餘噸
 トナル、然レトモ其過半ハ恐ラク粉鑛ナルヘシ
 本所分析係ニテ、露頭ヨリ採取セシ上鑛ニ就キ試驗セシニ其結果左ノ
 如シ(百分中)

硅	酸	銅	鐵	滿	俺	「チタニウム」	燐	硫	黃	灼熱減量
〇・七〇	現存セス	五三・九三	現存セス	現存セス	現存セス	現存セス	一・〇二	二〇・三七		

無名ノ澤ノ上流ニ小ナル露頭アルモ賦存ノ區域甚タ狭ク且ツ厚サ一
 尺内外ナレハ稼行ニ堪ヘス

(四) 結 章

本鑛床ハ其賦存ノ區域狭小ニシテ僅ニ二萬餘噸ノ鑛石ヲ埋藏スルニ
 過キス、其品質ハ良好ナルモノナキニアラサレトモ概ネ柔軟ニシテ頗
 ル崩壊シ易ク採掘ニ際シ過半ハ粉鑛トナルヘク加フルニ交通不便ノ
 地ニアルヲ以テ有利ニ採掘スルコト難カルヘシ

七 德舜督鑛山(第四版及第五版參照)

(一) 位置及交通

德舜督鑛山ハ有珠郡德舜督村十三號附近ニアリテ白老郡敷生鑛山ト
 分水山脈ヲ挾ミ約三里ヲ距ツ、此地ハ紋督街道ノ一部落ニシテ西紋龍
 ヲ距ル北東方十一里、東俱知安ヲ距ル南方十里ニアリ此間車馬ノ交通

自由ナリ、又有珠、白老兩郡ヲ劃スル分水山脈ヲ越エ室蘭線白老驛ニ至ル山路アリ、此行程八里強ニシテ現時ハ僅ニ徒歩シ得ルニ過キサル徑路ナレトモ將來車道ニ改築スルノ計畫ナリト云フ

(二) 沿革及現況

本鑛山ノ鑛床ハ大正五年三月德舜警村ノ伊藤周次郎之ヲ發見シ、同年十二月同人外六名共同シテ試掘權ヲ獲得セシモ大正六年十二月之ヲ北海道製鐵株式會社ニ讓渡セリ、同會社ハ大正七年七月ヨリ探鑛ヲ開始シ同年十月巡回ノ際ハ既ニ之ヲ了ヘ略ホ鑛床賦存ノ區域ヲ確定セリ、然レトモ未タ探鑛ニ關スル施設ヲナスニ至ラス

(三) 地勢及地質

本鑛山ハ「トクシユウジユベツ」山ノ西ニ聳ユル「ホロホロ」山ノ西麓ニアリテ波狀ノ臺地ノ一部ヲ占メ該臺地ハ開墾セラレテ畑地トナレル處多シ

「ホロホロ」山ハ此附近ニ於ケル秀峯ニシテ高サ千二百餘米ニ聳立ス、河流ニ十二號澤及十四號澤アリ、十二號澤ハ本鑛山ノ南邊ヲ限リ十四號澤ハ其北邊ヲ劃シテ共ニ「ホロホロ」山ニ近ク發源シ深谷ヲ刻ミテ西流シ長流川ニ入ル、此外本地域ノ中央ヲ西流スル小澤アリテ本地域ノ西方ニテ十二號澤ニ注ケリ、鑛床ハ波狀ノ臺地ノ稍低平ナル地域ニ賦存ス

地質ハ頗ル簡單ニシテ主トシテ輝石安山岩ヨリ成リ只中央部ノ低平ナル地域ハ洪積層發達ス、輝石安山岩ハ灰色ヲ呈スル緻密堅硬ノ岩石ニシテ多量ノ斑晶ヲ含メリ、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石基ハ玻璃基流品質ノ構造ヲ示シ斜長石、普通輝石及紫蘇輝石ヲ斑晶トシ兩輝石安山岩ニ屬ス、洪積層ハ輝石安山岩ヲ被覆シ最上部ハ赤土ニシテ往々礫ヲ雜ヘ其下ニ砂礫アリテ礫ハ皆輝石安山岩ナリトス、最下部ハ褐色乃至灰色ノ粘土トス、而シテ赤土ト粘土トノ間ニハ鐵鑛層ノ胚胎スルコトアリテ此場合ニハ概シテ砂礫ヲ缺如ス

鑛泉ハ二箇處ニ湧出ス、一ハ本地域ノ中央ヲ西流スル小澤ノ水源ヲナシ一ハ十四號澤ノ上流ニアリ、孰レモ水量豊富ニシテ其附近一帶ハ柔軟、粗鬆ナル褐鐵鑛ヲ沈澱シ蘚苔雜草其上ニ繁茂セリ

(四) 鑛床

鑛床ハ褐鐵鑛層ニシテ二箇處ニ賦存ス、一ハ十三號ト十四號トニ跨リテ東六線ノ東西ニ擴カレリ之ヲ甲鑛區ト云フ、一ハ甲鑛區ノ南東約八町ヲ距ツル十四號澤ノ上流ニアリテ之ヲ乙鑛區ト稱ス
甲鑛區ノ鑛床ハ本地域ノ中央ヲ西流スル小澤ノ上流ニアリテ鑛泉ヲ中央ニ略ホ東西ニ延ヒ長サ三千四百六十尺、幅四百尺ニ達シ面積約百二十五萬平方尺(三萬四千七百餘坪)ヲ領ス、而シテ鑛泉湧出口附近及其西方舊鑛泉跡附近ニ僅ニ鑛石露出セルト畑中ニ鑛石ノ轉石ヲ認ムル外鑛床ハ普ク表土ニ被ハレ其露頭ヲ見ス、本鑛床ト上下兩盤トノ關係及各層ノ厚サハ第五版ニ示スカ如シ、即チ鑛層ハ赤土ト粘土トノ間ニ

挾在シ往々二尺乃至七尺ノ粘土或ハ鐵分ニ浸潤セラレタル粘土ヲ挾有スルコトアリ、表土ハ平均五六尺ニシテ最モ厚キ處ニテ十二尺ニ達ス、鑛層ハ鑛泉湧出口附近ヲ境トシ西部ニ於テハ第四十六號、第五十號及第五十五號ノ各試錐地ヲ連ヌル一帶ニ最モ厚ク厚サ二十尺乃至二十八尺ニ達シ是ヨリ北方及南方ニ漸次尖滅ス、東部ニ於テハ第二十七號試錐ニ見ル三十五尺ヲ最厚部トシ徐々ニ四邊ニ縮迫ス、又東端第三號及第八號試錐地附近稍厚ク十五尺乃至十九尺ニ達セリ、鑛石ハ畑中ノ轉石及探鑛井ヨリ得タルモノニ就テ之ヲ檢スルニ概ネ暗褐色乃至黃褐色ヲ呈シ稀ニ緻密ニシテ堅硬ナルモノナキニアラサレトモ多クハ粗鬆ニシテ殊ニ西部ノ鑛泉跡附近ノモノハ多ク蘚苔類ノ型痕ヲ印シ柔軟ニシテ頗ル破碎シ易シ
本所分析係ニ於テ鑛石ヲ試驗セシニ其結果左ノ如シ(百分中)

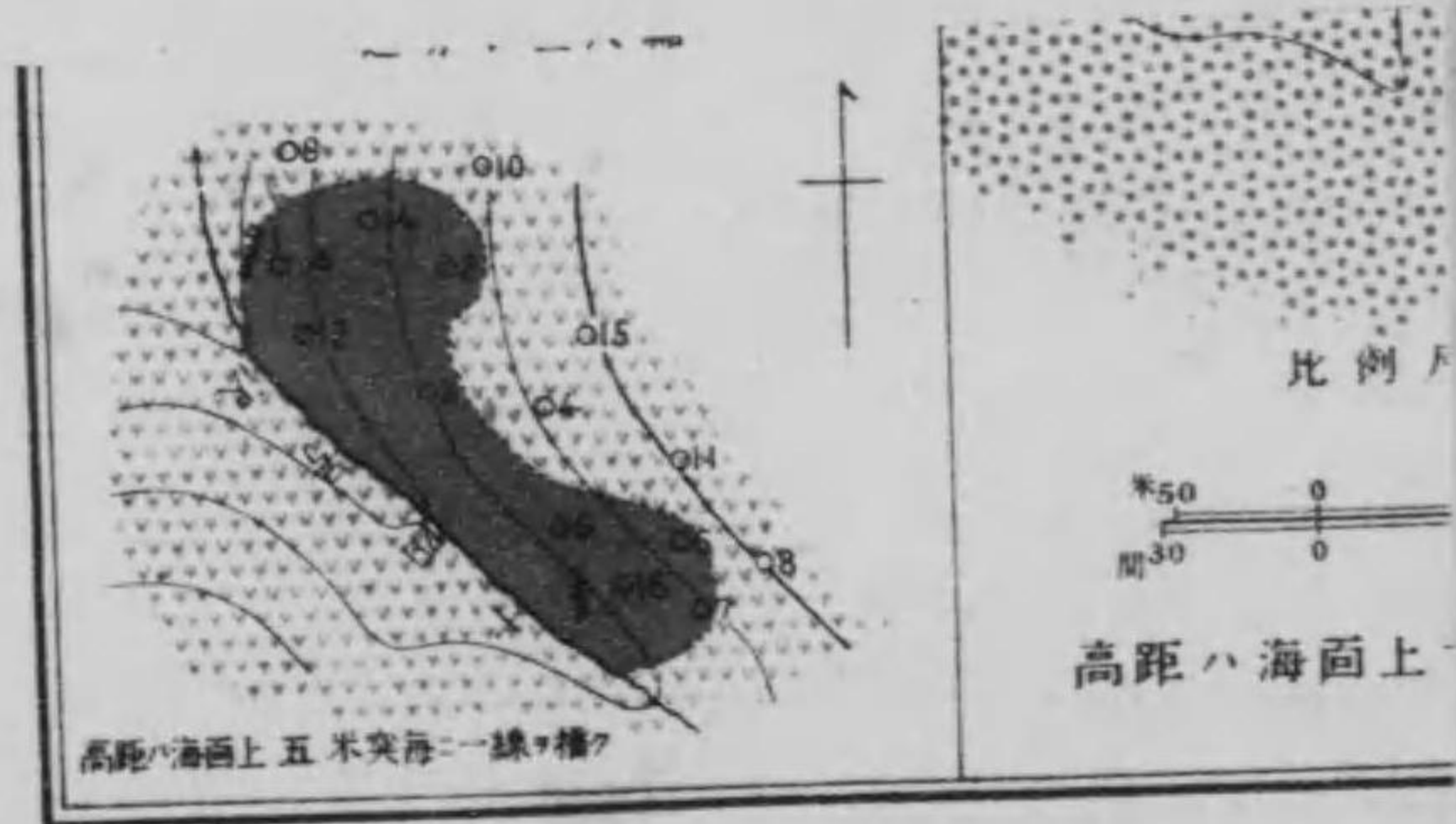
鑛石別	硅酸	銅	鐵	滿	俺	「チタニウム」	燐	硫	黃	灼熱減量
-----	----	---	---	---	---	---------	---	---	---	------

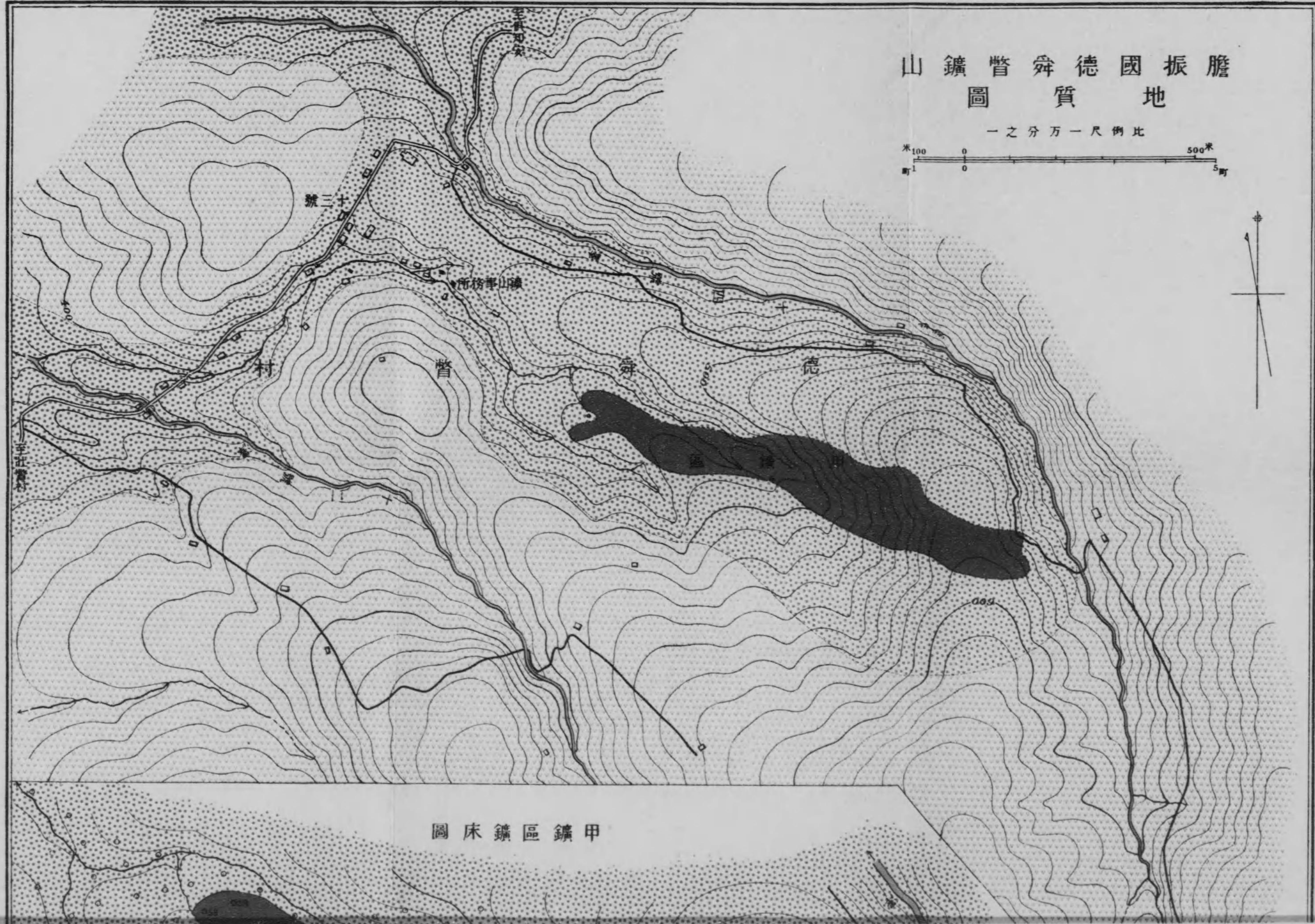
試錐第二十七號	七・三四	現存セス	五〇・一〇	痕跡	〇・二六	痕跡	〇・三二	一九・四七
同 第四十五號	三・四二	同	四九・四三	現存セス	現存セス	〇・〇二	〇・二八	二五・二九
同 第四〇號	八・〇四	同	四九・〇〇	痕跡	痕跡	〇・〇五	〇・一九	二〇・〇二

北海道製鐵株式會社ニテ鑛石ヲ分析セシ結果ハ左ノ如シ(百分中)

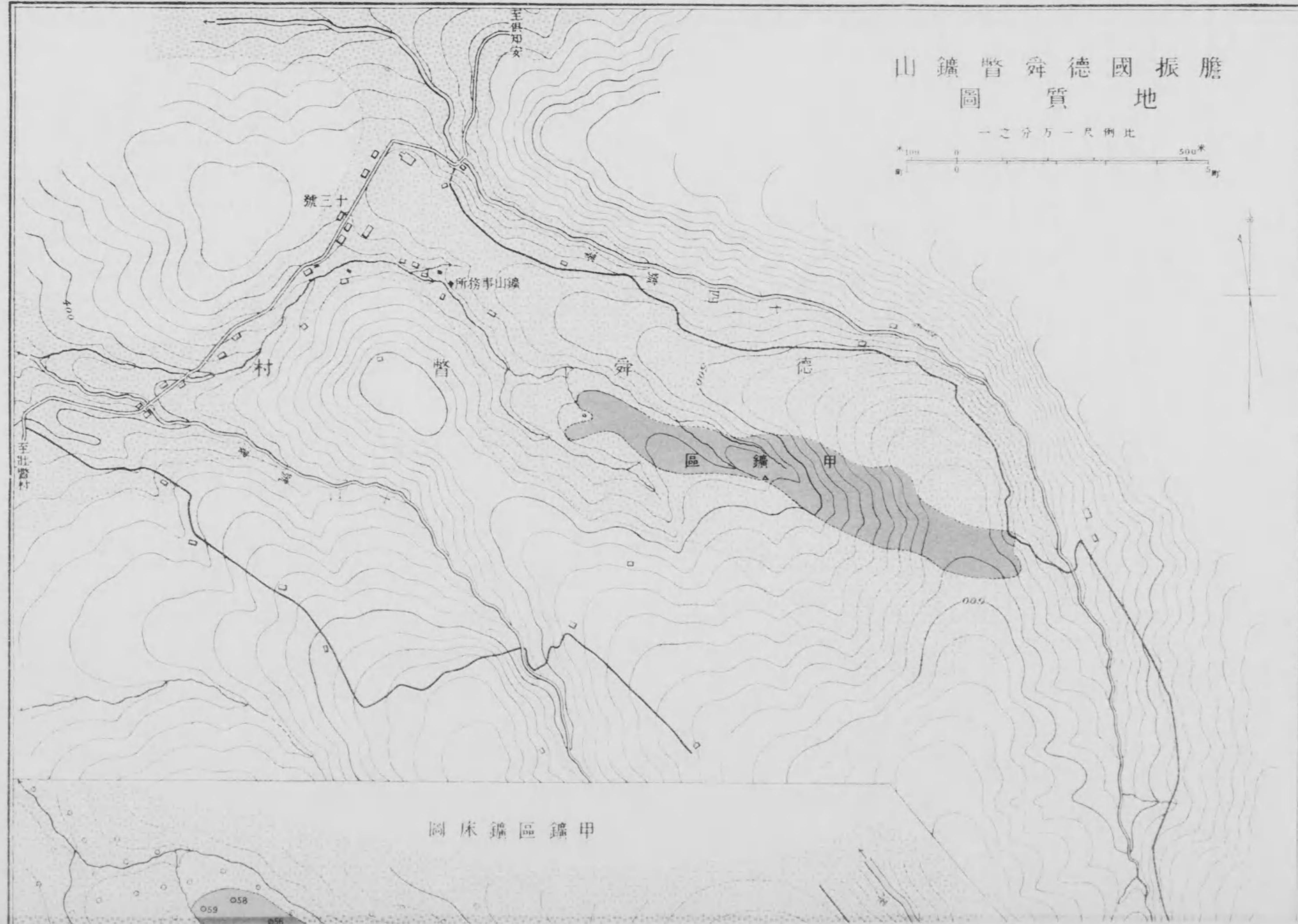
鑛石別	硅	酸	銅	鐵	滿	俺	磷	硫	黃
第一種	一五・一九		〇・〇〇一	四七・四二		〇・〇七	痕跡		〇・三九四
二種	四・二三		〇・〇〇四	五三・一一		〇・〇九	〇・〇八六		〇・三一六

本鑛床賦存ノ區域ハ試錐ニヨリ確認セラレ其面積約百二十五萬二百平方尺アリ、其厚サハ處ニヨリ差異アルモ平均十一尺トナスヲ適當トス、而シテ鑛石十八立方尺ノ重サヲ一噸トシテ計算スルニ鑛量ハ約七十六萬三千八百噸ナリ、今鑛石ノ含鐵量百分中五十以上ヲ上鑛、同四十五以上ヲ中鑛、同四十五以下ヲ下鑛トセハ上鑛及中鑛ハ鑛量ノ約六割





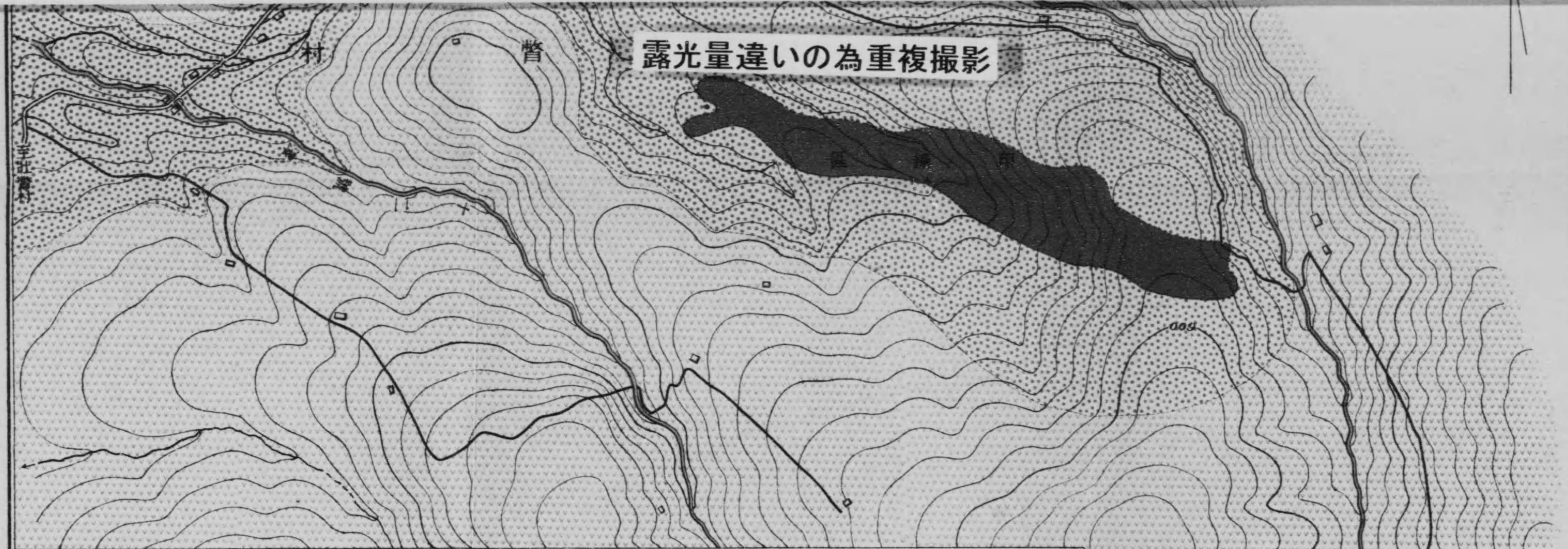
露光量違いの為重複撮影



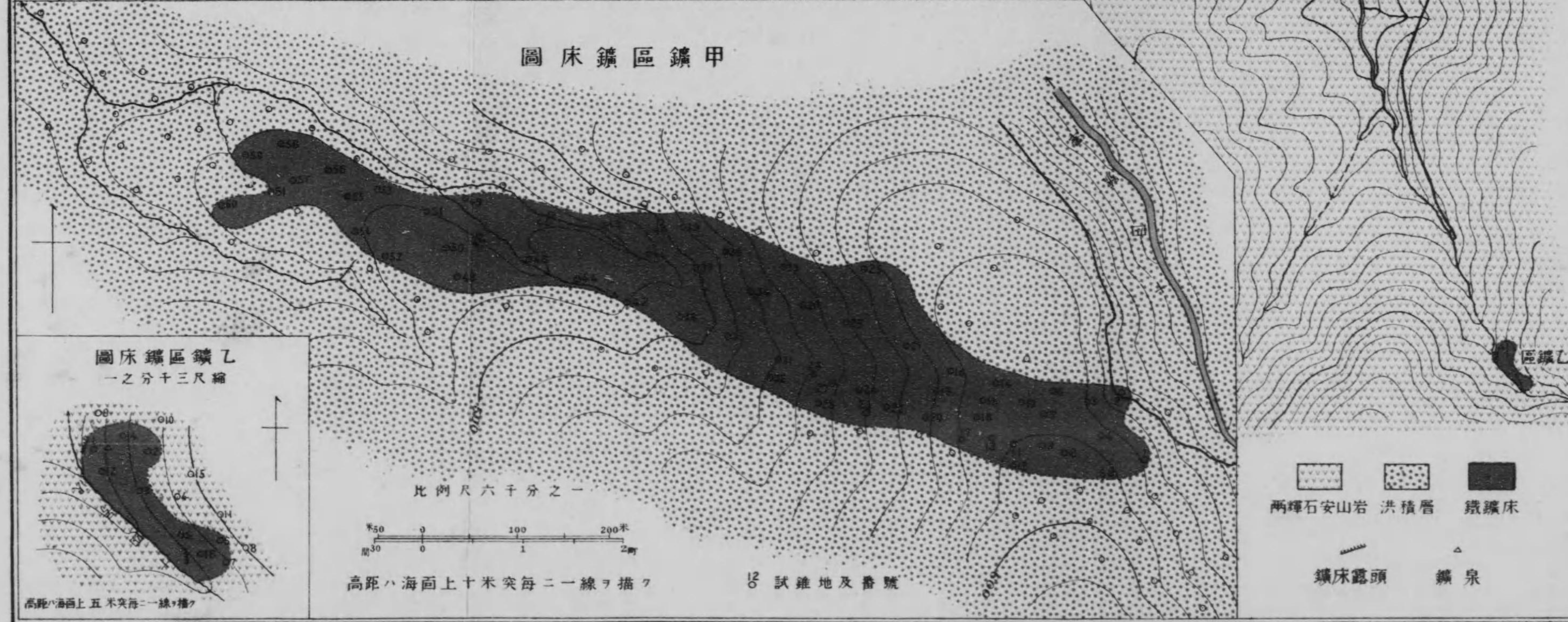
第四版

甲鐘區鎮床圖

露光量違いの為重複撮影



圖床鑛區鑛甲

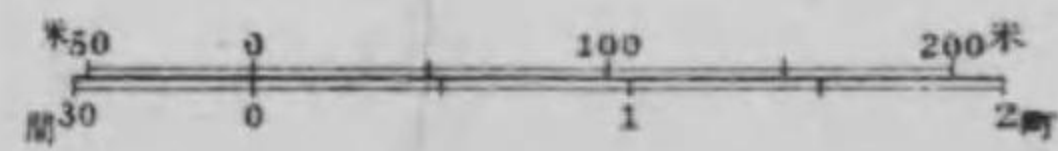


圖床鑛區鑛乙
一之分千三尺縮



高距ハ海面上五米突毎二一線ヲ描ク

比例尺六千分之一



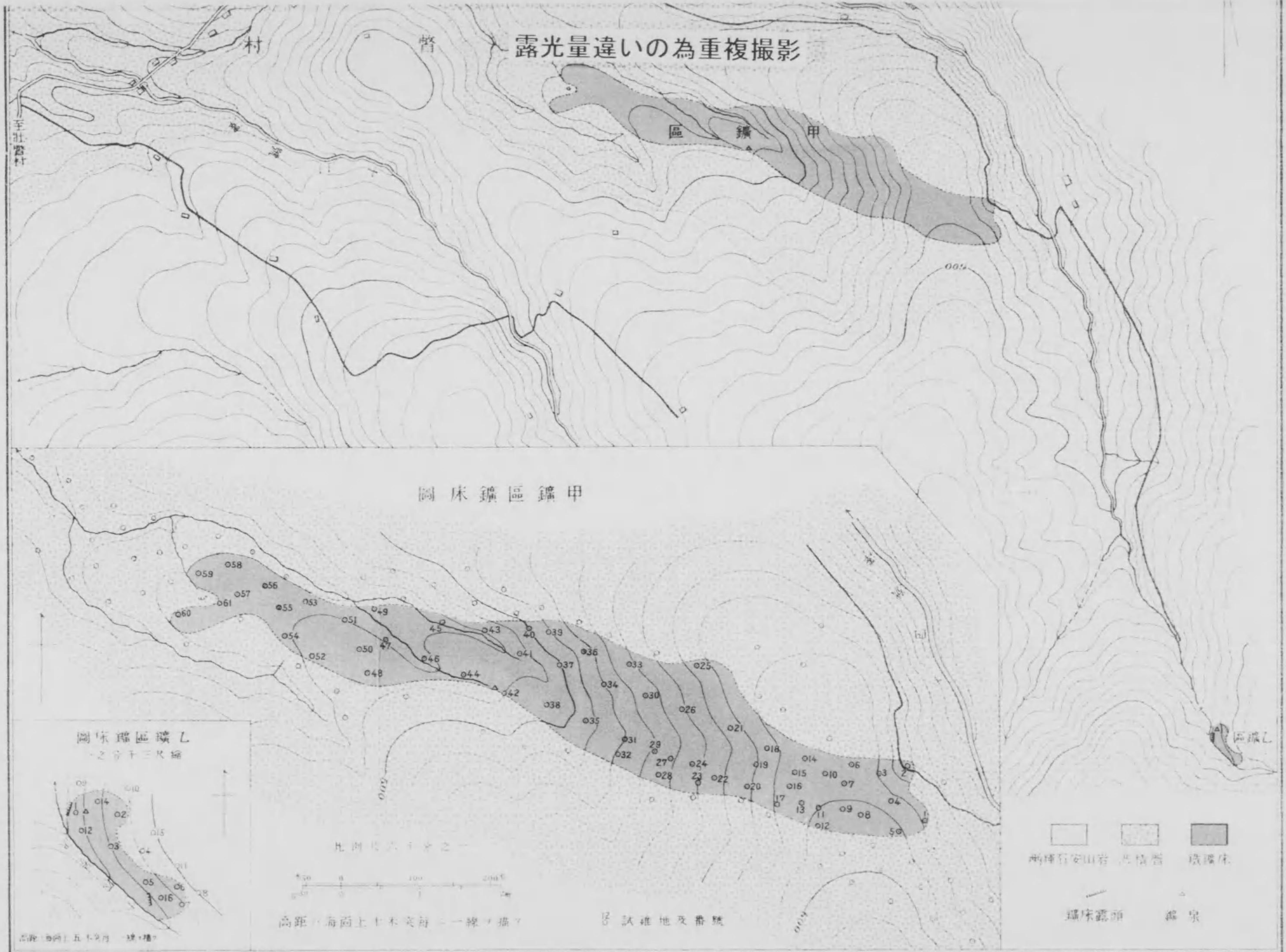
高距ハ海面上十米突毎二一線ヲ描ク

試錐地及番號

兩輝石安山岩 洪積層 鐵鑛床

鑛床露頭 鑛泉

高距ハ海面上十米突毎二一線ヲ描ク



高距、海面上十米突毎一線ヲ攝テ

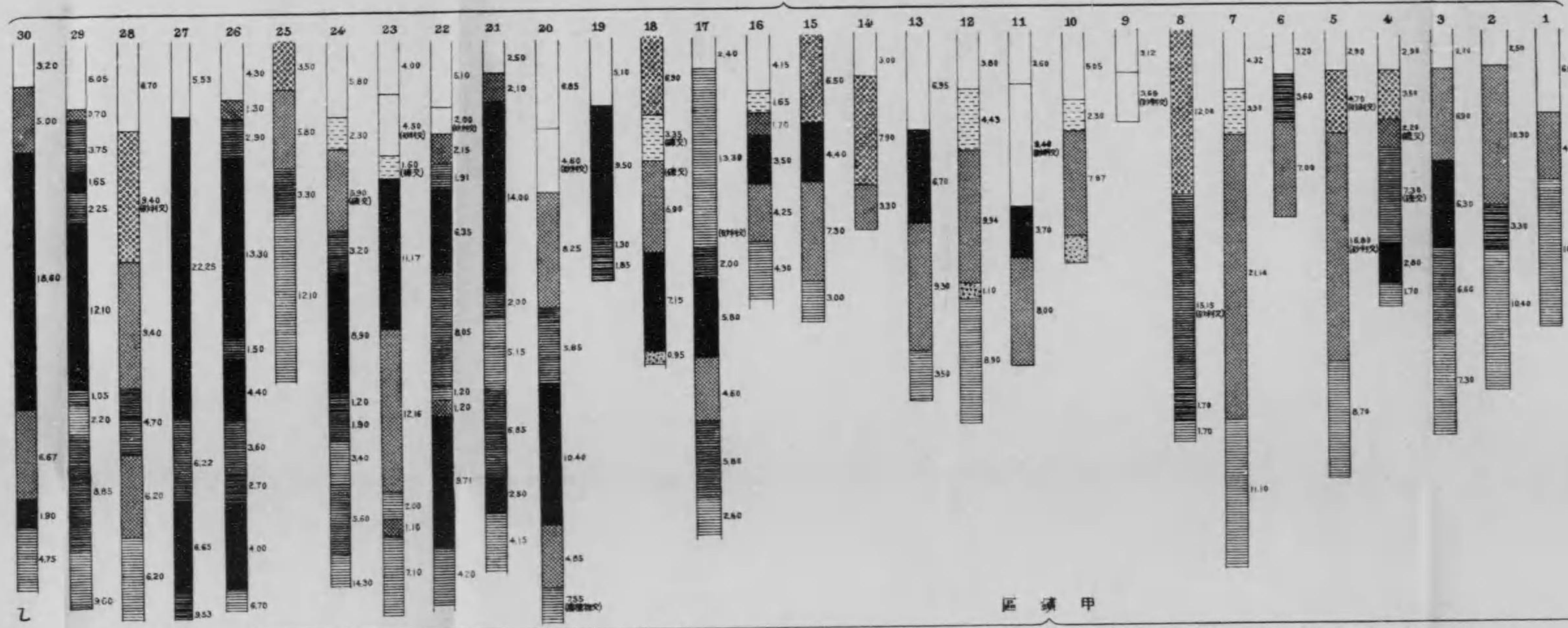
高距ハ海面上十米突毎一線ヲ攝テ

圖面斷狀柱床鑛山鑛警舜德國振騰

一之分百尺縮

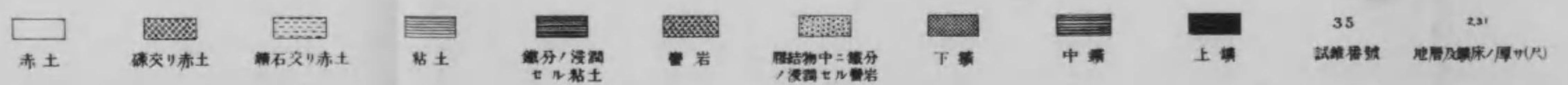
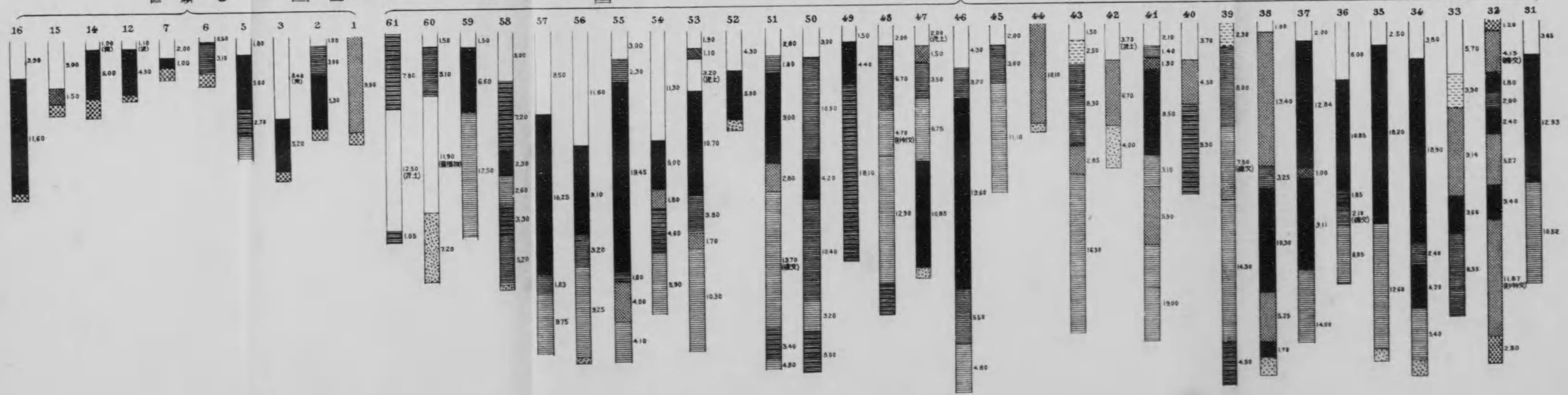
區鑛甲

第五版



區鑛乙

區鑛甲

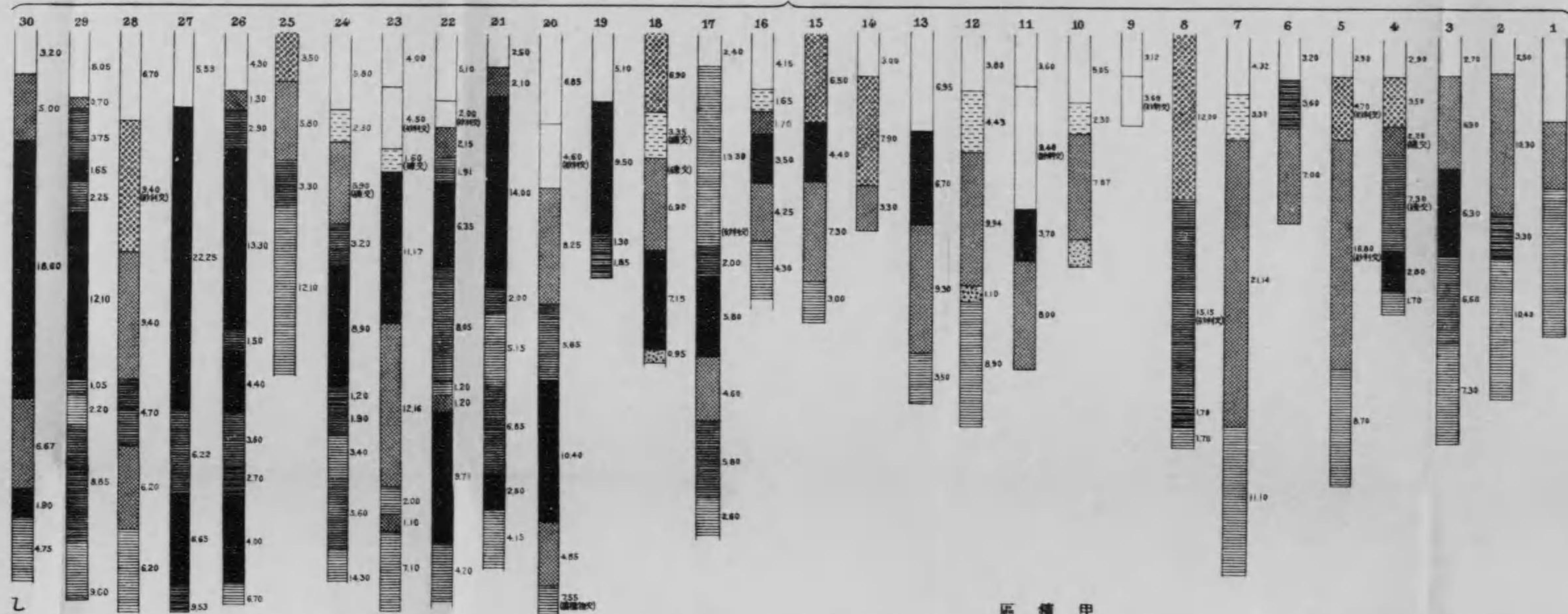


圖面斷狀柱床鑛山鑛督魯德國振膽

一之分百尺縮

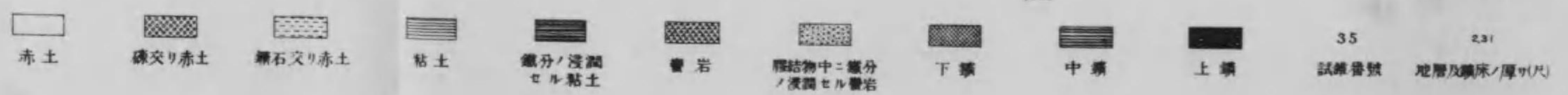
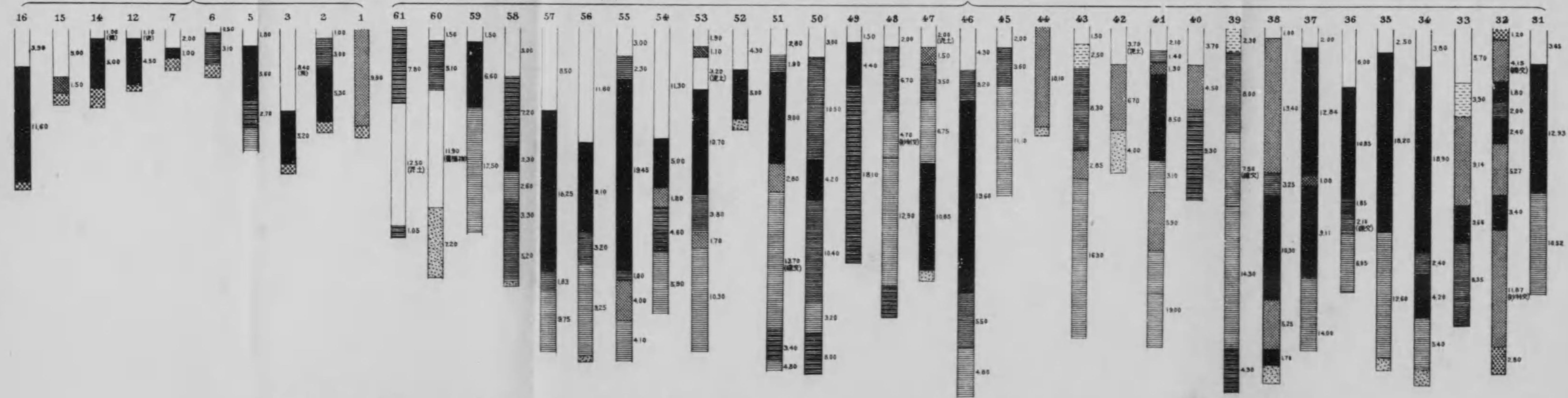
區鑛甲

第五版



區鑛乙

區鑛甲



五分ヲ占ムヘク其賦存ノ状態ハ第五版ニ示スカ如シ
乙鑛區ノ鑛床ハ十四號澤ノ上流ニアリ、其露頭ハ澤ノ東岸ニ沿ヒ約百
尺ニ互リ高サ二十尺内外ノ斷崖ヲナス、此崖上ニ含鐵冷泉湧出セリ、本
鑛床ヲ試錐セル結果ハ第五版ニ示スカ如シ、鑛石ハ露頭ニ就テ之ヲ檢
スルニ概ネ暗褐色ヲ呈シ柔軟、粗鬆ニシテ頗ル破碎シ易シ、本鑛床ハ其
賦存區域及其厚サ大ナラス加フルニ其品質良好ナラサレハ現狀ニ於
テ稼行ニ堪ヘサルヘシ

(五) 結 章

本鑛床ハ表土概シテ薄ク採鑛甚タ容易ナルモ土地僻在シ鑛石ノ運搬
ニ不利アリ、然レトモ白老郡敷生鑛山トハ比較的近距离ニアルヲ以テ
此間ニ索道ヲ架設シ鑛石ヲ敷生ヲ經テ輪西製鐵所ニ輸送セントスル
計畫ハ蓋シ本鑛床開發ニ對スル良策ナルヘシ

八 太刀川鑛山(第七圖)

(一) 位置交通及沿革

太刀川鑛山ハ虻田郡喜茂別村字赤川ニアリテ喜茂別川ノ支流赤川ノ中流地ヲ占メ喜茂別市街地ヨリ上喜茂別村落ヲ經約一里半ニシテ達スヘク、東俱知安市街地ハ喜茂別市街地ノ北西方三里ニアリ、又函館本線ノ一驛ニシテ後志支廳ノ所在地タル俱知安市街地ハ東俱知安ノ西方四里ニ位ス、而シテ上喜茂別、本鑛山間ハ駄馬ヲ通スルノミナルモ其他ハ車馬ノ便アリ、又俱知安、東俱知安間ハ現時鐵道敷設ノ工事中ニシテ大正八年開通ノ豫定ナリト云フ

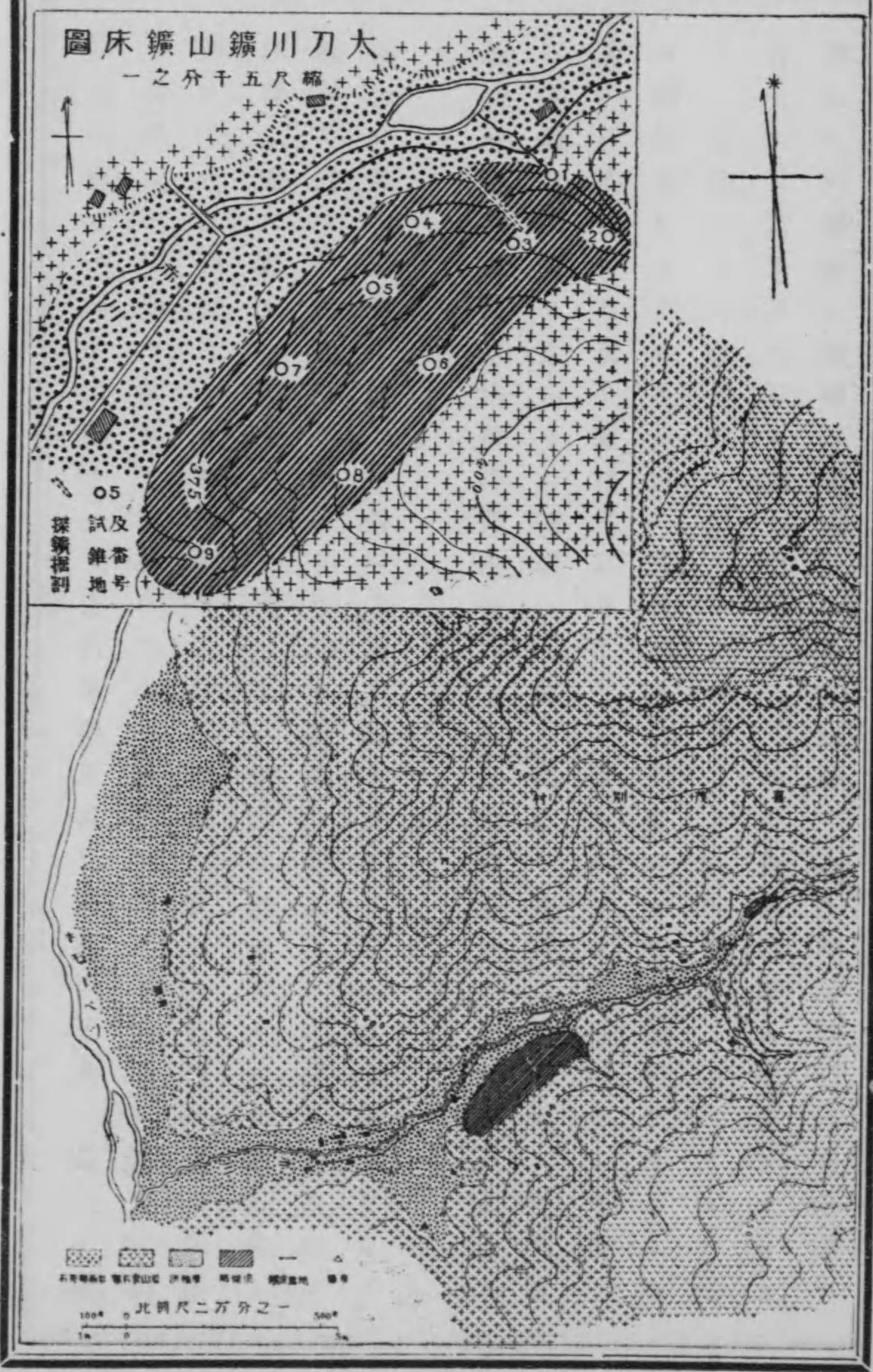
本鑛山ノ鑛床ハ十數年前赤倉某之ヲ發見ス、大正五年太刀川又八郎ノ所有トナリ名ヲ太刀川鑛山ト命シ同年十二月ヨリ探鑛ヲ開始シ大正七年春期之ヲ了ヘ略ホ鑛床賦存ノ區域ヲ確定セリ、然レトモ未タ採鑛ノ施設ヲナスニ至ラス

(二) 地勢及地質

本鑛山附近ハ概ネ山地ニシテ喜茂別川及其支流赤川下流ノ沿岸ニ僅ニ狹長ナル平地ヲ貽セリ、山地ハ次第ニ西方ニ低下シ西部ニ於テハ開墾セラレテ畑地ヲナセル處多ク人家亦其間ニ點在ス、喜茂別川ハ膽振、石狩二國ノ境上ニ聳ユル「キモーベツ」山ニ發源シ峽谷ヲナシテ本地域ノ西邊ヲ劃シ、支流赤川亦峽谷ヲナセル處多ク本地域ノ中央ヲ西南西ニ流走シ其中流及下流ノ砂礫ハ水酸化鐵ノ皮膜ニ被ハレ赤褐色ヲ呈セリ

地質ハ石英粗面岩、兩輝石安山岩、火山灰及洪積層ナリトス、石英粗面岩ハ基盤ヲ構成シ主トシテ西部ニ露出ス、岩石ハ帶黃白色緻密ニシテ石英ハ石英粒ヨリ成リ微粒狀構造ヲナシ、斑晶ハ長石及石英ニシテ石英ハ融蝕セラレタルモノ多シ、此外暗灰色緻密ニシテ黃鐵鑛ヲ散布スルモノ、灰色ニシテ角蝕狀ヲ呈スルモノ等アリ、其角蝕狀ヲ呈スルモノハ著シク硅質作用ヲ受ケ頗ル堅硬ニシテ河岸或ハ山顛ニ絶壁ヲナシテ露出スル處多シ、兩輝石安山岩ハ多ク東部ヲ占メ石英粗面岩ヲ被覆ス

第七圖
膽振國太刀川鑛山鑛地質圖



ルモ又赤川下流ノ北岸ニハ石英粗面岩ヲ貫キテ略ホ東西ニ走レル小
 岩脈ヲナスモノアリ、岩石ハ灰色又ハ暗灰色中粒ニシテ斑点多シトス、
 之ヲ顕微鏡下ニ檢スルニ石英基ハ斜長石及輝石ノ微品ヨリ成リ玻璃ニ
 富ムモノト然ラサルモノトアリ、斑品ハ斜長石、普通輝石、紫蘇輝石及磁
 鐵鑛ナリトス、火山灰ハ火山砂及指頭大ノ浮石ヲ雜ヘ厚サ數十尺ニ達
 ス、洪積層ハ河岸ニ小區域ヲ領シ概ネ砂礫ヨリ成ル、礫ハ安山岩ヲ主ト
 シ稀ニ石英粗面岩アリ
 鑛泉ハ含鐵冷泉ニシテ二箇處ニ湧出ス、一ハ赤川ノ支流瀧之澤ノ下流
 ニアリテ河床ヲナセル石英粗面岩ノ裂罅ヨリ湧出シ直ニ河水ト混淆
 ス、一ハ赤川中流ノ北岸ニアリテ砂礫中ヨリ盛ニ湧出ス、而シテ河底ノ
 砂礫ノ赤褐色ヲ呈スルハ是等湧出口ヨリ下流ノ部分ナリトス

(三) 鑛床

鑛床ハ褐鐵鑛層ニシテ赤川中流及瀧之澤ノ沿岸ニ露出スルモノアル

第 八 圖
太刀川鑛山質地斷面圖
縮尺五千分一



石英粗面岩 洪積層 火山灰 鐵鑛床

モ是等ハ共ニ狭小ナリ、主要ノ鑛床ハ赤川下流ノ南岸ニ沿ヒ賦存シ北東ヨリ南西ニ互リ長サ千三百尺、幅五百尺ニ擴カリ面積四十五萬三千六百平方尺(一萬四千六十餘坪)ヲ領ス、然レトモ地表ハ概ネ畑地ニシテ鑛床ノ露頭ナク只山麓ニ鑛石ノ轉石ヲ認ムルノミ、試錐ノ結果ヨリ察スルニ鑛層ハ石英粗面岩ノ上ニ座シ厚サ三尺乃至五十尺ノ火山灰ニ被ハル、厚サハ一定セスシテ二十尺乃至五十尺ノ間ニアリ(第八圖参照)

左ニ試錐ノ結果ヲ掲ク、試錐ハ數十箇處ニ就キ施行シタリト云フモ其位置明カナラサルモノ、多キヲ以テ茲ニハ其確實ナリト信スルモノ、ミヲ記スヘシ

試錐番號	表土厚サ(尺)	鑛層厚サ(尺)	試錐番號	表土厚サ(尺)	鑛層厚サ(尺)
第一號	四・〇	三二・四	第六號	三〇・五	四四・九
第二號	五・〇	三二・四	第七號	二八・一	三七・二
第三號	七・〇	六一・二	第八號	四八・五	五四・四
第四號	九・七	三九・八	第九號		二三・七
第五號	二四・七	五五・九			

鑛層ハ傾斜面ト略ホ並行シテ沈積シ其上部ハ鑛石ノ轉石火山灰ニ雜リテ不規則ニ累積セリ、鑛石ハ暗褐色若クハ黃褐色ヲ呈シ堅硬緻密ニシテ亞金屬光澤ヲ有スルモノ、多孔質粗鬆ニシテ光澤ナキモノ等アリ本所分析係ニテ、採取セシ鑛石ヲ試驗セシニ其結果左ノ如シ(百分中)

上 鑛 石 別	矽 酸	銅	鐵	滿 俺	「チタニウム」	燐	硫 黃	灼熱減量
一・〇七	現存セス	五〇・五八	現存セス	現存セス	〇・〇六	〇・二一	一七・一六	

テ礦物調査報告第八號ニアリ、依テ茲ニハ本鑛山ノ概要ト現狀トヲ記述スヘシ

(一) 位置沿革及産額

虻田鑛山ハ虻田郡虻田村ニアリ、鑛床ハ字學田、「ベト、ル」、床丹「イタヤ」等ニ跨リ之ヲ北部、中部及南部ノ三區ニ分ツ、北部及中部ノ鑛床ハ相隣接シテ虻田市街ノ北東方千二三百米ニ位シ南部ノ鑛床ハ同市街ノ東南東六百米ニアリ、虻田市街ハ噴火灣ニ臨メル小港ニシテ戸數四百餘アリ、室蘭ヲ北西ニ距ル海路十九哩ニシテ此間汽船ノ往復アリ、北部及中部ノ鑛石ハ一哩餘ノ軌道ニヨリ虻田海岸ニ、南部ノ鑛石ハ二哩半ノ軌道ニヨリ有珠海岸ニ搬出シ孰レモ海路輪西製鐵所ニ輸送ス、然レトモ冬季ニハ虻田灣ハ風浪荒ク船舶ノ繫留ニ適セサレハ北部及中部ノ鑛石モ之ヲ有珠海岸ニ搬出スト云フ

本鑛山ノ鑛床ハ明治二十五年頃ノ發見ニ係リ同三十三年大西臨造、山

内毅一郎共同シテ探掘權ヲ得タリ、明治三十六年橋本忠次郎ノ有ニ歸シ同三十八年ヨリ探掘ニ著手シ鑛石ハ八幡製鐵所及幌別鑛山ニ賣却セシモ後之ヲ中止セリ、同四十一年一時稼行セシモ翌年ニ至リ再ヒ休業セリ、大正二年三タヒ探掘ヲ開始シ同五年迄繼續稼行セリ、同年九月之ヲ北海道炭礦汽船會社ニ讓渡シ、大正六年二月北海道製鐵株式會社ノ創立ト共ニ同社ノ繼承スル所トナリ以テ今日ニ至レリ

明治三十九年以後ノ産出額左ノ如シ

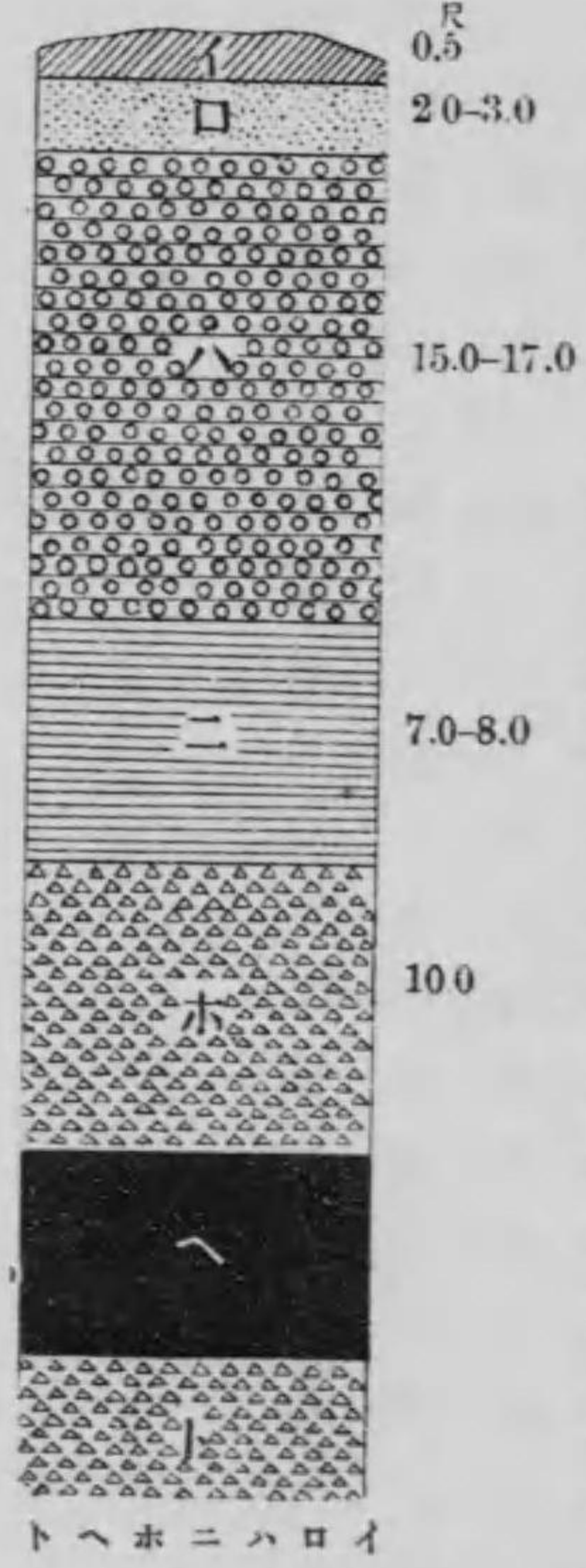
年次	産額(噸)	年次	産額(噸)
自明治三十九年	四九、六一六	大正七年(九月マテ)	四五、八九七
自同大正五年	約八〇、〇〇〇	合計	1103,118
大正六年	二七、六一六		

(二) 地勢及地質

本地域ハ山地、塔段地及低地ニ區分スルコトヲ得、山地ハ噴火灣ト洞爺湖トノ間ニ分水嶺ヲナシ噴火灣ニ向ヒ緩傾斜ヲナス、高サハ三百米内外ニシテ北々西ナル「ボロモイ」山ヲ以テ最高點トナス、塔段地ハ山地ニ沿ヒテ緩傾斜ヲナシ山地ニ漸移スルモ低地ニ沿ヒテハ甚タ平坦ニシテ其縁邊ハ高サ數米ノ塔段ヲナス、低地ハ海岸ニ沿ヒテ幅二三百米ノ一帯ヲナセリ、而シテ塔段地及低地ハ共ニ能ク田畑ニ開墾セラル、河流ハ「フリーレナイ」(赤川)ヲ主要ナリトシ、水源ニアリ、孰レモ源ヲ「ボロモイ」山ニ發シ塔段地ヲ深刻シテ蛇田市街ノ南端ニ近ク海ニ入ル、其河岸ニハ處々ニ含鐵冷泉湧出セリ、支流ニハ墓地ノ澤等アルモ孰レモ小ナリ地質ハ石英粗面岩、兩輝石安山岩、洪積層及沖積層ナリトス、石英粗面岩ハ本地域ノ基盤ヲナシ赤川上流右俣澤及墓地ノ澤ニ小區域ニ露出ス、岩石ハ灰白色緻密ノ石基中ニ石英及長石ノ斑晶ノ散點スルモノニシテ堅硬ナリ、兩輝石安山岩ハ石英粗面岩ヲ被覆シ主トシテ山地ヲ構成シ熔岩ト集塊岩トニアリ、岩石ハ暗灰色ヲ呈シ中粒乃至細粒ナリ、石

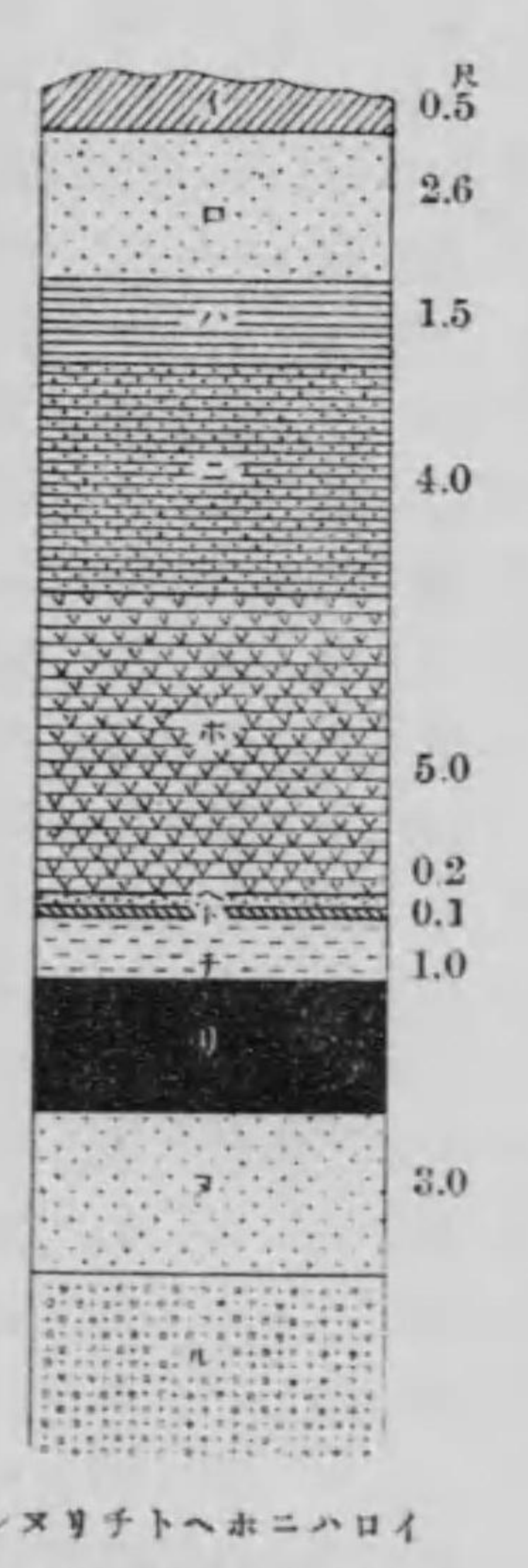
基ハ柢木狀斜長石、輝石、磁鐵鑛及玻璃ヨリ成リ、斑晶ハ斜長石、普通輝石及紫蘇輝石ナリ、而シテ普通輝石ハ綠泥質物ニ變質セルモノ多シ

圖九第 段上部中山鑛田蛇 圖狀柱質地



トヘホニハロイ
礫鐵礫浮砂火土
鑛 鑛 石交山
床 質砂土 灰壤

圖十第 部南山鑛田蛇 圖狀柱質地



ルメリチトヘホニハロイ
浮火鐵鑛白砂浮砂灰火土
石交山鑛リ粘石利色山
砂灰床土土砂土土灰壤

洪積層ハ塔段地ヲ構成シ浮石質砂層、礫層、粘土層及火山灰ヨリ成リ南

西方ニ十度内外ニ傾斜ス、浮石質砂層ハ黃褐色ヲ呈シ中粒乃至細粒ナリ、礫層ハ輝石安山岩及石英粗面岩ノ礫ヲ砂質粘土ヲ以テ膠結セルモノニシテ鑛床附近ニ於テハ此膠結物中ニ水酸化鐵浸潤シ鐵質角礫岩ニ移化セルモノアリ、粘土ハ灰色又ハ淡褐色ニシテ鑛床附近ニ於テハ赤褐色ヲ呈シ砂質又ハ凝灰質ナルモノ多シトス、第九圖及第十圖ニ於テ鑛床附近ニ於ケル洪積層ノ断面ヲ示セリ、沖積層ハ海岸ノ低地ヲ構成シ主トシテ砂及礫ヨリ成ル

(三) 鑛床

本鑛山ノ鑛床ハ褐鐵鑛ノ鑛層ニシテ二箇處ニ賦存ス、一ヲ中部及北部ト云ヒ一ヲ南部ト稱ス、鑛床ハ孰レモ洪積層中ニ挾在シ其賦存ノ状態ハ試錐ニヨリ略ホ之ヲ明カニスルヲ得タリ、即チ第十一版ニ示スカ如シ
(一) 中部ノ鑛床 ハ虻田市街ノ北東方約千米ニアリテ「アールナイ」西岸

ニ沿ヒ長サ千五百五十尺、幅百六十尺ニ擴カリ面積三十一萬七千二百平方尺(八千八百坪)ヲ領ス、其北東部ヲ上段ト云ヒ南西部ヲ下段ト稱ス、下段ノ鑛床ハ本鑛山開發ノ當初ヨリ採掘シ既ニ大部分採掘セラレ現時ハ其北東部ニ於テ河ニ沿ヒ長サ四百三十尺、幅八十尺ノ部分ヲ採掘ス、茲ニ鑛層ハ洪積期礫層ノ間ニ挾在シ厚サ八尺アリ、鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ蘚苔其他ノ植物ノ型痕ヲ保存シ稍粗鬆ナルモノアルモ亦緻密堅硬ニシテ亞金屬光澤ヲ有スルモノアリ、下盤ヲナセル礫層ハ鐵分多ク之ニ浸潤シ赤褐色ノ鐵質角礫岩ヲナセリ、中部上段モ亦既ニ大部分採掘シ盡サレ僅ニ東部ノ小域ヲ殘スノミ、現採掘場ニ就テ見ルニ鑛床賦存ノ状態ハ第九圖ニ示スカ如クニシテ鑛層ノ厚サ二十尺ニ達ス、鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ概ネ緻密、堅硬ニシテ良質ナリ
(二) 北部ノ鑛床 ハ中部上段ノ北ニ隣接シ南北千八百尺、東西百五十尺乃至四百二十尺ノ地域ニ擴カリ南部ノ百五十尺ニ縮迫セル附近ヲ境トシテ上段及下段ニ區分ス

下段ノ鑛床ハ約十二萬平方尺(三千三百五十坪)ノ面積ヲ占メ其過半ハ既ニ採掘セラレタリ、現時ノ採掘場ニ於テハ鑛石ハ洪積期礫層ノ間ニ挾在シ厚サ六尺アリ、下盤ニハ時ニ一二尺ノ粘土層アルコトアリ、鑛石ハ上鑛、中鑛、下鑛ニ分ツヲ得ヘク上鑛ハ堅硬緻密ニシテ中鑛ハ稍柔軟ナリ、又礫層中ニ浸潤セルモノ、内含鐵量多キ部分アリテ上鑛及中鑛ト共ニ採掘セラル、試錐ノ結果ニ據ルニ鑛床ノ未採掘區域ハ約五萬六千六百平方尺(千五百七十坪)ニシテ其厚サ平均七尺ナリ、而シテ上鑛及中鑛ハ全鑛量ノ六割ヲ下ラサルヘク四割ハ下鑛ナリ

上段ハ現時漸ク採掘ニ著手セシノミニシテ未タ鑛床ニ達セス又露頭ノ見ルヘキモノナキモ試錐ノ結果ニ據レハ鑛床ハ南北千二百尺、幅平均三百尺ニ互リ約三十七萬四千九百平方尺(一萬四百坪)ノ面積ヲ領ス、表土ハ五尺乃至四十五尺ニシテ平均十五尺アリ、鑛層ハ粘土又ハ礫層ノ間或ハ是等兩層ノ間ニ挾在シ厚サハ南部及中部ニ厚ク北部ニ菲薄ナリ、中部ニハ五十尺ニ達スル處アリ、鑛層ハ往々十尺内外ノ粘土ヲ挾

有ス、茲ニ鑛石十七立方尺ノ重サヲ一噸トシ、之ニヨリ計算スルニ鑛量ハ三十萬八千七百噸ナリトス、而シテ上鑛及中鑛ハ全鑛量ノ約六割ヲ占メ四割ハ下鑛ナリ

(三)南部ノ鑛床ハ虻田市街ノ東南東六百米ヲ距テ低平ナル塔段地ニ賦存ス、鑛層ハ浮石質粘土ノ間又ハ之ト火山灰トノ間ニ挾在シテ西北西十度ニ傾斜シ表土ハ平均十四尺アリ、鑛床賦存ノ状態ハ第十圖及第七版ニヨリテ略ホ之ヲ知ルヲ得ヘシ、第十九號ヨリ第三十六號ニ至ル各試錐地ニ於ケル表土及鑛層ノ厚サハ左ノ如シ

試錐番號	表土厚サ(尺)	鑛層厚サ(尺)	試錐番號	表土厚サ(尺)	鑛層厚サ(尺)
第十九號	一〇・六	八・五	第二十二號	一一・〇	六・〇
第二十號	二三・〇	一一・五	第二十三號	一二・〇	〇・三
第二十一號	一三・〇	八・五	第二十四號	一七・〇	二・五

第二十五號	一七〇〇	一・五	第三十一號	一五・六	一〇〇
第二十六號	二一〇〇	一・〇	第三十二號	一三・〇	六〇
第二十七號	一六・五	五・五	第三十三號	二〇・〇	五〇
第二十八號	一一・〇	六・〇	第三十四號	一八・〇	五・五
第二十九號	八・〇	四・五	第三十五號	一八・〇	四・五
第三十號	五・〇	七・〇	第三十六號	二一・〇	四・〇

鑛石ハ暗褐色ヲ呈シ堅硬ニシテ緻密ノモノト稍多孔質ノモノトアリ、現採鑛場ニ於テハ上部約一尺ハ徑一二寸ノ豆鐵鑛ニシテ粘土ト交雜シ、其下二三尺ハ緻密ノ鑛石ニシテ板狀ニ剝離シ易シ、最下部二三尺ハ稍多孔質ニシテ塊狀ヲナス、又下盤ヲナセル火山灰中ニ鐵分ノ浸潤セルモノアルモ品位劣等ナリ
鑛床賦存ノ區域ハ試錐ノ結果ニ徴スルニ頗ル不規則ノ形ヲナシ長サ

千二百尺アリ、幅ハ北東部ニテハ五六百尺ナルモ南西方ニ次第ニ狭ク面積ハ四十二萬九千平方尺(約一萬一千九百坪)ナリトス、厚サハ十二尺ニ達スル處アルモ平均四尺ト見ルヲ適當トスヘク、鑛石十七立方尺ノ重サヲ一噸トシ之ニヨリ計算スルニ鑛量約十萬一千噸ナリトス、此中上鑛及中鑛ハ其七割ヲ占メ三割ハ下鑛ナリ、本鑛床ハ大正六年十月以來既ニ約二萬五千噸ノ鑛石ヲ採掘セリト云フ
以上三區域ノ外中部、南部間ニ於テ數十箇處ニ試錐シ探鑛セシモノモ鑛床ニ會セサリシト云フ、以上ノ調査ニ基キ本鑛山ノ鑛量ヲ計算セハ左ノ如シ

區	域	鑛床面積 (平方尺)	同 平均厚サ (尺)	同 容積 (立方尺)	同 重量 (噸)
中部	下段	一五九、六〇〇	一〇・〇	一、五九六、〇〇〇	九三、八八〇
同	上段	一五七、六〇〇	一〇・〇	一、五七六、〇〇〇	九〇、九四〇
北部	下段	一一〇、〇〇〇	六・〇	七二〇、〇〇〇	四二、三五〇

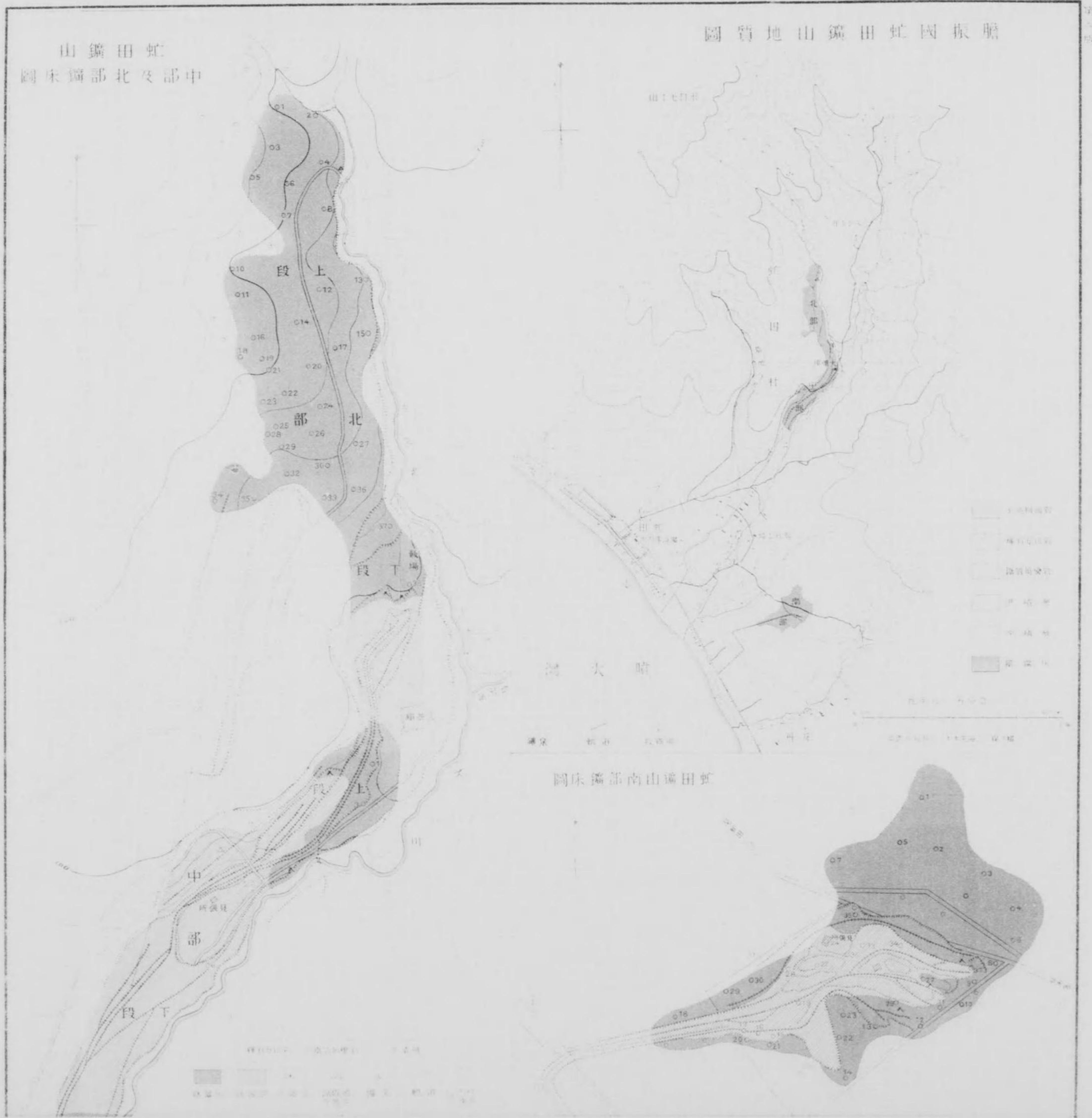
北 部 上 段	三 七 四 、 九 〇 〇	一 四 〇	五 、 二 四 八 、 六 〇 〇	三 〇 八 、 七 四 〇
南 部	四 二 九 、 〇 〇 〇	四 〇	一 、 七 一 六 、 〇 〇 〇	一 〇 〇 、 九 四 〇
合 計	一 、 二 四 一 、 一 〇 〇		一 〇 八 、 五 六 六 、 〇 〇 〇	六 三 六 、 八 五 〇

本鑛山ハ開發以來約二十萬噸ノ鑛石ヲ產出セリ
本所分析係ニ於テ、採取セル鑛石ヲ試驗セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

鑛 石 別	硅 酸	銅	鐵	滿 俺 「 チ タ ニ ウ ム 」	磷	硫 黃	灼 熱 減 量	
中 部 下 段 河 岸	三・六八	現存セス	五四・〇三	現存セス	現存セス	痕 跡	〇・三一	一八・七七
北 部 下 段	四・一二	同	五三・六五	同	同	〇・〇二	〇・一七	一九・七五
南 部 板 狀 ノ モ ノ	六・六八	同	五二・〇八	同	同	〇・〇二	〇・一三	一八・一〇
同 礫 狀 ノ モ ノ	八・四〇	同	四九・五六	同	同	〇・〇八	〇・一五	一九・一九

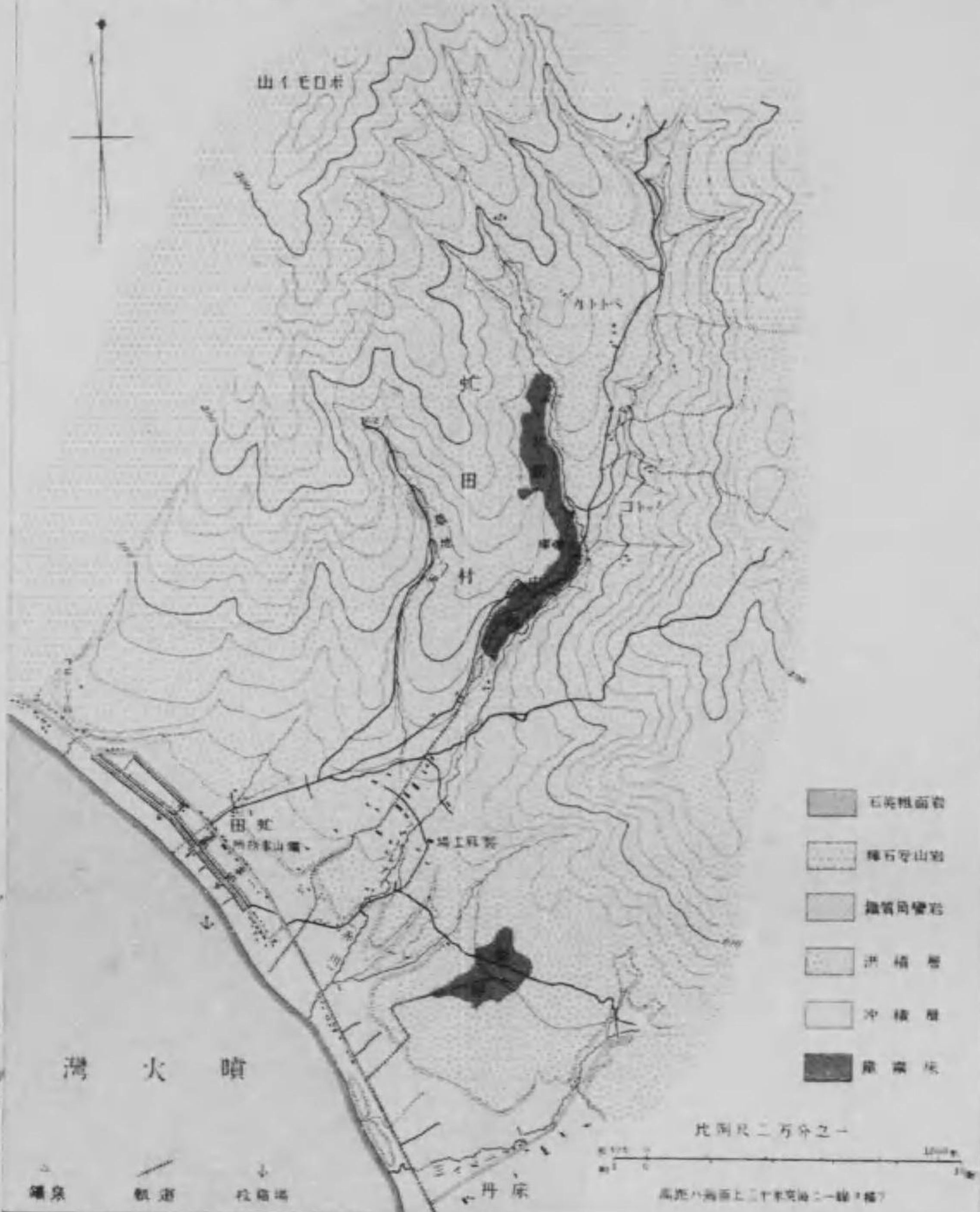
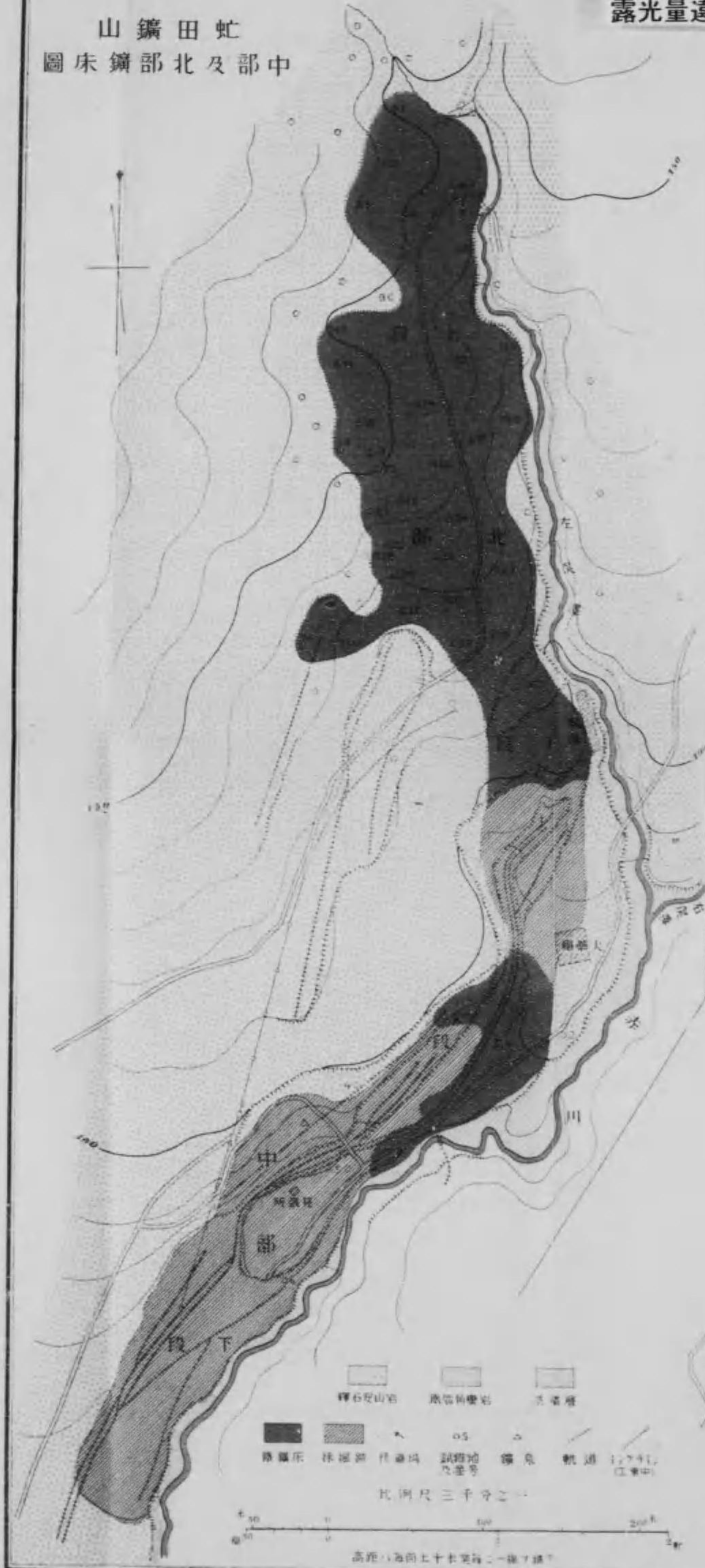
(四) 結 章

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

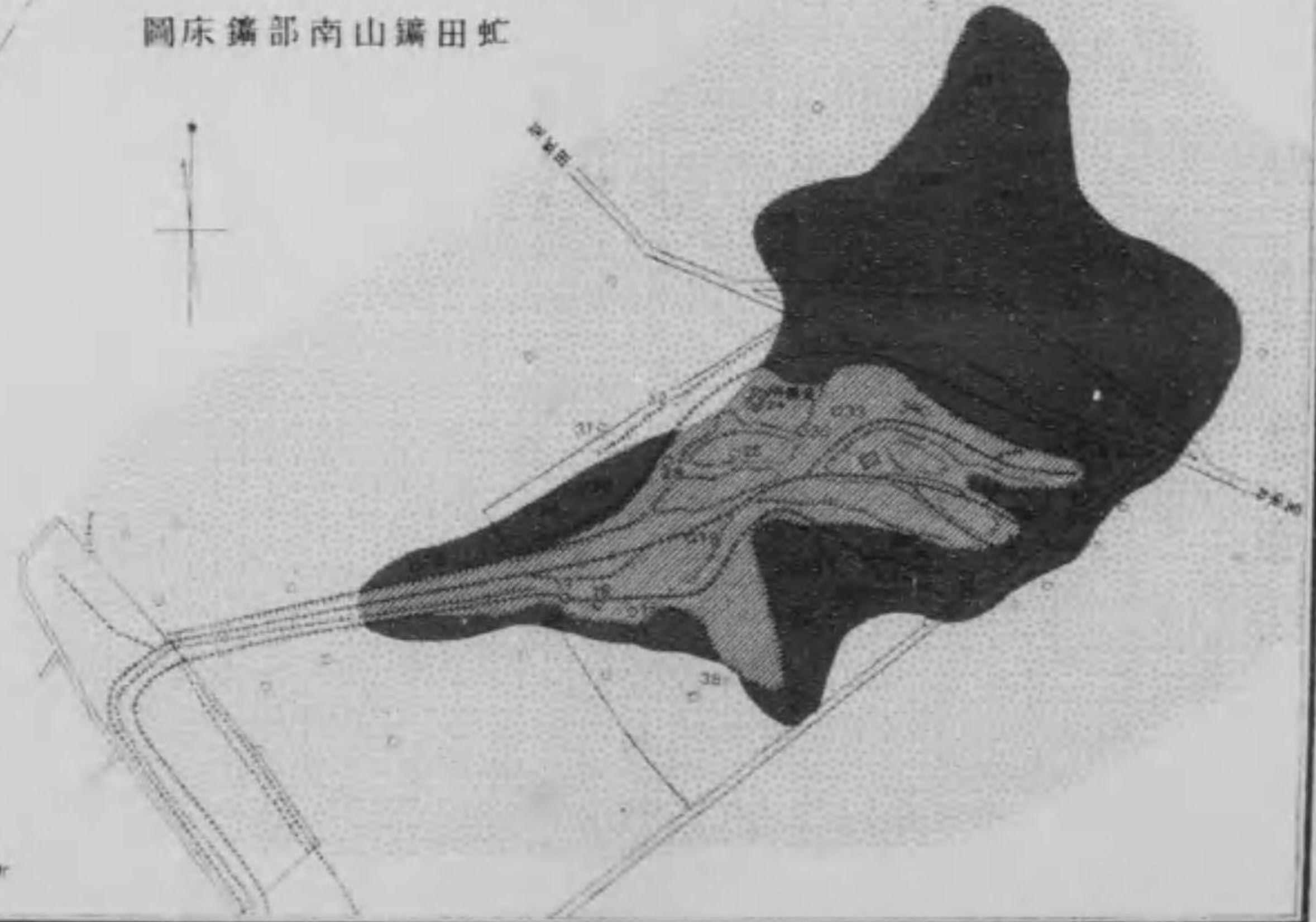


露光量違いの為重複撮影 圖質地山鑛田虻國振膽

山鑛田虻
圖床鑛部北及部中



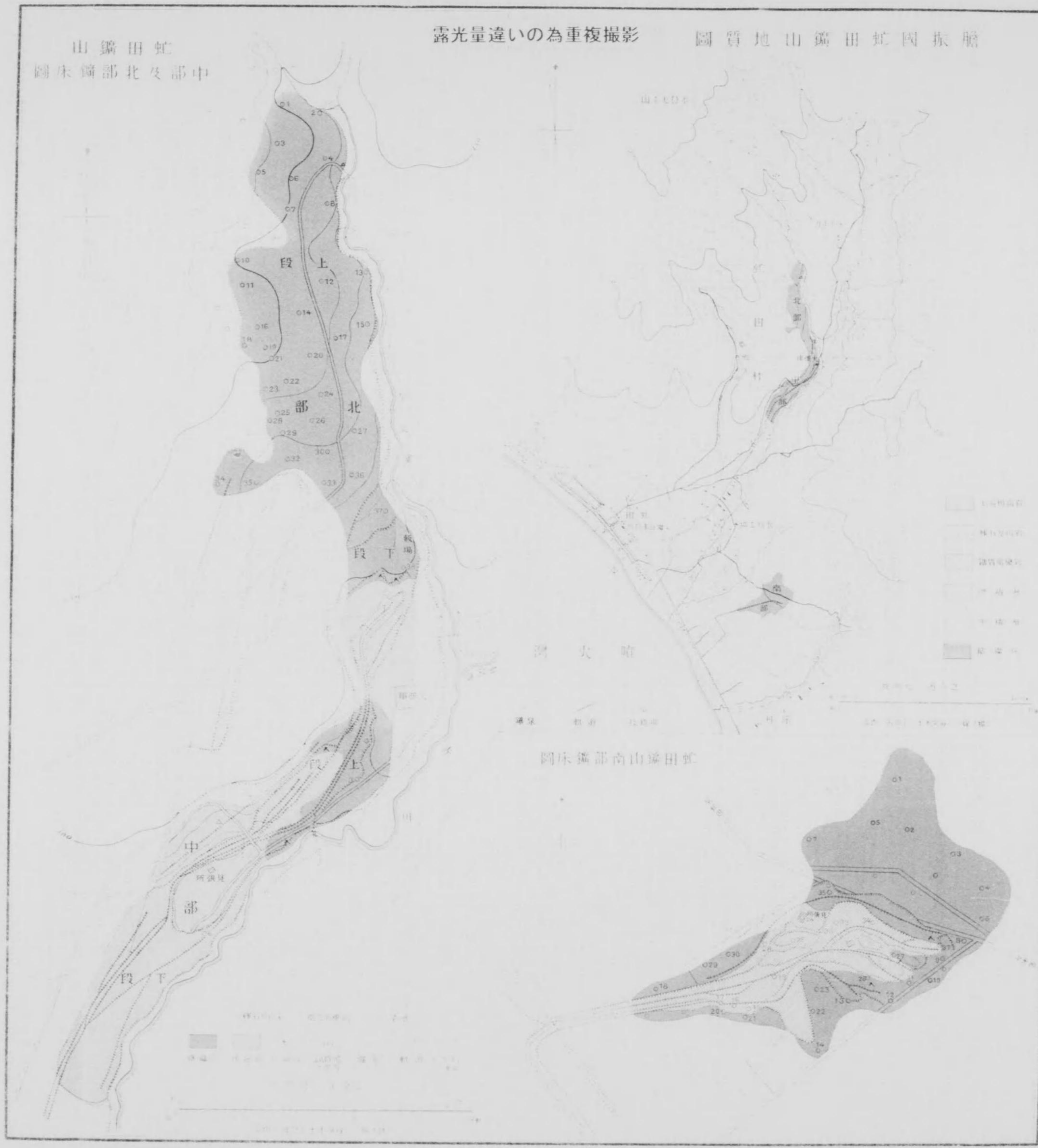
圖床鑛部南山鑛田虻



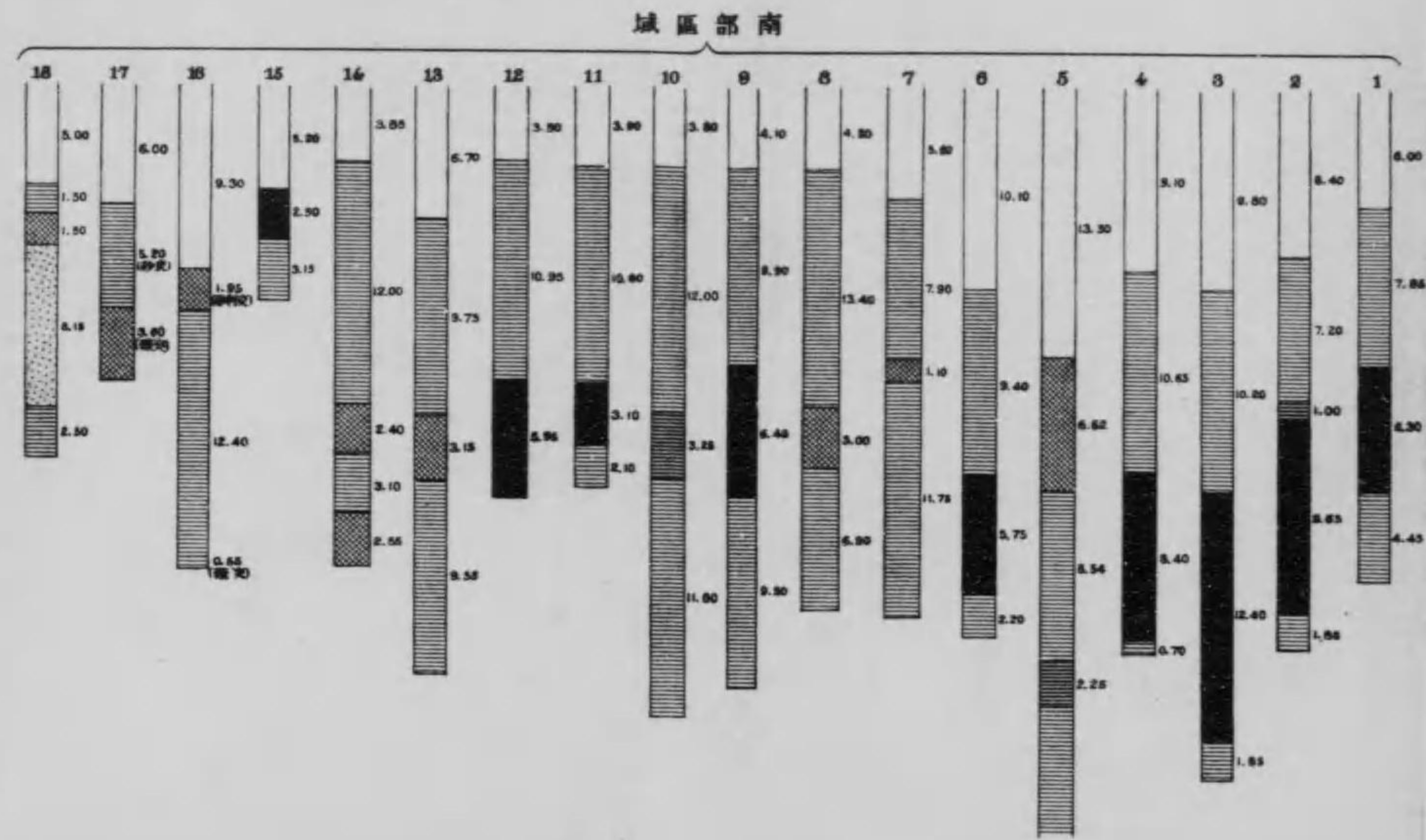
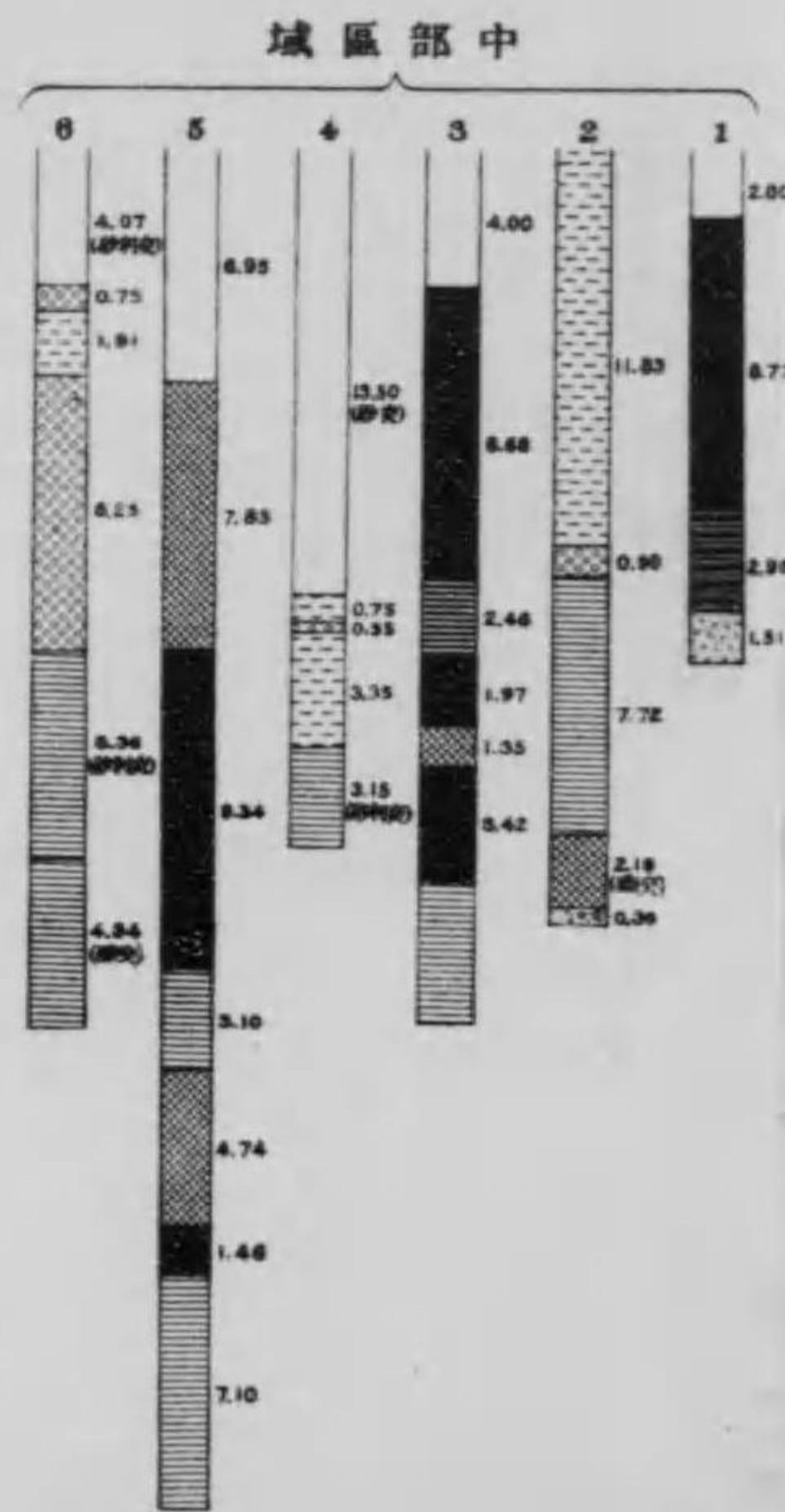
露光量違いの為重複撮影

國振虻田山質地圖

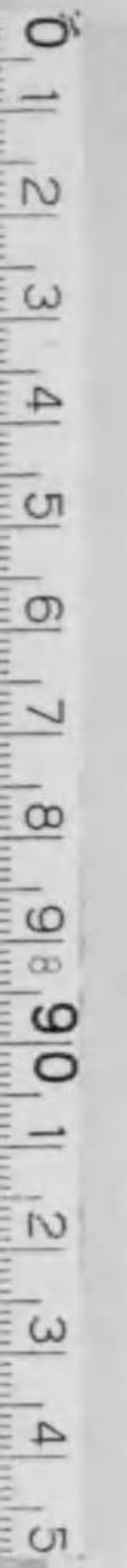
虻田山
中部及北部鑛床圖



圖面斷狀柱床鑛山鑛田虻國振膽
 一之分百尺縮



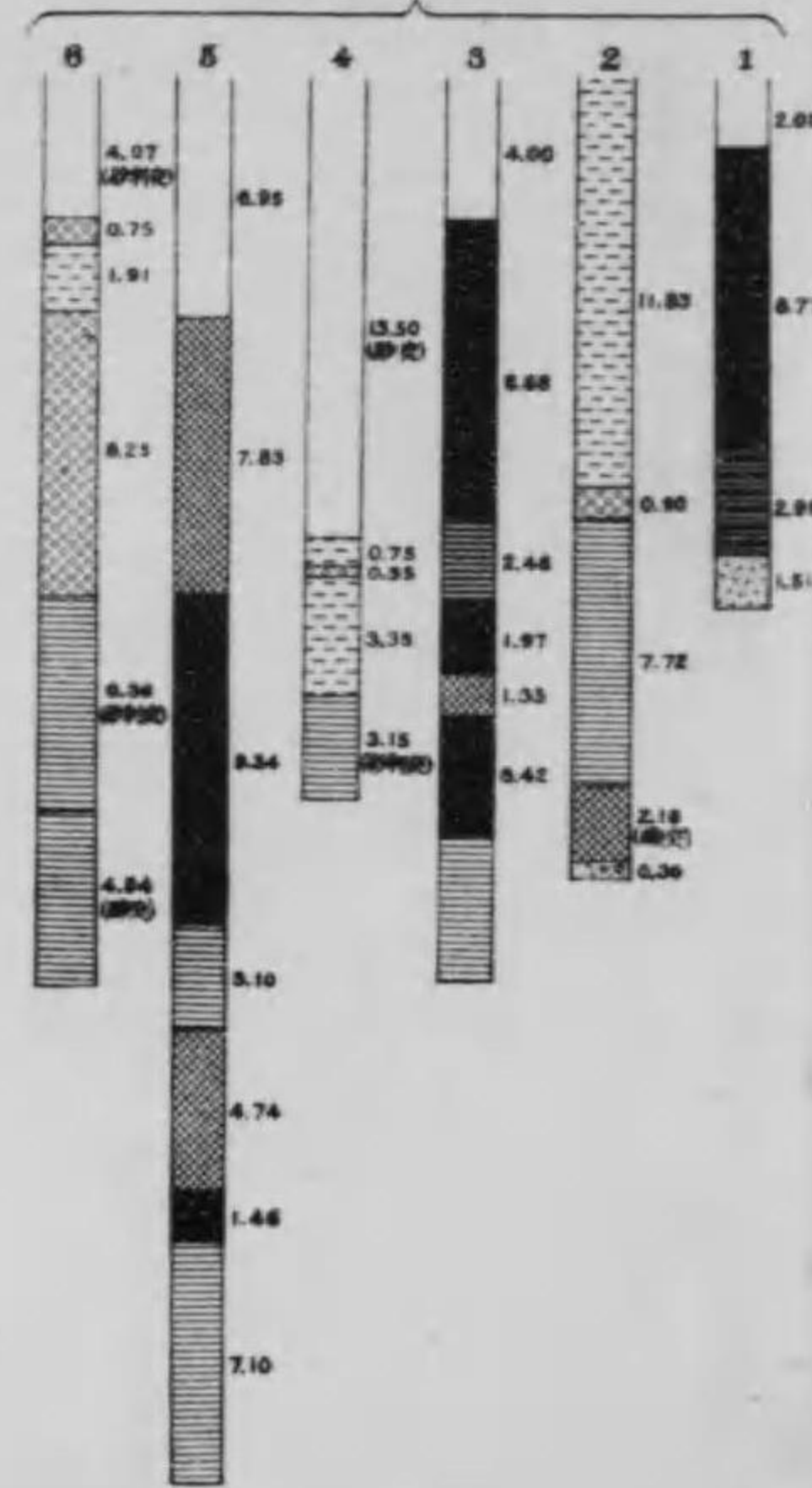
第七版



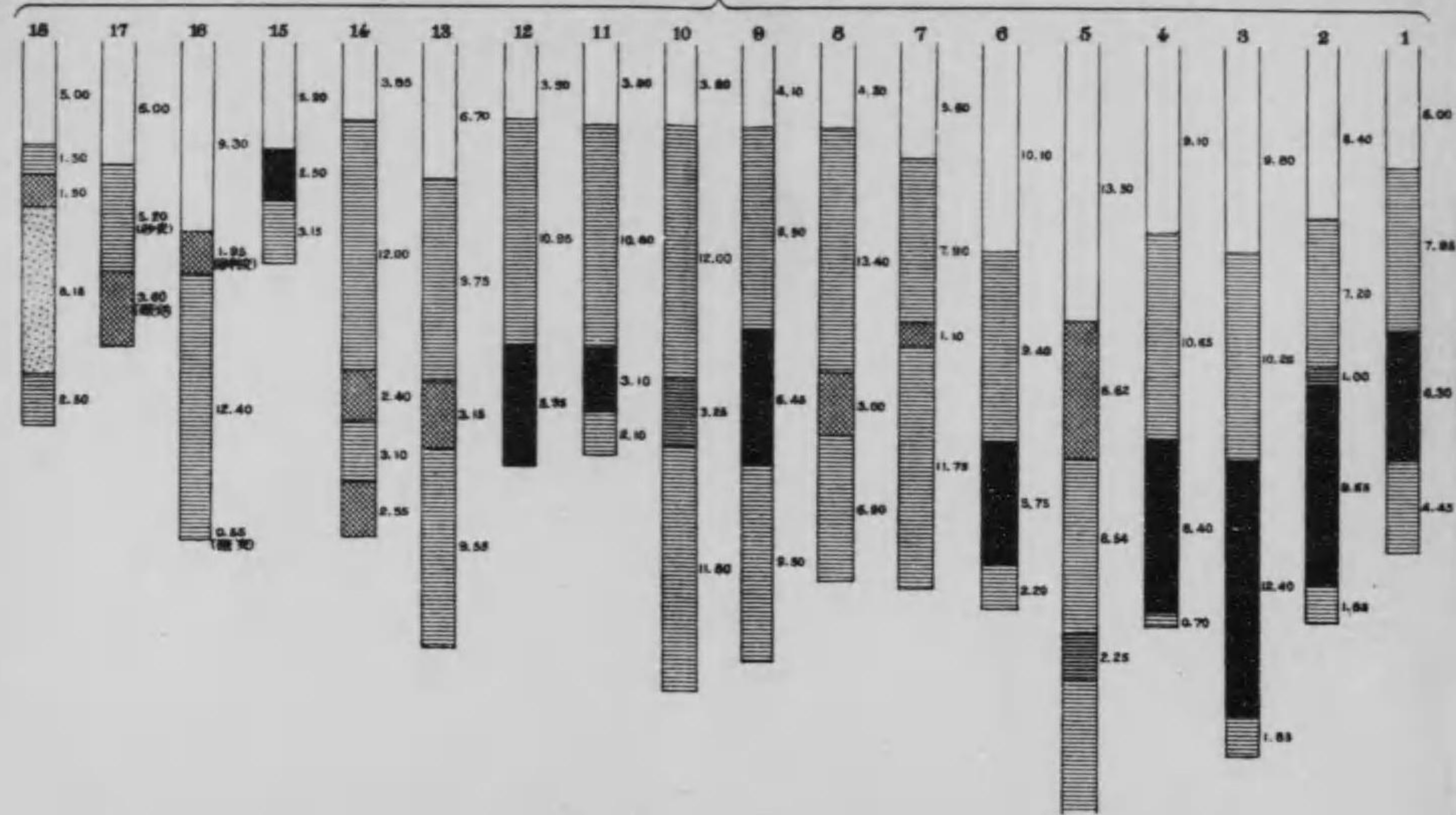
圖面斷狀柱床鑛山鑛田虻國振膽

一之分百尺縮

城區部中



城區部南



城區部北



土壤
 礫文リ粘土
 礫石/破片
 3 含ム粘土
 粘土
 鐵分/浸潤
 七ル粘土
 礫岩
 膠結物中ニ鐵分
 / 浸潤セム礫岩
 下礫
 中礫
 上礫
 35 試維番號
 2.36 地層及礫層ノ厚サ(尺)

本鑛山ハ明治三十八年開發セラレ爾來盛衰アリ、或ハ數次事業ヲ中止セシコトアリシモ大正二年以後ハ繼續稼行シ、偶々時局ニ際シ鐵價ノ暴騰ニヨリ事業頓ニ盛況ニ向ヒ現時約六百名ノ坑夫、雜夫從業セリ鑛量ハ中部、北部及南部ノ三區域ヲ合シ約六十三萬噸アリ、此内中部ノ殆ト全部、北部下段ノ過半及南部ノ一部ハ既ニ採掘シ盡サレ其鑛量約二十萬噸ナルヲ以テ殘存鑛量ハ約四十餘萬噸ナルヘシ

十 鑛床ノ成因

以上記述セル所ヲ綜合スルニ膽振國處々ニ產出スル褐鐵鑛ハ總テ略ホ同一ノ鑛床狀態ヲナシテ賦存ス、即チ左ノ如シ

- 一、鑛床ハ山地ノ斜面、臺地又ハ平地ニ賦存ス
- 二、鑛床ハ第四紀層、石英粗面岩、安山岩或ハ其集塊岩又ハ凝灰岩ノ地域ニ賦存シ、或ハ第四紀層ノ間ニ挾在シ或ハ岩石ヲ被覆シ或ハ岩石中ニ鐵分ノ浸潤セルモノナリ

三、鑛床ハ多ク河岸ニ賦存シテ狹長ナル地域ヲ領スルモノ多キモ又蛇田鑛山南部ノ鑛床ノ如ク現時ハ河流ト關係ナク不規則形ノ區域ヲ占ムルモノアリ、厚サハ數十尺ニ達スル處アルモ概ネ不齊ニシテ變化多ク縁邊ニ尖滅スル傾向アリ、表土ハ火山岩屑ニ被ハル、モノハ概シテ厚ク殊ニ加留々壽、太刀川兩鑛山ニ於テハ數十尺ニ達スルモ他ノ場合ニ於テハ概ネ菲薄ナリ

四、鑛床附近ニハ含鐵冷泉ノ湧出セル處又ハ嘗テ湧出セリト認ム可キ處アリテ附近ニ柔軟粗鬆ナル褐鐵鑛ヲ沈澱セリ、「フーレシラウヱイ」、德舜瞥等ニ於テハ其上ニ熊笹、苔蘚其他雜草繁茂セリ、又河床ノ砂礫ハ水酸化鐵ノ皮膜ニ被ハレ褐色ヲ呈スルコト多シ

五、鑛石ハ暗褐色、赤褐色又ハ黃褐色ヲ呈シ、檜、熊笹等ノ樹幹、枝葉或ハ苔類ノ化石ヲ保存セルモノアリ、組織ハ緻密堅硬ニシテ亞金屬光澤ヲ有スルモノ、粗鬆ナルモノ、又ハ土狀ノモノ等アリ、構造ハ均質ナルモノ、角蝟狀ノモノ、豆粒狀ノモノアリ

六、鑛石ノ含鐵量ハ上鑛ニ於テ百分中五十以上ニシテ蛇田鑛山ニ於ケル五四・〇三ヲ最上トス、硅酸分ハ上鑛ニ於テ〇・七乃至七・〇ニシテ品質劣等ナルモノニ於テハ其量著シク増加ス、「チタニウム」ハ現存セサルヲ普通トシ若シアルモ〇・三ヲ超エス、滿俺亦略ホ同様ニシテ下鑛ニ於テ〇・四九以下ヲ含有セリ、磷ハ現存セサルヲ普通トシ、若シアルモ〇・〇五内外ニシテ〇・五三ヲ限度トス、硫黃ハ〇・一乃至〇・六ヲ普通トス

是ニ由テ之ヲ觀ルニ調査區域ノ鐵鑛床ハ孰レモ鑛泉ノ沈澱物ニシテ鑛層ニ屬ス、蓋シ鑛床ヲ生成セル鑛泉ハ孰レモ鐵及硫黃ヲ含有セル炭酸泉ニシテ其湧出スルヤ硫黃ハ硫化水素トナリテ發散シ鐵ハ重炭酸鐵トシテ溶存シ空氣中ノ酸素ニ觸レ又ハ苔蘚其他有機物ニ働カレテ水酸化鐵トナリ鑛泉ノ流路ニ沈澱シ或ハ岩石ヲ被ヒ或ハ集塊岩、砂礫等ニ浸潤シ均質、角蝟狀、豆粒狀等ノ構造ヲ有スル鐵鑛ヲ生成セシモノナルヘシ、斯クシテ成生セラレタル鑛床ハ概シテ略ホ水平ニ沈積シ或

ハ地形ニ一致シテ傾斜スルコト當然ナリ、而シテ現時處々ニ湧出スル
鑛泉ハ蓋シ往昔鑛床ヲ成生セシモノ、餘勢ヲ示スモノナルヘシ

大正九年二月廿三日印刷
大正九年二月廿六日發行

著作權所有

農 商 務 省

印刷者

東京市神田區通新石町三番地

吾 妻 菊 三 郎

印刷所

東京市神田區通新石町三番地

陽 堂

發賣所

東京市神田區通新石町三番地

陽 堂

電話 神田九二九番
振替口座東京二三四三六番

終

